

平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書  
(資料編)

令和元年6月  
長崎県公立大学法人

## (資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
1	1	しまなびプログラム	1		
2	16	実践的な教育プログラム	1		
3	24	学部、研究科の学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入方針	2	5	
4	38	長崎県立大学ナンバリングシステム	2		
5	41	進級要件・卒業要件	3		
6	43	奨励賞制度	3		
7	47	新大学院パンフレット	4		
8	55	オープンキャンパスウィークチラシ	4		
9	59	アセスメント・ポリシー	5		
10	60	長崎県立大学ディプロマ・ポリシー	5		
11	61	ルーブリック	5		
12	62	FD研修会実施状況	5		
13	64	「長崎県立大学やるばいプロジェクト」奨励金交付実績	6		
14	65	就職状況等	7		
15	68	県内就職状況	8		
16	69	交流協定校一覧	9		
17	70	留学生の受入・派遣状況	9		
18	71	入学志願者及び入学者数	10		
19	73	高校生向け講座実施状況	10		
20	88	離島オープンキャンパス概要	10		
21	90	学長裁量研究実績一覧	11	24	
22	93	研究論文数及び学会発表数	12		
23	94	長崎県立大学シーズ集(一部抜粋)	13	14	
24	98	東アジア学術交流フォーラム	13		
25	102	受託研究・共同研究一覧	14		
26	103	公開講座・学術講演会	15	16	
27	109	社会人向け講座(enPiT-pro)	15		
28	111	教員の年齢・性別構成	22		
29	112	長崎県公立大学法人修学支援基金	24		
-	114	用語解説	/		

※ 資料については既存の資料より抜粋し、活用しています。

長崎県の多くの「しま」や地域においては、急激な人口減少や少子高齢化の進行により、地域コミュニティの低下、基幹産業の不振、伝統・文化の衰退など、日本において数年前に生じるであろう問題にいち早く直面しており、課題の解決が急務である。長崎県立大学では、「しま」を佐世保校、シーボルト校（長与町）に次ぐ第3のキャンパスとして位置づけ、「しま」での実践的な体験学習を全学的に導入する。そして、グローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組むことができるグローバル人材育成のため、学長のリーダーシップのもとに地域を志向した教育改革や、地域における教育拠点の中心を担うための学部学科再編に全学的に取り組む。また、大学が「しま」に学んだ成果は、地域における人材育成や産業振興等を通じて地域に還すとともに、地域と大学が連携して、地域の宝（しま）を再生・創造する。

**人材育成**

- 地域を担うボランティアリーダー育成
- 外国語による観光ガイド育成
- 女性人材の育成

**健康増進**

- 生活習慣病、寝たきりの予防
- 食育活動の取組支援
- 安全安心出産と子育て支援

**産業の振興**

- 地域資源を活用した機能性食品開発
- 流通・物流の効率化

**伝統文化の継承**

- 「長崎を学ぶ」講座の実施
- キリスト教関連遺産保全の取組支援

**地域**

しまを知る

- しまの地理
- しまの交通・物流
- しまの歴史
- しまの医療・福祉

しまに学ぶ

大学

地域に還す

地域をつなぐ

地域間の人と物の交流

- 教員・学生のフィードバックを通じた人の交流
- 「しま」の実習を通じた人の交流
- 学生による旅行商品の開発
- モーターツアー・共同物産展等による3市町間の交流

ICTの利活用

- 遠隔講義システム活用
- モバイルラーニングシステム導入

取組事例を県内に普及

大学では

学長のトップマネジメントを強化し、大学の重要課題に的確かつ機動的に対応するために、重要課題毎のプロジェクトチームを編成し、大学改革を推進する。また、研究については、学長の主導のもとしまや長崎の地域課題を重点化する。

全学的にグローバル人材育成を主眼とした地域志向のカリキュラム改革を行い、学部学科再編に取り組む。授業方法にアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学修を促すとともに、モバイルラーニングを導入し学習を支援する。

フィードバック拠点として地域にサテライトキャンパスを設置し、出前講義、eラーニングにより生涯教育・地域協働の人材育成の拠点、子育てや高齢者の居場所としても活用する。

地域では

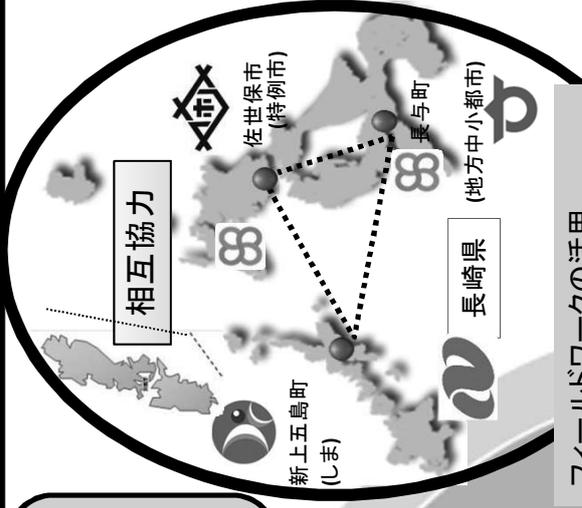
教職員・学生が、全員地域に出向くことにより、交流人口が拡大し活性化する。

大学が地域を「つなげる」役割を果たすとともに、とき（伝統・文化）を理解し、ひと（住民・学生）、もの（特産品等）の動きを活性化させ、地域課題の解決を図る。

広域的な視点で諸課題の解決を図るとともに、成功した取組事例は県内の他地域に普及する。

**フィードバックの活用**

- 「しま」でのフィードバックの必修化
- 課題解決能力の育成
- 「しま」をフィードバックに地域が抱える課題を体験し、解決策を検討
- 就業力・社会人基礎力の養成
- 「しま」をフィードバックに就業力・社会人基礎力、リーダーシップを養成
- カリキュラム改革
- 「しま」関連科目の増





## 学生発表

すべて ▾

すべて ▾

2018年度 ▾

検索

68件

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	五島1	産業（観光）	五島ってこんなところ～自然のヒ・ミ・ツ～	島の環境を実際に数値化した結果に基づいてPRをすることによって五島の認知度を上げ、観光客や移住者の呼び込みができること。	自然環境そのものに目を向けたこと。他の島との比較をすることや、具体的に数値化するところ。PR後の動向予測。
2018	五島2	産業（漁業）	五島に漁師求む！！	漁師が増えたら漁業の衰退に歯止めがかかる可能性が大きくなる。島でとれたものを使った特産品は、島の産業を活性化し、島の魅力の向上につながる。また、それを島外の人々に知ってもらうことで観光客数増加に繋がる。	漁業と観光業（特産品）を掛け合わせることで双方を活気づけようとしており、人口の減少という問題に対して、将来を見据えた計画であるという点。
2018	五島3	産業（観光）（外国人）	オラの町"五島" My town "GOTO"	美しい自然や、食を中心とした特産品、世界遺産候補の協会群を島外にアピールし、観光客増加を狙う。外国人向けのプログラムや情報提供が行われれば新たな観光客層の獲得につながるだけでなく、島に活気をもたらす、経済効果も考えられる。一旦ツアーやイベントなどが企画されうまく機能すれば島のアピールポイントになるだけでなく長期的なスパンでの利益になると見込まれるから。	今までは外国人に向けたアピールが少なかったように思うため、SNS等の宣伝のみならず、島内のアナウンス等も改善する必要がある。
2018	五島4	郷土（郷土）（文化）	広めよう！五島の魅力を再発見～郷土料理から教会まで！～	島内の若者に郷土料理や伝統文化を知ってもらうことで島に愛着が湧き、若者の流出防止につながる。学生目線による魅力の発信により、同年代の若者に知ってもらうキッカケづくりになることで若者の観光客増加につながる。	[相違点] 観光客向けだけではなく、移住希望者や島内の若者に向けて主に発信する [新規性] 食用椿油のアピール 料理そのものだけでなく、店内での出し方やSNS映えるようなものにする
2018	五島1.1	産業（観光）	五島のよか特産品、よか民泊	五島列島の観光客数は平成20年から21年にかけて減少して以来、横ばいになっている。世界遺産や民泊を利用した観光によって観光客の増加を図ることができる。交流人口を増やすことで、定住人口の増加も期待できる。列島の中でもよく知られている五島列島がより有名になることで他の島にも興味を持つ人が増える。椿などの本土にはない魅力を広めることができる。自分たちが島の人と触れあい、感じたことで新たな改善策が出てくる可能性がある。観光客による島の外の視点から新たな島の魅力が見つかることができる。観光客が増えることで島の消費が拡大し、他の産業にも良い影響が広がる。（雇用拡大など）	観光客が増加することによって、島での消費が増加し、他の産業も活性化される。これにより雇用創出にもつながる。島民と島の外の住民との話し合いにより、これまでとは違う新たな改善策が見つかるかもしれない。島の魅力(椿などの島固有の産品)をアピールすることができる。列島の中でも有名な五島が活性化することにより、他の島にも興味を持つ人が出てくるかもしれない。
2018	五島1.2	郷土（郷土）	五島食堂	島の食材を使う郷土料理を作ることで島の魅力を島外の人に伝えやすくなる。	自分たちで郷土料理を作るということで、島外からの視点でどうすれば島外に島の魅力を伝えることができるのか考えること。
2018	五島1.3	産業（観光）	世界へ発信、五島の魅力	島への移住者を増やすことにより産業が活性化され島全体の経済が潤う。また、観光客のさらなる呼び込みにも期待できる	五島の魅力について、SNSを使用したPRを行う 島のツアールート、プランの作成
2018	五島1.4	産業（観光）	GOTO～ここが私のanother sky～	交流人口が増加し、しまにとっての活性化につながる	空き家を古民家カフェとして利用される方に直接インタビューをする。パンフレット作成をし、島の人々が交流する場所に設置する。インスタスポット探し、多くの写真を撮る。

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	五島1.5	産業（漁業）	五島漁業革命！！	漁業就職者が増えることで、五島の産業が活性化されると考える。また、漁業の良さを伝えることで漁業の大切さを再認識できる。漁業関係の就職者の増加にもつながる	実際に漁に出るといふ点 実際に体験した上でPR活動へつなげて行く点
2018	五島1.6	教育（文化）	開こう！五島フューチャー	人口減少が進むなかでこれからの島の将来を見据えた上で、まずは島内の人に自身の島の文化や、歴史、魅了などを知ってもらい、島の魅力を外部へと広めやすくすると共に、将来的に島へのIターンやUターンを期待することができる。	島の外部に向けて発信するための活動ではなく、島内の人たちへ向けた活動を行うこと。特に島の将来を見据え、これからの島を担う子供たちに焦点を当てて情報を発信するところ。
2018	五島1.7	産業(観光)(外国人)	五島までイッテQ～奈留島～	島独自の観光資源に関しては、美しい景観など島の人々にとっては当たり前と感じられるであろうことが、若者や外国人を中心に、多くの観光客を呼び込む可能性を秘めている。とりわけ、世界遺産登録を控えた五島にあって、外国人観光客への対策方法を提案していくことは意義深いものになるはずだ。また、多くの観光客が島を訪れることは、島にとっても有益であり、定住してもらおうチャンスにもなりうる。	・今ある観光資源をより多くの人に提案していける点。・インバウンド対策を具体的に提案していく点。
2018	五島1.8	人口（定住）	あなたの声、届けます～島の風に乗せて、五島郵便局「みらい」～	移住者が増える。島の生活を多くの人に知ってもらおう。島の課題が分かり、移住者が島に求めていることを知ることができる。また、移住者にとってのより良い暮らしを島が提供できるようになる。	これまでは、観光客向けのものが主なテーマになっていたが、私たちのテーマでは移住者向けにしている点が相違点である。移住希望者が移住を決断するために必要となる情報や、体験を調査し、提供すること。
2018	対馬1	産業（観光）	おかわり対馬計画	対馬の人しか知らない魅力を伝えたり、観光客がなにを求めているかを調査したりすることで、観光客が対馬で楽しい時間を過ごせて、その評判が広まれば結果的に観光客増加に繋がり、観光収益が増えることによりお金が増え、ホテル（民泊）・農林水産業・特産品の増加・交通面の向上などといった、多くの産業が活性化されるようになって考えた。また、世界のグローバル化が進んでいる中で、国際交流が進んでいくことも非常に重要であると考えた。	今まで、ホームページ上の広告といったデジタル媒体が多かったが、今回はマップやパネル、チラシなどを使用したアナログ媒体を利用することにより、相違点を生み出すことができると考えた。アナログ媒体であれば、小さいサイズにすることも可能であり観光客が必ず通る港や空港に置いたり、また、企業と協力して船や飛行機の中で、配るといったことも可能だと考えられる。他には、日本人のみならず、韓国の観光客との交流を行い、その人々のニーズを調査し、そのことについてPRすればよいと考えた。
2018	対馬2	産業（観光）	対馬流行～知って広げる対馬の魅力～	人口の流出を抑えることができる。島の経済状況が潤うことで島での雇用が増える。島外からの就職者の増加にもつながる。	若者の流出を防ぐことを目的とした第三次産業に取り組む。テレビ放送に取り上げてもらうなど新たな視点から情報を発信することができる。
2018	対馬3	産業(観光)(外国人)	歩いて発見！！比田勝の魅力in対馬	対馬の新しい情報を発信することによって知名度を上げ、リピーターや新しい観光客を増やす。また、そのことによって交流人口が増え、経済を活性化することができる。対馬の暮らしに興味を持ってもらうことで定住のきっかけを作ることができる。	・小規模なマップの作成・対馬の産業アピール、ブランド化・韓国人とのトラブル解消・韓国人にターゲットをしぼる・韓国語対応
2018	対馬1.1	産業(外国人)	国境なき対馬～外国人に選ばれる魅力ある島へ～	外国人労働者に選んでもらえるような島にすることによって、島の産業はもちろん地域の担い手にもなってもらえる点	対象を外国人にするとところ。
2018	対馬1.2	産業（農業）（漁業）	対馬に隠れる魅力発展!!!	産業の担い手を確保し、高齢化の抑制ができる。産業人口の増加により産業を活性化する。	統計データをもとに産業別に人口減少の比較をし、対馬外から若者が集まるような魅力のあるイベントを考え人口問題の解決を目指す。
2018	対馬1.3	産業（観光）	#また行きたくなる対馬	韓国人観光客との言語問題解決。観光客の呼び込みによるしまの活性化。対馬のPR活動。観光客の日本文化に対する理解、マナー向上。	島民と韓国人観光客の満足度の向上。
2018	対馬1.4	産業（観光）	Open the door～対馬の魅力を世界へ～	観光業が盛んになり、外国人観光客への説明に役立つ	外国人向けの取り組み 旬の食材などのアピール

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	対馬1.5	産業（観光）	새 버전 ~新しい視点で対馬を見る~	島の人気がつかない外部目線のマップを作り、島の魅力の再認識を図る。観光客の増加を目指す。リピーターを増やす。	【相違点】・地域を巻き込んだ企画、一つのマップに郷土料理や遺跡などすべての情報を入れ込む・観光客や初めて来た人でも安心して観光できるようなマップ作り(外部目線・観光客目線)【新規性】・スタンプラリー・SNSをつかわない
2018	対馬1.6	産業（特産品）	新！！魅力発見の対馬。目指せ～認知度離島1！！～	SNSで拡散することで、若者たちに対馬の魅力を知ってもらえる。	特産物をSNSを使って拡散する点
2018	壱岐1	産業（観光）	壱岐ALIVE	壱岐の観光客数の推移は、H26年に237,237人であり対馬や五島と比べて少ない。しかし、壱岐には様々な魅力ある観光地がたくさんある。そこで、観光PRを行うことで長崎の離島自体の知名度を上げることにつながる。そして、壱岐の良さや住んだ時の利点を多くの人に知ってもらい住みたいという人を増やして人口増加を促進させ、それに伴って、離島産業の担い手を増やすことにもなると考える。	定住を最終の目的とすることで、観光・郷土資源のアピールと人口増加両方の促進につながるという点。
2018	壱岐2	産業（観光）	壱岐に來ちみ	特に若い年代の観光客の増加により定住者を増やすことを目指す。観光客による島内での消費が増えることで経済面が潤う。新たな観光ルートの開発により、島民が自分の島のよさを新たに発見、再認識してもらい自分の島に誇りを持ってもらい人口流出を防ぐ。また、学生の夏合宿などを利用して島に来る機会や島での生活を体験してもらう機会を増やす。	SNSの活用 夏合宿の誘致 雨天時の観光ルートの開発 大学生向けの観光ルートの開発
2018	壱岐3	産業（観光）	雨でもルンルン♪壱岐さるく	雨の日の観光ルートを開発することで、観光客の足取りをつかむきっかけになるのではないかと考える。	雨の日の観光へのアプローチは、私達をはじめでだと思うので、差別化することができると考える。
2018	壱岐4	産業（観光）	IKISTORY ~歴史と自然の島 壱岐に行きたい~	新しい観光コースを開発し、それを発信することで、壱岐の魅力を伝え壱岐に興味を持ってもらうことができる。それにより観光客が増え、壱岐の経済力が上がった、移住したいと思う人が増えて仕事の担い手を確保したりすることができる、活性化につながる。	壱岐の歴史と自然を同時に取り入れ、また壱岐でしか体験できないことや見ることができないことを観光コースに取り入れようとしている点。壱岐の魅力のほかに自分たちが開発した観光コースを紹介する動画を作る点。
2018	壱岐5	郷土（郷土）（観光）	グルメも人もみんなイキイキ!! 壱岐に行きんしゃい!!	認知度を上げることで観光客数の増加が期待される。また観光客数とともに減少していた観光消費額の増加も期待でき経済の活性化も期待される。そのほかにもレシピ本を作成し、広めることで、壱岐の食文化の継承にもつながる。	若者をターゲットとして壱岐の郷土料理を利用し、しまのPRを行う点。
2018	壱岐1.1	産業（観光）	行きたい壱岐ランドの魅力大発見!	しまで働いている人に直接話を聞くことで交流と体験ができ、魅力を伝えることができる。また、SNSなどを通じた観光PRを強化して、島外の人にも壱岐の魅力を知ってもらう。	1、SNSを用いてしまの魅力を発信。2、実際に移住してきた人たちに意見を聞く。
2018	壱岐1.2	人口（定住）	壱岐をイキイキ大作戦★\(^_^)/	知名度を上げることによって、人口増加と島の活性化につながる。	相違点 他でもなくIターンを重視し、壱岐ならではでしかできないことをする。新規性 現地の人の声やSNSを使った情報提供。

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	壱岐1.3	産業（観光）	IKI photo（壱岐の魅力を伝えよう）	壱岐の市民の不満などを取り入れた上で の観光 壱岐の新たな魅力の発見 新たな 情報発信方法の創出 交流人口の増加 島 の人々の観光に対する意欲の増加 写真 などをSNSを通して、島のPRにもなる	過去の先輩たちの案を見ていると、観光 していくなかで観光客同士で比べあいな がらタクシーなどもしっかりと利用して いるようなものはあまりありませんでし た。島に長い間住んでいる人は多いの で、そういった人たちのおすすめや、自 慢の場所を観光しながらSNSなどを通し て多くの人を知ることができ、また、観 光の楽しみだけでなく自分達の写真が賞 などに選ばれることの嬉しさや、賞品な どもらえるなどのお得なこともあるの で、これらのことから、相違点は、交通 面では、路線バスだけとかではなく幅広 く利用できることと、観光するだけの楽 しみだけにとらわれないことです。写 真グランプリは新しいことではないので 新規性があるわけではないですが、今の 時点で考えていることは、比べあうもの を写真だけにしない、賞を決める際にそ の企画に参加した人や島のひと全員で評 価できる、民泊みたいなこととして、住 民の持つてる車を観光ようとして商売に 使っても良い、第何週目は～歳から～歳 の人たちがIKIPHOTOに参加するなら、 タクシー割引や食事割合などそういった 島ならではのお得な日や週を考える、な どです。まだあるかもしれませんが、新 規性においてはこれから考えていく予定 です
2018	壱岐1.4	産業（観光）	I～壱岐活き K～綺 麗か壱岐に I～行か んばたい!!	要望事項に書いてあるとおり、壱岐は夜 間や雨天時の行く場所がないという声 があり、弱点になっている。その弱点を 克服することで、壱岐の観光業をさら に活性化することができる。	相違点は、滞在型の観光プランの作成 の着眼点として時間帯や天候に着目し た点。そうすることで、天気を気にせ ず壱岐の島のよさを存分に楽しむこと ができるようになる考えた。
2018	壱岐1.5	郷土（観光）	止められない止ま らない夏は壱岐に行き ます。let's go!	島の人に改めて地元の料理のよさに 気づいてもらう。効果的なガイドブ ックを作成することで観光客を増やす。	郷土料理は、島の人たちとの交流に 重点を置いている点。ガイドブック 作成は、「美しい写真」を自分達で 撮影して効果的なものを作ろうとい う点。
2018	壱岐1.6	産業（観光）	壱岐を楽しもう「壱 岐る！」プラン～ 壱岐の魅力を発掘！ 発信！～	1、産業の良さや課題を見つけること で、島の後継者不足の解決に繋げる ため 2、空き家を新たなコミュニティに変 えるなど、交流の場を設けることで、 島の活性化に繋がるため 3、新たな観光コースを見つけること で、今後の観光客増加に繋がるため	1、見たり聞いたりするだけでなく、 体験を通して、その産業の良さや課 題を見つける。2、新たなコミュニ ティの場としての活用。福祉施設 やシェアハウスに利用する。3、 体験型観光コースは今まで考 えられていなかった。交通手段 を含めた新たな観光コースの 発見。
2018	壱岐1.7	産業（観光）	雨でも壱岐(行き)た い、冬にも壱岐(行き) たい！～まだ 見たことない壱岐が そ	観光客を増加させることによって雇 用の担い手を増加させることにつ ながること。	冬場・雨天時の観光客数を 目を向けて、どの季節でも どの天候でも楽しめる、 楽しかった、また来たい と思わせられるような イベントや観光コース を考えること。
2018	壱岐1.8	その他(ゼミ での活用)	壱岐でイキイキ！今 年のゼミ合宿は壱岐 で決まり！	壱岐市は日本の成り立ちを語るに おいて壱岐市を除いてはできない。 そして、壱岐市自体が古代の博物 館と呼ばれるほど歴史的に重要な スポットが多い。そして、夏には イカ漁や冬には沖でブリやマグ ロといった魚が取られているため、 年中新鮮な海鮮料理を食べること ができる。また、パワースポット と呼ばれるスポットも多々あり、 海水浴場のトレッキングや秋には 島間での遊覧船など魅力がたく さんある。このように歴史的な地 であることやレジャー、食事が充 実しているためゼミ合宿に来て もらえる要素はあると考える。 壱岐市としては、ゼミ合宿に 来てもらうことで壱岐のことを 知ってもらうことやその後大 学生が旅行先として選ぶこと などメリットが多々ある。	ゼミ合宿の先として選んで もらう案は中間発表ではな かった。そして、自分の 大学の教授に勤めるという 点では他の班の観光客を ターゲットにしている点 で相違性を見出した。

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	新上五島1	産業（観光）	新come in 五島！！～マップで新上五島の美力を伝え隊～	若い年代の観光客が増加することで、SNS等における情報拡散が期待でき観光客増加が見込まれる。また、実際に新上五島を訪れてもらうことで移住を検討するきっかけにってもらう。夜の時間帯の観光プランも推進したマップにすることで日帰り客を宿泊客に変え、主に宿泊施設における経済効果が期待できる。	マップにQRコードを活用し、WebサイトやSNSと連携してより興味を持ってもらえるようにする。昼や夜の時間帯、グルメや体験施設などさまざまな分野を盛り込んだ選択形式のマップにする点。
2018	新上五島2	産業（観光）	チャリってゴッド五島	観光客の増加とサイクリングを通してしまをしてもらう。しまからの要望にこたえるしまのイベントとしてサイクリングツアーを確率することで長期にわたってしまのアピールができる	グループ、子連れ向けに視点を向けたこと。そのために、電動機付き自転車のレンタルを増やしていただくように市役所に提案する。
2018	新上五島3	産業（観光）	Go To 上 GoTo! 巡ってみんね!	観光客数を増加させることで、しまの良さを知る人が増え、知名度も上がる。また、観光に来た人がしまの現状を知り、さらに良くしたいと考える人が増える可能性もある。しまの人は観光客が増えることで、しまの人だけでなく、島外の人からの意見を取り入れたりすることができる。	これまでは、テーマとして観光マップを作成することを掲げていたが、それを到達目標へと変更した。旅行を計画している人は、マップがあることで、様々な交通手段で観光地を巡れるということを知り、旅行に来る人が増えると考えた。また、情報を新上五島の人と共同で発信していくことで、しまなびの期間だけでなく、継続して行えると考えた。
2018	新上五島1.1	産業（観光）	新上五島 Hot Spot ～もっと、ずっと、新たな発見を～	島の魅力を発信する事で観光客増加する	観光マップとSNSを融合する。実際に島民や、観光協会の人に話を聞き記事にして、自分達で観光もして、写真を撮りアップする。
2018	新上五島1.2	情報（情報）	上五島活性化プラン～食・遊～	食：マップで検索しても出てこない・情報が少ない店舗の救済 遊：生産性のない空き家の活用による、資源化	食：既存の店舗（ある程度有名な店舗）の販促ではなく、有名ではない店舗の掘り出し、という点 遊：空き家というどうしようもないものを扱うことによる意外性
2018	新上五島1.3	郷土（観光）	lets go 食べて楽しむ新上五島	島の郷土料理を目指して観光客が増える。	いままで、食を通じてのことがあまり前例がなかったので、自分たちで切り開いていける。
2018	新上五島1.4	産業（観光）	Bicycle×New上五島～サイクリングで知る新上五島の魅力～	新上五島の雇用の増加、サイクリングを通して島の人々の健康増進や様々なイベントを通して外国人観光客などの増加を目指し観光業の更なる発展や若者流出防止を図る。	外国人などに目を向けて魅力発信をすること、世界文化遺産の情報をパンフレット等で新たに発信する。
2018	新上五島1.5	産業（観光）	知ってみらんね！！新上五島のよかとこ・いいとこ取りの満喫ツアープラン	・ツアープランを作成することで観光客を増やすことができる。そうなることで消費や雇用が上がり、経済が活性化し今島が抱えている若者の流出を阻止できる。・私たち大学生がプランを考慮することで島の新たな若者の視点を獲得することができる。また、そのことが島の新たな発展にもつながる。・ツアーにすることで島の魅力が効率的に伝わる。	*相違点* ・年代別、対象別にツアープランを作成すること *新規性* ・ツアーにインスタ映え、SNS映えスポットを入れること ・ツアーのプランを若者目線で考えること
2018	新上五島1.6	産業（観光）	二泊三日で島の魅力大発見 島を知り島を愛しそして発信	日帰りが多いため、ツアー形式にすることによって宿泊費とか飲食費を消費するため、日帰りよりはお金を落としてもらえる。	これまでのツアーモデル（内容）はその島の観光地をただ回る記述が多かった。しかし、天候に左右されるケースがあるため、私たちは晴れと雨プランに分けました。まずは自分たちがしまを一番好きになること。
2018	新上五島1.7	産業（観光）（イベント）	引き出せ！磨け！輝け！新上五島の魅力と可能性～忘れられない体験をあなたに～	島の改善点を把握することによって、より観光客の満足度を高めることが期待できる。	生の声を反映させた島の企画
2018	新上五島1.8	産業（漁業）	若者が何度も行きたくなるような五島に再び三度新上！！	私たちの活動を通して新上五島の美しい海の魅力を島外に伝え、また、より気軽に海での体験が出来るようにして、観光客増加に繋げ、島の活性化を図る。	ネットのサイトなどで調べてみると、新上五島といえば世界遺産を目指している教会をPRしているものが多いのに対し、私たちは、もっと自然の海の美しさや、マリンスポーツ体験ができることなどを中心に活動をしていくこと。

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	宇久1	産業（観光）	うくうおーく	宇久島の認知度を向上することによって、観光客を増員することができること。宇久島を知るきっかけになり、知名度を少しでもあげられること。	相違点 紹介内容の明確化。（内容の説明など）。新規性 新ページの設立、hpとの連動。民泊の紹介。
2018	宇久2	産業（観光）	宇久のいいね！をたくさん拡散！	宇久について知る人が少しでも増えることで、観光客が増加し、島のこれまで以上の発展につながる。	・SNSで発信することに加え、「いいね」などの評価をもらうという目に見える形で情報が拡散されていることを確認するという点 ・宇久の良いところを発信するだけでなく問題点も知ってもらい、ただ観光客を増やすだけでなく、何かできることを見つけて島のために活動したいと思って島を訪れる人も増やそうと考えている点
2018	宇久3	産業（観光）	ウキウキ ワクワク うくうく！ 宇久のグルメをたのしもう！！	グルメガイドができることで、観光だけでなく他の視点からの宇久島を知ってもらえるようになる。	グルメに特化したガイドブックがなかった。
2018	宇久4	産業（観光）	宇久島まるごとたいけん！しまっ子とたいけん隊と夏休み	・島に興味を持って将来島に関わりを持つようとする人が出てくるかもしれない ・島内のことを知り、友達や親戚など身の回りに情報発信することで、島の認知度が高まる。 ・島内の子ども島外の子どもとの交流を通して、コミュニケーションの機会を増やせる。	対象として、子どもに焦点をしばったところ。
2018	宇久1.1	産業（観光）	新しい産業の発見・発信 ～宇久をもっと魅力的なしまに～	島以外の人達に宇久の良さを伝える事で、観光客や移住者の増加が望める。	今までにない新しいものを使ってPRするという点。また、既存のものとも組み合わせるとPRするというのも考えている。
2018	宇久1.2	産業（観光）	見せる、広がる、宇久に宇久絶景！	知名度が上がる。	ガイドブックをもっと簡易的に分かりやすくすること。
2018	宇久1.3	産業（観光）	Go UKU Go!!	知名度を上げることで、宇久島の魅力を島外の人にも知ってもらえることができる。パンフレットなどで、宇久島を知ってもらうことで観光客数や移住者の増加が見込める。また、今まで島の存在すら知らなかった人も行ってみようかなという気持ちにさせることも可能である。これは宇久島の人工減少問題を解決する糸口になると私たちは考える。	去年作成されたフォトブックとは違い、私たちが作成するパンフレットには多くの相違点がある。例えば、しまの人の声を入れる点、体験している姿を写真に残すことができる点、学生目線で手作りのものを作ることができる点、体験したことへの感想などが残せる点などがある。また、新規性としては、島外の人から作ることや手書きであるということが挙げられる。
2018	宇久1.4	産業（観光）	ウキウキとワクワクの島！宇久！	より良さを知ってもらえる。一緒に気づき、良さを発信できる。	これまで、同じような取り組みがあったかもしれないけど、さらに深く広く知り、発信したいと考える。
2018	小値賀1	産業（観光）	雨二モ負ケナイ小値賀ジマ！	・体験を通して島の知名度をSNSなどを使って上げ、観光客を増やす。 ・島外の人々に、小値賀にも天候に左右されことなく観光を楽しめる場所があるということを知ってもらったり、リピーターを増やす。	・基本的に行動が制限されそうな雨の日における観光計画を考えている点。 ・小値賀で楽しい思い出を作ってもらい、観光客に楽しんでもらうことによりリピーターを増やす点。 ・アクティブな活動だけでなく伝統的な料理や特産品についての体験を考えている点。
2018	小値賀1.1	産業（観光）	小値賀マスターに俺はなる！お前もなれ！	小値賀島内の人口が減少し、島内の経済力も低下していると考えられる。そのため、今回のしまなびで既存の観光のPRを充実させ、島外の人々に小値賀の良さを認知してもらおう。そして、実際に小値賀を観光してもらうことで島の産業の発展を促し、島内全体の経済を活性化ことや、島外の人に小値賀への移住・定住を考えるきっかけを与えることにもつながってくると思う	・新しいものをつくる ・観光客を定住させる ・他の島との協力を行う ・SNSの活用 ・ポスターをつくる ・アンケートをとる
2018	小値賀1.2	郷土(情報)(文化)	小値賀の魅力伝える会 SNSで発信！！よかとこ小値賀 小さな島が持つ大きな魅力	島外の間人である僕たちが小値賀をPRしたり、郷土について調査することで小値賀の島の人たちが地元魅力を再確認でき、移住者の人たちにより深く土地の信仰や風潮を教えることができるので、移住者の人たちにとって馴染みやすくなる考えたから	・「島民の人がPRする」下準備をするという考え方。 ・既にあるものを発展させるという点。 ・歴史研究を行うことで、PRと風化防止を同時に狙う点。 ・PRの対象を、移住者などと限定した点。

年度	グループ	領域	テーマ	「しま」にとっての意味	これまでの相違点・新規性
2018	小値賀1.3	郷土（郷土）	発信！小値賀のお時間	SNSを利用し小値賀を発信することは、発信者がしまについての知識を深める必要があるが、島民も発信者になることでより詳しい情報を継続的に発信できると考えられる。また、島民と私たち学生の観点から情報を発信することで、今まで目を向けられていなかったことを発見できる可能性がある。以上のことがしまにとっての意味と考える。	観光場所の写真を撮影し、パンフレット等にまとめて島のPRをしていたグループは過去にもいたが、今回の新規性としてSNSの発信を島民も行うという点がある。また、島民が発信することは長期的に継続できると考えられ、これまでの相違点であるといえる。
2018	小値賀1.4	産業（観光）	晴れても小値賀！ 雨でも小値賀！	島の新たなイベントとしての観光資源作り に貢献するため	これまで雨の日にできるイベントが無かったということ
2018	小値賀1.5	産業（観光）	みぢかなおぢか～ 九州へしまのよかと こ伝えるばい！～	観光客や移住者が増加する可能性を期待する。	ターゲットを九州に絞ったこと。また、商品やイベントを考えるだけでなく、情報発信の手段を考えている点。九州県外と比べ、小値賀にアクセスしやすい九州県内に情報発信のターゲットを絞ることで効率的な集客ができると考える。
2018	小値賀1.6	産業（観光）	ぶらり小値賀の旅	観光マップを作ることによって島に来た人達に島の色々な場所を知ってもらい、小値賀を好きになってもらいリピーターを増やすことと、興味をひくようなマップにして、島に訪れない人に島に来ようという気持ちにさせ、観光客を増やし、島の産業を活性化させる	SNSなど形のないものではなく、マップという形あるものにする点。商品企画など、考えるだけのものではなく実際に島の魅力を肌で感じるができる点。今までの企画を調べたところ、純粋に観光マップという案がなかった点。
2018	的山大島1	情報(情報) (観光)	デジタルおもしマップで巡っちゃ大島！	人口を増加させるにしても、まずは島の認知度を上げないことには始まらないと思いました。そこで今までに無い形や、情報を発信することでよりの的山大島に来る観光客を増やすことが出来ると思えました。	これまでの活動にマップ制作はありませんでした。しかし媒体を紙からデジタル化すること、自分たちの声や視点から撮った画像や動画を載せるという点が新規性があると思えました。
2018	的山大島2	産業（観光）(特産品)	パンフレットの作成に向けて、カフェメニューやランチメニュー、アクセサリ作りを通	今まで知られていなかった的山大島の新しい魅力を私達自身が感じ、それを広めていくことで、的山大島を熱くしていきたいという思いを込めた。	今まで島になかったものや若者が関わってこれなかったことを実施し、新たな魅力を伝えていくことができると思う。
2018	的山大島1.1	郷土（情報）	知りたい！行きたい！ 的山大島！～魅力がぎゅっとつまってます～	しまの魅力を知るためには、しまに住んでいる人に話を聞くことが重要である。島民に聞き取りを行うことによって、島内の人々が自分のしまのことを考える、想いを馳せるといった意識の面での影響を及ぼすと考える。加えて、県立大生との交流も生まれ、しま全体のにぎやかさをもたらすことにつながると考える。	PRについて聞いた意見などをまとめた上で、手描きで地図を作成する。そこには、写真を多く載せて、鮮やかなあたたかみのあるものにしたい。写真を加えることによって、その場所のイメージを伝えやすくする効果も期待できる。そのために、訪れたときに多くの写真を撮ることを心がけたい。その作成した地図は、パンフレットに載せたり、SNSにあげることで多くの人の目に触れるようにしたい。
2018	的山大島1.2	郷土（情報）	島フェッショナル大島の買い物実態に迫る	島民の生活水準の向上 島の店舗における品揃えの改善 高齢者が島外にでらずに買い物を済ませられるようにする(65歳以上) 買い物負担の減少	去年までは観光がメインだったが今年は島民しかも、高齢者や身体障害により買い物が困難な島民に対しての生活に重点を置いたものとなっている
2018	的山大島1.3	人口（定住）	的山大島の可能性大発見！	人口増加や産業後継者解消へとつながり、生活環境を改善させることができる。	伝統芸能の継承という点が相違点であり、新規性があると考ええる。
2018	的山大島1.4	人口(人口) (郷土)	I'm lovin' Oshima.	知名度をあげて、しまの活気を取り戻す。	過去の発表に、伝統芸能の保護に関する活動を行っていた記録が見られなかった点。
2018	的山大島1.5	教育・文化 (文化)	大島を知ろう！～フォトマップを通じて～	私たちが文化を理解することで、島外部から得られる情報と島内部で得られる情報を合わせて、今後の情報発信に活用してもらおうこと。	これまでは観光業と人口増加に視点が集中し過ぎていたが、それ以上に伝統や文化を知る必要があった。
2018	的山大島1.6	産業（観光）	#大島なう～君の知らない物語～	しまの魅力をわかりやすく伝えることで、観光客の増加、知名度の向上などが見込める 活動を通じてしまの人たちとの交流を行える。	しまの棚田や断崖絶壁、神浦地区などの観光地としまの伝統芸能を活かしたPR動画の作成は例年のしまなびの取り組みを見ても行われておらず、情報・魅力の発信の手段という点でも新規性、相違点がある

# 「しま」と向き合う長崎ならではの学び方 「しまなび」プログラムで地域創生に貢献する



「しまなび」プログラムは1年次または2年次の全学生必修科目。10人ほどのグループを編成し、事前調査と4泊5日のフィールドワークを行う



太田 博道 氏  
長崎県立大学 学長

新潟県出身。慶應義塾大学理工学部教授を経て、2009年長崎県立大学法人理事長就任。2011年より現職。

地域と協働して長崎の離島が抱

える諸問題の解決に取り組む「長崎のしまに学ぶ」事業で、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学CO-C事業）」に採択された長崎県立大学。国内で最も多くの島がある長崎県の地理的特徴を活かした「しまなび」プログラムの成果と今後の展望について、太田博道学長に話を伺った。

## 「しま」で学ぶ理由

「しまなび」プログラムは、長崎の離島（対馬、壱岐、五島、新上五島、小値賀、宇久、的山大島）の魅力や課題を探り、地域創生に貢献するための取組。学生はグループ単位で現地でフィールドワーク（現地調査）を行い、地域の課題を見つけ、その解決策を提案する。プログラム導入の背景について太田学長は次のように語る。

「地方創生が叫ばれる中、大学は地域で中心的な役割を期待されるようになってきました。そこで、従来の知識伝播型の教育を行うだけでなく、学生の思考力、判断力、行動力で地域の役に立てることはなにかと考え、このプログラムを全学生必修科目にしたのです」。

## 地域と大学が協働

これまでの3年間で地域活性化に向けたさまざまな取組がなされてきた。「かんころ餅の包装紙を学生のデザインに変えたら売れ行きがよくなった」という話（五島）や、特産品を使った観光物産の企画が進んでいる事例（壱岐）もあり、「しま」に貢献できている手応えも感じています。また、学生は活動を通して『積極的になった』、協調性が身についた、人前で話ができるようになったなど、社会人基礎力の向上も実感しているようです。個々の成長を促し、自信をもって語れる経験となっているのはいいことだと思います。教員においても、導入当初こそ不安視する声も聞かれましたが、普段の授業でもアクティブラーニングの活用や学生との双方のやりとりを心がけてくれるようになり、学びの環境の変化を感じています」。



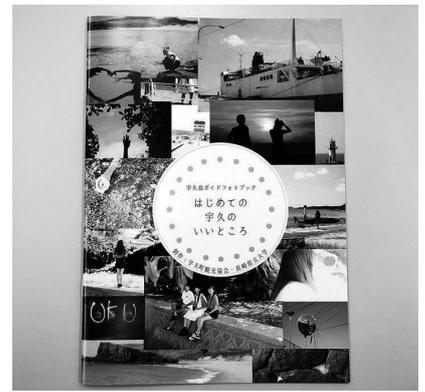
### 的山大島／野外映画祭を開催

現地のNPO法人と共催で、野外映画祭を開催し、地域住民の交流の場を提供。進学・就職等で3月に島を離れる人も多いため、見送る人・見送られる人にとって思い出づくりの機会にもなった。



### 杵岐／地元特産品による商品開発

地元特産品を用いた観光客向け商品を企画。地元ベーカリーと協働して杵岐牛を使ったサンドウィッチの商品化を目指す。2018年度は杵岐のフードフェスでの実験販売や販売店舗の交渉も行う予定。



### 宇久／ガイドフォトブックの制作

「形に残るものを作ってほしい」との要望のもと、地元観光協会と連携し、しまの魅力を発信するガイドフォトブックを制作。事前に考えた観光コースに沿って撮影を行い、写真を通してしまの魅力を発信。



### フィールドワークの事前準備

グループワークでフィールドワークのテーマを検討。「しま」の人に聞いた情報をもとにフィールドワークで行いたいことを各自が付箋に書き出し、グループ討議で意見交換しながら、方向性を決定する。



### 専用の学習支援システムを活用

学生・教員が双方向でコミュニケーションをとるため、スマートフォンからもアクセス可能な専用システムを構築。講義科目・演習科目の単元ごとに報告・課題提供等を行えるようプログラムされている。



### 総括シンポジウムで成果発表

選抜グループによる成果発表は実習先の7島にも同時配信。オンラインで大学と島をつなぎディスカッションも行った。他島での取組状況を相互に知ることができ、島同士の情報交換にもつながった。

COC事業は2017年度に終了したが、同大では今後も「しまなび」プログラムの全学必修を継続。これまでシステムに蓄積されたデータを活用し、地域が抱える課題に今まで以上に対応するなど活動を深化させていく考えだ。また、学生により一層主体的な活動を促すため、フィールドワークを経験した上級生に下級生のファシリテーターを任せるなど、新たな仕組みづくりも始まっている。

**地域創生人材の育て方**

人口減少が続く、未来を見通すのが難しい時代に社会が求めるのはどんな人材か？太田学長は『人に頼らない人』。これは卒業後すぐに起業する人だけを意味しているのではない。会社に入ったとしても、上司に言われた通りにただ働くだけでなく、『もっとこうすればいいんじゃないか』と考え提案できるような人になってほしいのです』と力を込める。AIの進歩で作業効率が上がっても、解決すべき課題を設定するのは常に人間の役割。だからこそ太田学長は、主体性や課題発見力を磨くための「実践」の重要性にも目を向ける。「講義で知識を教えるのも大事ですが、知識の実践の機会



**長崎県立大学**

〒 858-8580 長崎県佐世保市川下町 123 (本部)  
 TEL : 0956-47-2191 (代表)  
<http://sun.ac.jp/>  
 経営学部、地域創造学部、国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部  
 創立：2008 (平成 20) 年  
 学生数：2977 名 (2018 年 5 月)

を提供するのも大学の役割。本学でも実践的なカリキュラムを重視しています。地域創造学部では佐世保市内の民間企業や公共機関での長期インターンシップを必修化。今年度から本格実施となりますが、参加企業は50社にのぼります。学生にとっては知らない業種、企業と出会えるし、企業にとっては優秀な人材を地元に残すことにもつながる、双方にメリットがある取組です。『地域や企業を自分の力で変化させる』。そんな経験をした学生が、大企業より地域の企業を選んだほうが活躍の場があると気づき、地域の企業を選ぶことを期待しています』。

## 「しまなび」プログラムの成果の活用について（平成 30 年度）

### I 平成 30 年度における取り組み

平成 30 年度については、当該年度中に具体的に成果が活用されたものはないが、活用の実現を念頭に、来年度の「しまなび」プログラムでの継続した取り組みが検討されているものは次のとおりである。

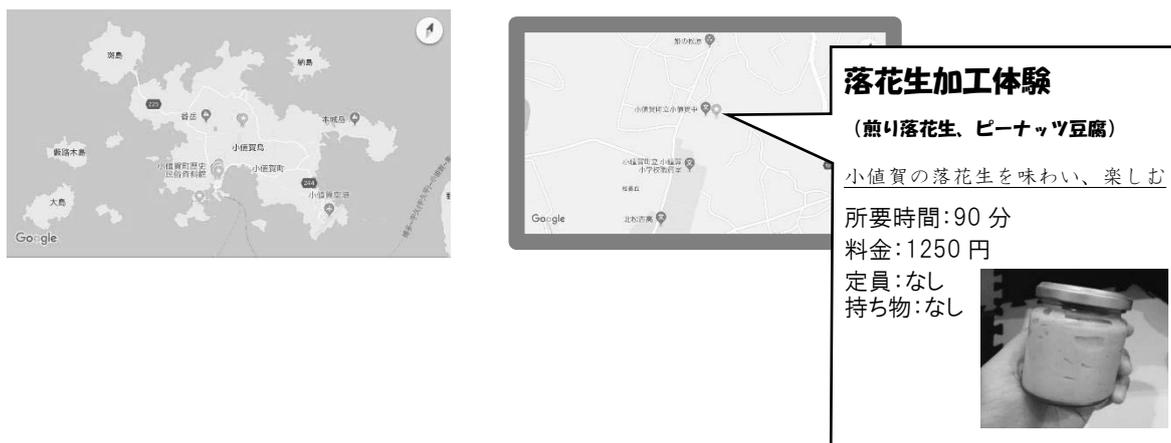
#### ① 小値賀

小値賀の飲食店の情報を伝えるためにホームページ上にサイトの新設



#### ② 小値賀

体験プログラムの情報を伝えるためのマップの作成



#### ③ 新上五島

昨年度に作成したマップ（ロードサイクルを活用したサイクリングマップ）に引き続き、ママチャリを活用したサイクリングマップの作成

## ④ 新上五島

特定の観光地のQRコードを開くと、該当する観光地を動画により紹介するマップの作成

## ⑤ 的山大島

特定の観光地のQRコードを開くと、該当する観光地をドローンにより撮影した動画を用いて俯瞰的に紹介するマップの作成

## II 継続した取り組み

杵岐（杵岐産品を用いた商品による地域活性化プロジェクトの取り組み）

平成28年度から3ケ年に亘って取り組んでいるが、これまでの「カツサンド」では諸問題の解決に困難な点が多くあるため、今年度は杵岐産牛肉を用いた「ライスボール」に商品を変更し、商品開発やパッケージ作成等に取り組んだ。

今年度の最後の取り組みとして、11月16日（金）～18日（日）において、全国商工会連合会が開催する、日本のご当地グルメを集めた物産展に出店し、販売を行った。（全国来場者数15万人以上を誇る日本最大級の物産展、東京）



## 長崎県立大学の学生による自主制作映画『しらあいの赦』

現在、映画研究会SeaCaTというサークルで『しらあいの赦』という長編映画を、五島列島最北端にある宇久島を舞台に制作しています。監督、プロデューサー、音響、その他様々な事を全て学生で行っており、また、学生が自主的に企画・運営する活動に対して、大学が奨励金を交付し支援を行う「長崎県立大学やるばいプロジェクト」にも採択されています。県内でもメディア等で紹介されており、注目の高さが伺えます。



監督を務めた情報システム学科3年の宮本さんが、本学の「しまなび」プログラムで宇久を訪れた際、宇久の良さや、島民の方々が抱える問題に直に触れることで「宇久島で映像を作りたい」という気持ちが芽生え、また、今年3月オール長崎ロケで撮影された映画「こはく」にインターンシップという形で関わったことで、初めて触れたプロの映画制作の現場に圧倒されると共に感動し、尊敬する先輩たちの背中を追いかけたいと感じ、「自分たちで映画を作りたい!」との思いを強くしたそうです。

Q.タイトルの『しらあいの赦』には、どのような思いが込められていますか。

A. 「しらあい」の部分は「白藍」という、日本の伝統色の名前です。宇久島の魅力を白、人口減少などを含めた問題点を藍として、その両方が溶け合って「宇久島」であることを表現しています。また、主人公である松本の心を藍、奈々恵を始めとする島民の心を白としたとき、松本が島民たちに溶け込んでいく様子を表しています。

また、「白藍」を「しらあい」と表記したのは、「あい」を「愛」や「(出) 逢い」とかけるためです。これは、私たちが制作をするにあたり、様々な愛情を受けていること、また、様々な人たちとの出会いから、私たちが映画を制作できていることを意味しています。

「赦」の部分は、松本の「誰かに赦してほしい」という願い、奈々恵を始めとする島民の「赦してあげたい」という心を、「ゆるし」で止めることで、双方からの気持ちであることを表しています。



Q.出演者をオーディションで選んだと聞きました。

A.何よりも一番重要視したのは、松本という役との相性でした。お芝居の上手さより、「松本」という人物と一緒に作ってくれる方と一緒に制作をしたいと考えていました。加えて、私たちスタッフと、手探りながらも、心を通わせた現場と一緒に作ってくれる方に出演いただければ、と考えていました。

Q.宇久島での撮影を終え、現在はどのようなことをされていますか。

A.現在は、上映に向け、本編の編集に加え、予告やメイキングの編集を平行して行っています。同様に、劇中音楽・主題歌の制作や、上映会場の手配、上映にあたっての広報物の製作、クラウドファンディングの特典の準備、各後援の申請、プレスリリースなどを各担当者が行っています。

上映は、1月5日宇久島での上映、1月21日～25日本学学生向けの上映、3月2日長崎市上映、3月21日佐世保市上映を予定しております。今後、様々な形で告知させていただきますので、続報を楽しみにしていただければ嬉しく思います。



Q.今後の夢を教えてください。

A.長崎で学生映画が活発になることです。今回のこの制作が、この映画が、長崎の学生映画にとっての轍になり、様々な方向に発展していけたらいいな、と思っています。また、デザイナーや広報担当、Webサイト担当など撮影外のバックサポートを一緒にしてくれる方や、撮影・音楽制作などの技術スタッフ、ポストプロダクションスタッフ、俳優として出演してくれる方も募集しています。大学から始めたスタッフばかりなので、お気軽にご連絡ください。メンバーを募集中です。とにかく興味があるという方も、一緒に関わり方から見つけていきましょう！



「しらあいの赦」 [Facebook](#)

「しらあいの赦」 [Twitter](#)

映画研究会SeaCaT [Facebook](#)

映画研究会SeaCaT [Twitter](#)

平成30年10月2日(火) 長崎新聞

# 課題と強み知り自信

熱帯ならではの背が高い木々が揺れるシンガポール。8月24日午前。ガラス張りのビルの一 corner に拠点を構える「NEC Asia Pacific」の会議室で、シンガポール人の男性社員が熱心に語り掛けている。「文化の違いに敏感になることが大事」「日本人は上司に『はい、はい』と従うでしょう。でも僕たちは「NO」とも言う」。中国語の響きをまじった英語を高速で繰り出し、グローバル企業で働く心構えを説く男性に、県立大国際経営学科の6人は圧倒されていた。

学生約40人は8月中旬から9月にかけて東南アジアの有名日系企業や公共団体に身を置き、約3週間にわたってインターシッパ(就業体験)や座学に取り組んだ。東暖子さん(20)もテーブルの端から真剣なまなざしを送っていた。「力のなさを痛感して嫌になることもある」

東さんの主な研修先は西海陶器(東彼波佐見町)。シンガポール最大のアウトレットモールに事務所と倉庫を持ち、日系百貨店やシンガポール内のネットスーパーで食器販売などを手掛ける。将来英語を使う仕事をしたい、大好きな陶器に関わりたい。そんな思いで選んだが、その前に壁が立ちほだかった。

現地スタッフと同じ職場に机を並べ、見積書の作成や在庫確

## 学生の収穫



シンガポール人の男性社員の説明に耳を傾ける東さん(右から3人目)ら  
=シンガポール、NEC Asia Pacific



□  
—  
□

認の業務に携わった。だが話し掛ける勇気はなく、どんな言葉を使えば自分の思いが通じるか、悩んだ。

大学では、TOEICの目標スコアを地道に達成して英語力を身に付けたつもりだった。だが英語で自分の意見を伝える経験が足りなかったと痛感。きちんとした英会話でなくても自分から話そう。ジェスチャーを使ったり、一緒に昼食に行ったりしながら少しずつ壁を崩した。

大学3年の夏休み。この時期

になると民間企業はこぞってインターシッパを開き、ほかの学生は会社と接点を持ち始める。東さんも、いくつもの会社への参加を諦めた。だが海外の現場で体当たりで身に付けたコミュニケーション力や自主性は、出合いの数以上に就職活動で乗り切る強みになると実感している。この時期の研修だから意味がある。背筋が伸びた。ほほ笑んだ表情に自信がにじんだ。

※ ※

就職活動が短期決戦となり、PRや人材確保のために企業がインターシッパに力を入れる中、学生を社会に送り出す大学もカリキュラムを進める。県立大は全国の国公立大で唯一、一部の学科で必修化に踏み切った。18歳人口の減少や若者の県外流出などの課題を抱える本県。県立大の狙いや企業の思い、今後の在り方を探る。

(この連載は佐世保支社・嘉村友里恵が担当します)

### メモ

インターシッパ 企業が学生に就業体験の場と機会を提供する取り組み。1990年代後半から学生のキャリア形成支援や人材育成のため推進された。1日から1カ月以上であるが、2017年に経団連が日数要件を撤廃し「1日型」を中心とした短期プログラムが広がっている。欧米では採用の可否を見極める前提で2〜3カ月の長期間で実施することが多い。

平成30年10月3日(水) 長崎新聞

# 人材育て魅力向上を

「来年は座学だけでもいいので、タイでも受け入れをお願いしたい」。世界中の人と物が行き交うシンガポールのチャンギ国際空港。その近くに拠点を構える西日本鉄道国際物流事業本部で、国際経営学科の岩重聡美学科長は切り出した。海外ビジネス研修の試行時代からシンガポールで受け入れてきた同本部。「熱いですね」と松原章夫執行役員は相好を崩した。

文部科学省によると全国で7割以上の大学がインターンシップに取り組み、一方、必修科目にしている学校はまだ少ない。「思い切った決断だった」と県立大の太田博道学長は振り返る。学生には参加費、教員には研修先の確保という負担を強いいるからだ。

「研究者がなぜこんなに頭を下げるのか、葛藤もある」。岩重学科長はこう漏らす。それでもより良い研修を追求するため現場に足を運ぶ。

県立大の「本気」の背景に、県内の大学が直面する学生確保の厳しさがある。

2017年の全国の大学進学率が50%を超える中、本県は38・3%と低調。しかも、このうち県内への進学率は33・9%にとどまった。

## 大学の狙い



□2□



企業に出向き今後の受け入れなどについて話し合う岩重学科長  
—シンガポール、西日本鉄道国際物流事業本部

「知名度やブランド力では都市圏の有名大に対抗できない」。そこで選んだのが社会に売り込めるポイントを作ることだった。産業界が学生に主体性や実行力を求める中、海外研修では背景が異なる人と協力して業務や課題に取り組む経験が積める。学生の受け入れ先は製造、観光、流通と多岐にわたり、業界大手や公的機関が中心。試行を始め、

受け入れ企業に就職する学生も出てきた。  
「全国区の企業に数人でも入れば(大学の価値が)分かりやすい」と太田学長。「都会の大学に行かなくても十分だと感じ、先輩に伝えてくれれば究極のPRになる」

公立大ならではの事情もある。経済的な理由で地元大学しか選べなかったり、入試の結果に基づき志望先を変更せざるを得なかったりした、いわゆる「不本意入学」の学生が県立大にもいる。「(海外での研修をやり遂げられれば)大きな自信になり、一つ上の世界を目指すと思うはず」と岩重学科長。「この大学に来てよかったと感じてもらい、上を向いて人生を歩んでほしい」。そう力を込めた。

×モ

**国際経営学科** 2016年度の学部学科再編で新設された経営学部の学科。グローバル人材の育成を目指し、経営学の知識とともに、実践的な英語力の習得力を入れる。大学1年でフイリピン・セブ島での約3週間の語学研修、大学3年で海外ビジネス研修を必修科目として設け、参加条件としてそれぞれTOEIC600点、同730点を課している。

平成30年10月4日(木) 長崎新聞

# 「受け入れは教育」

8月28日午前のベトナム・ハノイ。TOTOベトナム本社の会議室で、山崎政男社長は穏やかな笑顔を浮かべていた。

視線の先には、活動報告会に向け練習に取り組む国際経営学科の学生がいた。「みんな一つのものをつくり上げる会社だった」「人の心を動かすリーダーになりたい」。素直な気づきや思いにじっと耳を傾けると、口を開いた。「(県立大の学生を受け入れてきた)3年間で一番いい。感じてくれている」。

同社には毎年全国の大学から学生が派遣されてくる。山崎社長は受け入れを「有名企業の使命」とする。それでも「あからさまに就職活動につなげようとする大学は受け入れたくない」。

インターシップを採用目的で開く企業は増えている。リクルートキャリアの研究機関「就職みらい研究所」の今年の調査によると、「そもそも採用目的」と回答した企業の割合は25・6%に上った。

しかし、特に地方の大学が主催するインターシップの受け入れには別の思いも透ける。自動車用ワイヤーハースで世

## 大手企業の本音



変わる

インターン

県立大の取り組み

□3□



発表について学生に助言する山崎社長(右)  
=ベトナム・ハノイ、TOTOベトナム

界シェア上位の住友電装(三重県)は今年初めて、県立大情報セキュリティ学科の学生2人を約3週間受け入れた。人材開発部の川瀬雅生部長は「対外的なPRになる」と理由を明かす。学生の目に社名が触れたり、これまで出会えなかった学生と接点を持つたりする機会になるからだ。

これに対し、大学のインターンシップでは、面接やエントリーシートなどがなかったため学生の興味や特性を事前に把握しにくい。「大学から受け入れる趣旨は教育の一環だ」と川瀬部長は語る。

県立大のようにさまざまな大学が単位化を進める現状について川瀬部長は一抹の不安もにじませる。「大学の卒業要件になつていけば、企業のものに自由に応募できなくなる将来もありうるのではないか」

メモ

二つのインターンシップ 企業が参加者を募集するものと、大学がプログラムの一環で学生を派遣するものがある。企業の場合はエントリーシートの提出や面接を課すこともある。企業のもは1日型を中心に5日未満が多いが、大学のもは一定期間にわたって業務を体験させるプログラムが主流になっている。

平成30年10月5日(金) 長崎新聞

# 「うわさ」を広げ認知度向上

広々としたオフィスの机で、軽やかな音を立ててキーボードを打ち込む、佐世保市の医薬品卸売会社「東七」の新入社員、富永大輝さん(22)。総務課で縁の下力持ちとして働く。「人から頼られる仕事。やりがいがある」。会社との出会いは県立大のインターンシップだった。富永さんは試行だった2年前の夏、1カ月間にわたって業務を体験。実際に社内の空気に触れ、会社説明会との違いを感じた。「会社のことがよく分かった。だから迷わず選べた」

地域貢献の一環で受け入れた東七も、選考や会社説明会の参加者減に頭を悩ませていた。「売り手市場で学生が業界を『決め打ち』していた」と採用担当の田崎淳也主任。結果として富永さんを含め、受け入れた2人は本年度に入社。その手応えから自社でも開くことになった。「ノウハウを学ぶ機会になった」と田崎主任は振り返る。

県内企業のインターンシップへの関心は増している。就職情報サイト「マイナビ」では今年、県内での開催情報の掲載数が昨年同時期の約3倍に増えた。マイナビ長崎支社の小庵真尚支社長は「実施した企業から応募数

## 地場企業の変化



□4□



大学のインターンシップを経て入社した富永さん(左)  
佐世保市瀬戸越4丁目 東七

の増加や採用者の確保という効果も聞き、他社が続いている」と分析。一方、中小企業が多いため担当する社員の不足やプログラムの質も課題という。

鋼製パイプの製造・販売を手掛ける大阪鋼管(佐世保市)は今年、県立大実践経済学科の学生2人を初めて引き受けた。情報管理やマンパワーの問題、そ

して研修内容。全ての条件を満たすため坂根毅社長が選んだのは、ベトナムでの飛び込み営業だった。現地で約2週間、大学に出向かせ知り合いをつくらせたり、自社製品と関連がありそうな会社を1人で訪ねさせたりした。

「地元にもいろいろ企業があると知ってもらうには、おもしろいことをやるしかない」。狙いは認知度の向上だ。学生が学内の活動報告や友達との会話でインパクトがある内容を話せば、興味を引くことができると期待する。求めるのは海外に出て、語学を駆使する仕事を楽しめる人材。「インターンシップで(会社の)『うわさ』を広げられたら、いい」。その前を見据える。

### メモ

大学生の県内就職 長崎労働局によると、この春県内の大学を卒業した人の就職内定率は96.8%で過去3番目に高い水準。うち県内の企業に内定した人の割合は38.9%で、3年連続で下がった。背景には、景気回復に伴い企業の採用意欲が高まっていることや、大学や学生に向けた地元企業の情報の少なさが指摘されている。

平成30年10月6日(土) 長崎新聞

# 多様な“出口”生み出して

経団連が就職活動のルール廃止の意向を表明したり、インターンシップが急速に普及したりするなど過渡期にある大学生の就職活動。大学や地域はこの変化にどう向き合うべきか。リクルートキャリア(東京)の研究機関「就職みらい研究所」の増本主任研究員に聞いた。

―就職活動でのインターンシップの役割は。

短期決戦の中、企業は学生から認知され、なおかつ魅力的と思われなければ応募は集まらない。準備段階(大学3年の会社説明会の解禁前)でいかに魅力を伝えるか、という意味で重要性は増している。企業は質、量ともに採用難。採用を意識しながら積極的に取り組むことがスタンダードになっている。

―大学による取り組みの意図は。  
学生数が減り、大学が生き残

## インタビュー

就職みらい研究所 増本 全さん  
主任研究員



□5□



大学のインターンシップの可能性と課題について話す増本主任研究員  
=東京都中央区、リクルートキャリア

りをかける中で「出口」(就職先)は大学選びのキーワード。進路決定に深くかわかる保護者の考えに影響するし、受験生も学校選択の際に気にしていることが調査で明らかになっている。学生は直接企業の中に入る。大学の魅力を知ることができ、企業側は付き合いがなかった大学のよさに気付く可能性もある。

―大学発インターンの課題は。

実施率が高いが応募者は減っている。学生にとってはもっと気軽に参加できるプログラムがあるし、大学の場合は、行きたい企業に行けるとは限らない。事前・事後の教育を担える専門人材や学内の連携が足りない大学もある。受け入れる企業側に目的を理解してもらうことや、受け入れの負担軽減も必要だ。

―地方の大学は都市部だけではなく地元人材を輩出する役目もある。

バランスが必要だ。大学として経営を成り立たせるためには就職する企業にバリエーションはあったほうがいい。ただ、県の特色ある産業を起点に大学が企業や地域と連携していくことも大事だ。アルミニウムの生産が盛んな富山県では、大学と企業が協力して最先端の学びができる環境をつくり、首都圏の学生のインターンシップを迎え、地域の魅力を感じさせて定着につなげようとする取り組みがある。大学だけでは難しい。

〓おわり〓

## 2018年度（平成30年度）海外ビジネス研修報告会を開催しました

平成30年12月11日（火）、佐世保校附属図書館多目的ホールにおいて、本学経営学部国際経営学科による海外ビジネス研修報告会を開催しました。

海外ビジネス研修は、国際経営学科の3年次必修科目として、今年度より本格実施となり、1期生である3年生38名が研修に参加しました。

平成30年度長崎県立大学  
海外ビジネス研修報告会

日時 平成30年度12月11日(火) 10:40~12:10(予定)  
場所 長崎県立大学佐世保校附属図書館1階多目的ホール

■式次第

1. 開会
2. 研修生代表挨拶
3. 海外ビジネス研修報告
  - ・シンガポールチーム
  - ・ベトナムチーム(ハノイ、ダナン、ホーチミン)
  - ・タイチーム
  - ・フィリピン
4. 質疑応答、参加者からのアドバイス
5. 閉会



研修生代表挨拶

報告会では、シンガポール、ベトナム（ハノイ・ダナン・ホーチミン）、タイ、フィリピンで研修を行った研修生代表者4名が報告を行いました。

### <各研修先での主な研修内容>

経済・社会情勢の学習、顧客企業への営業同行、データ入力、各種書類作成、資料の翻訳、市場調査、イベントの企画・実行、CSR活動への参加、Webページ・動画作成 など



シンガポール報告



ベトナム報告



タイ報告



フィリピン報告

研修生からは、「海外勤務の形態には多様性があり、新しい環境に対応する適応力・柔軟性が必要と感じた」、「一般的な知識はもちろん、時事や自分の関心にも目を配りながら、情報収集や色々な経験を積むことが必要である」、「グローバル人材として、対応力・コミュニケーション力が重要である」、「キャリアプランの幅が広がった」、「これからの人生でどういった目標を持つか考える機会となった」など、様々な気づきがあったようです。



質疑応答

質疑応答の中で、太田学長からは、「研修受入先の開拓や交渉は、教職員の力が不可欠である。その他の計画や手続きに関しては学生自身でもできる。また、社会に出てからは上司から指示されたことをこなすだけでなく、自主性を持って、積極的に行動することが大事である」とのアドバイスがありました。

また、研修生からは、1・2年生へ向けて、事前学習及び準備に関すること、研修に参加する意義などアドバイスをを行いました。



最後に、研修生からは、研修での貴重な経験を今後の大学生活や就職活動に活かしたいとの決意表明がありました。

～研修受入先の企業及び関係機関の皆様へ～

本学学生及び教職員一同、深く感謝申し上げますとともに、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 経営学部

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

## 経営学部

### 教育目標

経営学部では、現代の国内外の企業経営に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で経営上の課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営に関する専門的・総合的な視野を備え、企業の経営における様々な課題を理解し、分析・解決できる人材
- 外国語を用いたコミュニケーション能力と国際的な視野を備え、グローバルに活躍できる人材

### ディプロマポリシー

経営学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 経営、マーケティング、会計等に関する専門的な知識をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力
3. 外国語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力
4. 他者の意見や人格を尊重しながら提案・行動をすることができる能力

### カリキュラムポリシー

経営学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解するために必要な専門的知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目を配置する。
3. 経営上の諸問題を発見・分析・解決し、ビジネスの場で活躍できる実践能力を育成するため、発展科目として経営・国際経営・会計等関連科目、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させ、それまで学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養させるため、ゼミナール科目を配置する。
5. 国際経営学科では、全学教育と専門教育の連携により語学力を向上させ、英語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力向上させるため、英語による授業等の科目を配置する。

## 経営学科

### 教育目標

経営学科では、現代の企業経営に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で様々な企業の課題に主体的に対応できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営、マーケティング、金融等に関する知識・知見を有し、企業の各分野において活躍できる人材
- 会計、簿記、税法等に関する専門的知識をもとに、企業や団体の経理部門で活躍できる人材
- 経営、会計等に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

### ディプロマポリシー

経営学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 経営、マーケティング等に関する知識・知見をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力
3. 会計、簿記、税務等に関する専門的知識
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

### カリキュラムポリシー

経営学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解する専門的な知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目並びに会社法や簿記に関する科目を配置する。
3. 経営上の課題を発見・分析・解決するための知識を修得させるため、発展科目として経営学・マーケティング分野及び会計関連分野の科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

## 国際経営学科

### 教育目標

国際経営学科では、現代の企業経営に必要な知識・知見と実践力及び国際的な経営感覚を身に付け、グローバルな視点で様々な企業の課題に主体的に対応できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営に関する知識・知見及び外国語を用いたコミュニケーション能力を有し、東アジア地域をはじめ海外展開をする企業や団体に活躍できる人材

### ディプロマポリシー

国際経営学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 海外に事業展開している企業の仕組みやグローバルな環境を理解し、国際的なビジネスの場で活用できる実践的能力
3. 外国語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

### カリキュラムポリシー

国際経営学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解する専門的な知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目並びにグローバルな経営に関する科目を配置する。
3. 海外に事業展開している企業の仕組みやグローバルな環境を理解し、国際的なビジネスの場で活躍するために必要な知識を修得させるため、発展科目として国際経営及び経営・経済関連分野の科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。
6. 全学教育と専門教育の連携により語学力を向上させ、英語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を向上させるため、英語による授業等の科目を配置する。

### カリキュラムツリー (97.1 kB)

## 地域創造学部

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心を持ち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

## 地域創造学部

### 教育目標

地域創造学部では、地域の発展に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で地域の課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 地域社会や地域経済が抱える様々な課題を専門的、総合的視野に立って理解し、分析・解決できる人材
- リーダーシップを有し、他者と協働して地域社会や地域経済のあり方を創造できる人材

### ディプロマポリシー

地域創造学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 地域の諸課題を理解し、調査・分析できる能力
2. 政策や企画を立案するプロセスを修得し、公的団体等の政策を企画・立案できる能力
3. 経済に関する知見をもとに、地域経済動向を分析できる能力
4. 地域企業の海外事業展開などをグローバルな視野で推進できる能力
5. 他者の意見や人格を尊重しながら提案・行動をすることができる能力

### カリキュラムポリシー

地域創造学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。また、地域創造学部の教育内容を概観するため、「地域創造概論」を配置する。
2. 公共政策や基礎的な経済理論を理解するために必要な知識を修得させるため、基幹科目として公共政策や地方政治、経済学に関する科目を配置する。
3. 地域の諸問題に関する見識を高めさせるとともに、それらの分析に必要なスキルを修得させるため、発展科目として高度な政策関連科目及び経済関連科目、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させ、それまで学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養させるため、ゼミナール科目を配置する。

## 公共政策学科

### 教育目標

公共政策学科では、公共という視点に立って、政策の企画・立案及び評価に関する知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で地域の政策課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 公共政策に関する知識・知見を有し、地方自治体等において活躍できる人材
- 公共政策に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

### ディプロマポリシー

公共政策学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（公共政策学）の学位を授与します。

1. 地域が抱える諸問題を理解する能力

2. 社会調査及び分析手法を修得し、諸分野に活用できる能力
3. 政策や企画を立案するプロセスを修得し、公的団体等の政策を企画・立案できる能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

### カリキュラムポリシー

公共政策学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域創造学部教育内容を概観するための「地域創造概論」や、地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。
2. 地域社会が抱える様々な課題を分析・考察し、政策や企画を立案するプロセスを理解させるため、基幹科目として必要な科目を配置する。
3. 地域の諸課題に関する見識を高めるため、発展科目として高度な政策関連科目及び公共政策の諸分野に関する科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践的能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

### 実践経済学科

#### 教育目標

実践経済学科では、企業活動における企画・立案能力を有し、地域経済の動向を分析しその発展に寄与できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経済学や地域経済に関する知識・知見を有し、地域企業において活躍できる人材
- 経済学や地域経済に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

#### ディプロマポリシー

実践経済学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経済学）の学位を授与します。

1. 地域経済動向などの分析に必要な知識とスキル
2. 地域経済が抱える諸課題に関する分析能力や解決能力
3. 地域企業の海外事業展開などをグローバルな視野で推進できる能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

### カリキュラムポリシー

実践経済学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域創造学部教育内容を概観するための「地域創造概論」や、地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。
2. 地域経済動向などの分析に必要な知識を修得させるため、基幹科目として基礎的な経済理論を理解するための科目を配置する。
3. 経済の諸課題に関する見識を高めるため、発展科目として高度な経済関連科目並びに地域経済及び企業経済関連科目を配置する。また、それらの知識を統合し、実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

### カリキュラムツリー (108.2 kB)

## 国際社会学部

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

### 国際社会学部

#### 教育目標

国際社会学部では、国際社会及びメディアに関する知識と実践力を身に付け、グローバルな視野での課題解決能力及び情報発信能力を有する人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 政治、経済、社会をグローバルな視野でとらえ、地域社会や国際社会で活躍できる人材
- 高いコミュニケーション能力と情報収集・分析及び批判的・論理的思考能力を備え、自治体や企業の国際部門・マスコミ・多国籍企業等で活躍できる人材
- 東アジア地域に対する広い知見を深め、東アジア諸国を中心とした国際交流の推進や社会の発展に寄与できる人材
- 国際社会に関する知識を有し、教員として活躍できる人材

#### ディプロマポリシー

国際社会学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（国際社会学）の学位を授与します。

1. 国際社会の構造、現状及び動向について基本的な知識を修得し、現代社会における諸問題を多面的に理解する能力
2. グローバル化する現代社会の諸課題を自ら発見し、解決に導く能力
3. メディアに関する基礎知識を修得し、自らの意見を発信する能力
4. 国際感覚と高い外国語能力に裏づけられたコミュニケーション能力を有し、地域社会や国際社会のために積極的に働きかけができる能力

#### カリキュラムポリシー

国際社会学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 国際社会に関する知識を修得させるため、入門科目として国際関係やメディア社会に関する基礎的な科目を配置する。
2. 国際社会が直面する問題の理解を目指し、基幹科目として国際政治学、国際経済学、メディア社会学、マスコミュニケーション論等の学術的知識を修得させる科目を配置する。
3. 国際社会を多角的に分析・考察できるように、発展科目としてグローバル社会の研究、地域研究、メディア研究に関する科目を配置する。
4. 論理的な表現力とコミュニケーション力を育成するための演習科目、専門知識を実践的に活かすための実践科目を配置する。
5. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
6. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。
7. 外国語教育については、全学教育科目及び専門教育において英語または中国語を必修とし、コミュニケーション能力の向上のため、外国語による授業、留学生との討論、発表等の科目を配置する。

#### カリキュラムツリー (48.5 kB)

## 情報システム学部

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

### 情報システム学部

#### 教育目標

情報システム学部では、情報システムに関する知識と実践力を身に付け、高度情報化社会における課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- システム開発にかかる知識や技術を有し、情報技術分野で幅広く活躍できる人材
- 感性豊かな実践的創造力を有し、情報技術を駆使して創造的デザイン分野で活躍できる人材
- 情報セキュリティに関する知識や技術を有し、情報セキュリティ分野で活躍できる人材

#### ディプロマポリシー

情報システム学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
2. CGや映像、サウンドなどの各種コンテンツを制作するための感性豊かな実践的創造力
3. 情報セキュリティ分野において活躍するための基本的な知識や技術
4. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

#### カリキュラムポリシー

情報システム学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. 情報システム学科では、プログラミングやコンテンツ制作に関する知識を深めるため、学科専門科目として情報システムに関する応用科目と情報デザインに関する科目を配置する。
3. 情報セキュリティ学科では、セキュリティに関する知識を深めるため、学科専門科目として情報セキュリティ技術とセキュリティマネジメントに関する科目を配置する。
4. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

### 情報システム学科

#### 教育目標

情報システム学科では、情報システムに関する広い視野と知識を備え、システム開発のプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- システム開発にかかる知識や技術を有し、情報技術分野で幅広く活躍できる人材
- 感性豊かな実践的創造力を有し、情報技術を駆使してデザイン分野で活躍できる人材

#### ディプロマポリシー

情報システム学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（情報システム学）の学位を授与します。

1. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
2. CGや映像、サウンドなどの各種コンテンツを制作するための感性豊かな実践的創造力
3. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

### カリキュラムポリシー

情報システム学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. プログラミングやコンテンツ制作に関する知識を深めるため、学科専門科目として情報システムに関する応用科目と情報デザインに関する科目を配置する。
3. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
4. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

### 情報セキュリティ学科

#### 教育目標

情報セキュリティ学科では、情報セキュリティ全般にわたる広い視野と知識を備え、情報セキュリティのプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 情報セキュリティに関する知識や技術を有し、企業や行政などの情報セキュリティ分野で活躍できる人材

#### ディプロマポリシー

情報セキュリティ学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（情報セキュリティ学）の学位を授与します。

1. 情報セキュリティ分野において活躍するための基本的な知識や技術
2. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
3. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

### カリキュラムポリシー

情報セキュリティ学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. セキュリティに関する知識を深めるため、学科専門科目として情報セキュリティ技術とセキュリティマネジメントに関する科目を配置する。
3. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
4. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

### カリキュラムツリー (96.3 kB)

## 看護栄養学部

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

### 看護栄養学部

#### 教育目標

看護栄養学部では、人々の健康な生活を支援するため、豊富な科学的・専門的知識の修得と、あらゆる年齢層のさまざまな健康状態の人々と接することができる豊かな人間性を持つ人材の育成を目指すとともに、健康科学の基礎と応用を総合化した教育研究を推進することにより、実践的問題解決能力を養い、地域の保健・医療活動を通して、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成します。具体的には、次のような分野で活躍できる人材の育成を目指します。

- 看護師または管理栄養士として、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材
- 保健・医療・福祉の分野で、他職種と協働して専門的能力を発揮できる人材
- 看護の知識や技術が豊富な養護教諭または子どもたちの食育を担う栄養教諭として、教育現場で活躍できる人材

#### ディプロマポリシー

看護栄養学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

- 看護師または管理栄養士の国家資格を得て、高度な専門知識と実践能力を駆使して人々の健康と福祉の向上に貢献できる能力
- 食の知識が豊富な看護師または医療や看護の知識が豊富な管理栄養士として、「チーム医療」の一員として活躍できる能力
- 看護の知識や技術が豊富な養護教諭または「食と健康」の中核的役割を担う栄養教諭および学校栄養職員として、教育現場で活躍できる能力
- 看護や栄養の分野で活躍する高度専門職業人、研究者、教育者をめざすことができる能力

#### カリキュラムポリシー

看護栄養学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通専門科目として、食の知識が豊富な看護師または医療や看護の知識が豊富な管理栄養士として実践に活かすことができる科目を配置する。
2. 看護学科では、健康に対する基礎的理解を目的とした専門基礎科目、看護の基盤形成、看護判断力・看護技術力・人間関係形成力の養成、看護の展開能力の育成、看護の実践能力の統合を目的とした看護専門科目を配置する。
3. 栄養健康学科では、学科専門科目として栄養学の基礎知識と技術の修得および生命科学への関心を養うための専門基礎科目、各職域の管理栄養士として必要な実践的な専門知識と技術の修得を行うための専門科目を配置する。
4. 学内において修得した知識と技術を統合し、学外での実習を行い、社会性や協調性および実践的な問題解決能力を養う。
5. 養護教諭または栄養教諭免許取得を希望する学生のために、養護教諭または栄養教諭一種免許取得のための教職課程科目を配置する。
6. 「看護研究方法論」または「専門ゼミナール」に続く「卒業研究」を通して、自らが設定した課題を実験または調査研究により追及することにより、研究計画の立案力、創造力、総括力、結果の解析・洞察の能力を養う。

### 看護学科

#### 教育目標

看護学科では、生命の尊厳と人権を尊重し、人間を深く理解し根拠に基づき行動する看護師や養護教諭として活躍できる人材を育成します。具体的には、次のような分野で活躍できる人材です。

- 人々の健康ニーズ（健康増進、疾病予防・早期発見、健康回復、安寧な人生の看取り）に対応できる基礎的看護実践能力を有する看護師

- 保健・医療・福祉の分野で看護サービスの質向上に寄与できるリーダーシップの基礎的能力を有する看護師
- 看護の専門性を備えた教育職として活躍できる養護教諭

### ディプロマポリシー

看護学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護の対象である人間の理解と生命の尊厳に基づいた支援ができる能力
2. 個人や集団の健康状態を的確に捉え、生活の質の向上を目指した基礎的看護実践能力
3. 保健・医療・福祉等の他職種と連携・協働しながら、看護の専門性とリーダーシップの基礎的能力を発揮し、チームの一員として看護活動ができる能力
4. 看護専門職として、生涯にわたり看護の質向上へ向け自己学習、自己研鑽できる基礎的能力

### カリキュラムポリシー

看護学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 教養教育の充実をはかり、人間性豊かな看護職養成のために全学教育科目単位を30単位以上とする。
2. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通科目を構成し、食と運動について理解した上で看護職として実践に活かすことができる科目を配置する。
3. 看護専門職としての実践力を備えた看護職養成のため、カリキュラムおよび学習内容の順序性を考慮したカリキュラム編成とする。
4. 地域で暮らす人々の生活と健康との関係を理解したうえで役割が果たせるように、保健医療福祉の連携と看護の役割について講義、演習、実習を通して理解できるように構成する。
5. 保健師養成を大学院教育とするが、学部における看護師養成においても地域における人々の生活の理解と健康教育支援の科目を配置する。
6. 看護職として基礎的学習の統合として「総合看護」「しまの健康実習」「災害看護学実習」を位置づける。
7. 養護教諭免許取得希望者で所定の条件を満たす学生のために、養護教諭一種免許取得のカリキュラムを配置する。

## 栄養健康学科

### 教育目標

栄養健康学科では、健康社会実現のために社会の幅広い分野で貢献できる栄養専門家として活躍できる人材を育成します。具体的には、次のような分野で活躍できる人材です。

- 地域の人々の健康作りの担い手としての管理栄養士
- 高齢社会の食を支える管理栄養士
- 臨床現場で他のスタッフと連携・協働して栄養マネジメント・アセスメントを実践できる管理栄養士
- 特定給食施設で栄養マネジメントを実践できる管理栄養士
- 食品開発、食糧資源の有効利用、食品衛生管理者などの資格を活かせる管理栄養士
- 次世代社会の子どもたちの食育を担う養護教諭

### ディプロマポリシー

栄養健康学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（栄養健康学）の学位を授与します。

1. 「食と健康」に関する生命科学・健康科学の基本的・最新の知識および技術を修得しており、それらを実践的に展開できる能力
2. 個々の対象者の病態や栄養状態の特徴に基づく栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメント能力
3. 子供たちへの食育を通じ、健康的な成長・発達を支援する能力
4. 地域社会の健康保持・増進および疾病予防に関するマネジメント能力

### カリキュラムポリシー

栄養健康学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 専門基礎科目・専門科目の理解の前提となる科目として、初年次に化学および生物学の基礎的な内容を教授する科目を配置する。また、3年次に、実験系の卒業研究を遂行するために必要となる各種機器分析法の基礎的な原理と分析技術の理解を深める演習科目を配置する。
2. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通科目を構成し、医療や看護の知識について理解した上で管理栄養士として実践に活かすことができる科目を配置する。
3. 専門基礎科目としての『社会・環境と栄養』『生命と健康』『食べ物と健康』の各分野では、講義とそれらの実験・実習を配置し、栄養学を学ぶための基礎知識・技術の修得および生命科学への関心を養う。
4. 栄養学の基幹となる専門科目としての『栄養の基礎』をはじめ、『個人と栄養』および『栄養教育・指導』の各分野では、講義や実験・実習・演習を通じ、専門知識・基本技術の修得を行う。
5. 栄養学の実践的な専門科目としての『臨床栄養』『地域栄養』『フードマネジメント栄養』の各分野では、講義および実習を通じ、各職域の管理栄養士として必要な高度な専門知識と技術の修得を行う。
6. 学内において各専門科目で修得した知識と技術を統合し、総合演習を経て、病院、保健所、学校・福祉施設等の協力のもと学外での実習（臨床実習）を行い、社会性や協調性および問題解決能力を養う。
7. 本学教員の研究・教育専門分野に関わる「卒業研究」を通して最新の研究を行い、管理栄養士育成のみならず企業への就職や将来の研究者も視野に入れ、研究計画の立案力、創造力、総括力を養い、併せて実験または調査研究から得られたデータの解析・洞察の能力を養う。

## 経済学研究科

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

### 経済学研究科

#### 教育目標

経済学研究科は、専門化・地域化・国際化という教育理念の下、地域社会に貢献できる高等専門教育研究機関および生涯教育機関（キャリア・アップ教育機関）として寄与することを目的とし、現実の産業経済社会に対して様々な側面から問題発見・問題解決の能力を持つ人材の育成を目指します。

1. 産業経済・経済開発に関する理論および分析技法の理解の上に、定量的・定性的な分析能力を持った研究者の育成。
2. 経済・産業に関する幅広い視野と高度専門知識を持った産業エキスパートの育成。
3. 税務・会計に関する高度専門知識を持った専門的職業人の育成。
4. 国内外の経済活動に関する高度専門知識の修得の上に、より優れた判断力と指導力を持った社会的リーダーの育成。
5. 外国人留学生の人材養成によるグローバルなネットワークの構築の上に、国際社会に貢献できる人材の育成。

#### ディプロマポリシー

21世紀の知識基盤社会を迎え、産業経済・経済開発などの分野においても「専門化」、「情報化」、「国際化」という現代社会の要請に適應する人材養成や高等専門教育などが求められている。このような状況の中で、本研究科の修士生は、産業界、官公庁、あるいは研究分野からの幅広い人材養成ニーズに対応し、現実の産業地域社会に対して様々な側面から課題探究能力を備え持つ高度な専門職業人としての能力を有する。

1. 産業・経営領域で学位を取得した学生は、産業・経済に関する広い視野と、高度な専門知識を持ち、産業分野における活力創出のニーズに応えうる高度な専門職業人としての能力を有する。また、税理士などの国家資格を取得し、地域産業の活性化に寄与できる税務・会計に関する高度な知識を備えた会計エキスパートとしての能力を有する。
2. 地域・公共政策領域で学位を取得した学生は、地域経済・地域産業振興や公共政策等に関する政策の企画・立案をリードする政策エキスパートやまちづくりコンサルタントとしての能力を有する。また、国際社会の変化に対応し、国際間および地域間の諸問題を多角的に分析することにより社会に貢献できる高度な専門職業人としての能力を有する。

#### カリキュラムポリシー

##### 【領域共通科目】

1. 現実の産業社会に対して様々な側面から課題探究能力を持つ高度な専門的職業人を養成することを目的として「経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「経済統計特論Ⅰ、Ⅱ」「情報処理特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。

##### 【産業・経営領域】

1. 産業・経営に関する理解を深めるため「産業組織特論Ⅰ、Ⅱ」「流通産業特論Ⅰ、Ⅱ」「農業経済特論Ⅰ、Ⅱ」「経営学特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。
2. 流通に関する理解を深めるため「流通経済特論Ⅰ、Ⅱ」「マーケティング特論Ⅰ、Ⅱ」「流通システム特論Ⅰ、Ⅱ」「流通情報特論Ⅰ、Ⅱ」「流通と消費者特論Ⅰ、Ⅱ」「流通史特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。
3. 税務・会計に関する理解を深めるため「会計学特論Ⅰ、Ⅱ」「財務諸表特論Ⅰ、Ⅱ」「財務会計特論Ⅰ、Ⅱ」「企業税法特論Ⅰ、Ⅱ」「租税法特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。

##### 【地域・公共政策領域】

1. 地域に関する知識と理解を深めるため「国際経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「貿易特論Ⅰ、Ⅱ」「国際政治学特論Ⅰ、Ⅱ」「国際金融特論Ⅰ、Ⅱ」「中国経済特論Ⅰ、Ⅱ」「西洋経済史特論Ⅰ、Ⅱ」「経済システム特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。
2. 公共政策に関する理解を深めるため「公共政策特論Ⅰ、Ⅱ」「地域経済特論Ⅰ、Ⅱ」「計量経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「財政学特論Ⅰ、Ⅱ」「地方財政特論Ⅰ、Ⅱ」「地域計画特論Ⅰ、Ⅱ」「都市地理学特論Ⅰ、Ⅱ」「社会情報特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。
3. 長崎県が離島を多く抱えている地理的特性から「離島研究特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。

## 国際情報学研究科

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

### 国際情報学研究科

#### 教育目標

国際情報学研究科は、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を合わせた高度専門職業人の育成を図り、地域社会や国際社会へ貢献できる大学院（修士課程）を目指します。

具体的には、IT革命の急進展やそれに伴うグローバル化の深化などによる社会の激しい変化に対応できる人材の育成や、情報と社会との関わりについての幅広い知識を修得し、活用できる能力を有した人材の育成を行います。また、最先端の情報技術を駆使した情報システムの高度な知識や技術を修得し、高度情報化社会を担うことができる専門職業人の育成をも目指します。

さらに、時代や社会の要請に応えることができる高度な知識と技術を有し、国際社会、地域社会、企業、官庁などで中心的・指導的役割を担える高度専門職業人の育成や、高度な語学力とコミュニケーション能力を有し、国内外における国際的場面で活躍できる人材の育成を目指します。

#### ディプロマポリシー

急速に進行する国際化、情報化に十分対応するためには、自らが設定した研究課題について、情報の収集、分析を主体的に行い独創的な成果を導き出し、研究成果を論理的に整理し、将来を見据えた視点と的確な表現で国内外に発信する能力を有する。

国際交流学専攻の修了生は、国際間の政治や経済を学際的に分析研究するための専門知識、長崎や日本を東アジアの一員として世界に発信するための専門知識を有する。（国際関係領域）世界の人々と交流するために必要となる異文化理解に関する専門知識と、高度な英語、中国語のコミュニケーション能力を有する。また、英語を主専攻とした者は、英語圏の社会や文化、英語コミュニケーション、次世代の英語教育に関する専門知識を有する。（国際コミュニケーション領域）

情報メディア学専攻の修了生は、情報技術理論やそれを応用したコンピュータソフト開発、高度な画像処理技術、セキュリティの高いシステム開発能力とともに、画像、映像、音声などの様々な情報発信のためのコンテンツを企画、創造、開発する能力を有する。（情報技術・コンテンツ領域）高度情報化社会についての国際、社会、経済、法的な理論を基に、様々なメディアを介したコミュニケーションにおける情報内容や表現方法が社会に及ぼす影響について理解し、実践的活用能力を有する。（社会情報領域）システム開発にかかる知識や技術を有し情報技術分野で幅広く活躍できる能力、感性豊かな実践的想像力を有し情報技術を駆使して創造的デザイン分野で活躍できる能力、情報セキュリティに関する知識や技術を有し情報セキュリティ分野で活躍できる能力を有する。（情報システム・セキュリティ領域）

#### カリキュラムポリシー

##### 国際交流学専攻

- 21世紀の国際関係、国際社会の諸問題を学際的に研究考察する際に必要となる学識を涵養する。
  - 国際関係、国際経済、国際協調、日本を取り巻く国際環境について研究する科目群として、「日本政治外交史」「日米関係と安全保障」「朝鮮半島の政治」「中国の政治欧州統合論」「国際関係史」「国際紛争と法」「国際機構と法」「国際ビジネス論」「国際経営論」「国際金融論」「国際経済学」などを設置する。
  - 国際社会、国際交流や異文化への理解を深めるための科目群として、「異文化間コミュニケーション」「比較文化論」「異文化共生論」「中国文化論」「韓国文化論」「東洋史特論」「西洋中世史」「文化とパフォーマンス」などを設置する。

2. 国際社会の一員として発信できる高度なコミュニケーション能力を涵養する。
  - ・世界に向けて発信していくための外国語コミュニケーション能力を涵養する科目群として、「英語コミュニケーション論」「中国語コミュニケーション論」「韓国語コミュニケーション論」などを設置する。
  - ・世界に情報を発信する際に必要となる日本に関する知識を高める科目群として、「日本文化論」「日本近世史」「日本近代文学」「長崎地域資料論」などを設置する。
3. 英語圏の文学、英語コミュニケーションの専門家としての専門知識を涵養する。
  - ・高度な英語コミュニケーション能力や英語に関する専門知識の習得のための科目として、「英語音声学・音韻論」「英語学概論」「英語学特論」「国際英語論」「応用言語学」「英語教育研究」「翻訳論」「イギリス文学」「アメリカ文学」などを設置する。

#### 情報メディア学専攻

1. 情報システムの開発や普及に貢献するための能力を涵養する。
  - ・情報技術理論とシステム開発、画像処理技術の科目として、「微分幾何学」「カオス時系列解析」「情報セキュリティ」「画像情報処理」「画像計測」「ヒューマンインターフェース」などを設置する。
  - ・情報発信のためのコンテンツの企画、創造、開発の科目として、「視聴覚コミュニケーション」「色彩情報」「メディアコンテンツプランニング」「視覚認知」などを設置する。
2. 高度情報社会の学際的理解を涵養する。
  - ・社会情報関連の科目として、「映像ジャーナリズム論」「情報ネット経済」「情報法」「メディア・コミュニケーション」「情報政策」「ジャーナリズム論」などを設置する。
  - ・メディア関連の科目として、「映像と社会」「文化と社会」「メディアと表現」「教育とメディア」「広告と文化」「アメリカの外交と安全保障政策」などを設置する。
3. 情報セキュリティ分野で幅広く活躍できる能力を涵養する。
  - ・情報システム関連の科目として、「ソフトウェア開発方法論」「数理論形論」「コンピュータビジョン」「空間情報工学」「感情工学」「色彩情報」などを設置する。
  - ・情報セキュリティ関連の科目として、「情報セキュリティと社会・個人」「暗号応用技術」「ネットワークセキュリティ対策技術応用」「人工知能技術」「計算の複雑さ」「数理学とその応用」「情報理論とその応用」などを設置する。

## 人間健康科学研究科

### 長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

### 人間健康科学研究科

#### 教育目標

人間健康科学研究科は、本学が公立大学であることを強く意識し、大学の知的財産を地域社会や住民・企業等に還元することが大きな責務であると認識しています。

島嶼の多い長崎県では過疎化と高齢化が他の都道府県より進んでおり、保健・医療・福祉関係の出費の比率は極めて高くなっています。これらの領域における課題解決のための高度な専門的知識や技術を創造する研究者および高度専門職業人を育成することが本研究科の教育目標です。

このことを踏まえ、県民の健康の保持増進ならびに疾病の予防に寄与する最新の知識や技術を研究開発する能力、最新の知識や技術を活用して県民の健康水準を向上させていく能力、地域の専門職と連携して県民の生活習慣に変革をもたらす政策を考案し、保健・医療・福祉・介護システムを変革する能力、健康保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力などをもった高度専門職業人を育成すると共に、地場産業の発展・活性化に寄与する研究・開発に取り組みます。その育成の対象は、学部卒の一般学生のみならず、社会人、外国人留学生などを含んでいます。

#### ディプロマポリシー

##### 看護学専攻

保健・医療・福祉に関わるニーズの多様化・複雑化、社会の変化に対応するには、自ら課題を探求し、幅広い視野にたつて柔軟かつ総合的な判断ができるための知識、技能、研究能力が必要とされている。また、過疎化・高齢化が急速に進んでいる本県においては、高度化・細分化および特性化した地域の社会的ニーズに応えるためのマンパワーの育成および再教育が求められている。このような状況の中で、本専攻では、最新の看護や公衆衛生に関する知識を修得するとともに、情報処理やリスクマネジメントにかかる知識や技術を修得することにより、次のような能力を有する人材を育成する。

1. 看護・公衆衛生領域に関する多くの諸問題の解決ができる指導的人材、すなわち高度専門職業人としての能力
2. 看護・公衆衛生領域における実践的な教育指導ができる高度な専門家としての能力
3. 将来の看護学や公衆衛生看護学の基盤を支え、学術研究を通じて社会に貢献できる研究者、教育者としての能力

##### 栄養科学専攻 博士前期課程

本課程では、「食や運動と健康」に関わる最新の知識や実践的技術を持ち、さらに健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追究することにより、次に掲げる知識や能力を有する人材を育成する。

1. 機能的食品や社会的ニーズにあった食品を研究・開発するための高度な知識や能力
2. 保健・医療・福祉分野で活躍できる高度専門職業人としての知識や実践能力
3. 健康の保持・増進の視点に立ち、次世代の専門職業人を育てる教育研究支援者としての能力

##### 栄養科学専攻 博士後期課程

本課程では、「食や運動と健康」に関わる最新の知識や実践的技術を持ち、さらに健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追及し、専門領域の学術レベルの向上に資することにより、次に掲げる知識や能力を有する人材を育成する。

1. 専門的な知識や技術を修得して、基礎栄養科学分野や実践栄養科学分野等において国際的なレベルで高度な専門研究を推進できる研究者としての能力
2. 健康の保持・増進の視点に立ち、次世代の専門職業人を育てる教育研究指導者としての能力
3. 保健・医療・福祉分野で活躍できる高度専門職業人としての知識や実践能力および指導者としての能力

## カリキュラムポリシー

## 看護学専攻

上記ディプロマポリシーの目標を達成できるよう、以下に示す教育方針で教育課程を編成し科目を設置する。

## 《教育方針》

1. 看護研究において理論と方法に基づき分析し検討を行うことができる。
2. 地域の健康問題に関してヘルスアセスメントを行うことができる。
3. 看護行政についての確かな判断・提案をすることができる。
4. 地域住民の立場に立って健康に関する問題点を見つけ出すことができる。
5. 自分の専門の分野において高度な看護実践能力を発揮し、現場の指導者となることができる。

## 《教育課程（科目）》

1. 管理能力の育成と健康管理・指導能力の育成に重点を置き、『看護学共通科目』『看護学実践分野科目』及び『公衆衛生看護学分野科目』を設置する。
2. 『看護学共通科目』は、看護研究の基盤となる「看護研究の理論と方法」「保健統計演習」、理論的検討を行う「看護理論」、看護に求められる「ヘルスアセスメント」、変化する保健・医療・福祉政策の中での保健・医療行政を検討する「保健・医療政策論」「医療経済・地域経済特論」「行政・組織特論」、対人関係能力の育成科目として「メンタルヘルス」、健康課題をグローバルな視点で考える「グローバルヘルス」、現在最も重要な医療課題の「生活習慣病予防論」を設置する。
3. 『看護学実践分野科目』は、看護学を広く深く学修する「看護学実践特論」「看護学実践演習」と自らの志向に応じ看護の専門分野において学修を深め修士論文を作成する「看護学実践特別研究」を設置する。
4. 『公衆衛生看護学分野科目』は、保健師国家試験受験資格に必要となる必須科目に加え、実践的研究能力を学修する専門科目と高度な実践能力を養う実習科目として「公衆衛生看護学発展実習」「社会調査法」「健康危機管理特論」「環境保健特論」「保健情報特論」「公共性特論」、及び修士論文を作成する「実践研究」を設置する。

## 栄養科学専攻 博士前期課程

1. 栄養科学分野における専門的職業人、研究者および教育指導者を育成するために、『領域共通科目』『基礎栄養科学領域』『実践栄養科学領域』および『専門科目』を設置する。
2. 栄養科学専攻の全体的な教育・研究内容について理解するための導入として、『領域共通科目』として「栄養科学特論」「栄養科学演習」を設置する。
3. 専門的な基礎知識および理論を修得するために『基礎栄養科学領域』の各特論を設置する。
4. 人間を対象としたものの考え方に視点を置いた実践科学としての栄養学を修得するために『実践栄養科学領域』の各特論を設置する。
5. 栄養科学分野の研究者として必要な知識や研究開発するための能力を『専門科目』で養成するために、「栄養科学特別研究Ⅰ」と「栄養科学特別演習Ⅰ」を設置する。
6. 研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、健康科学を探究する修士論文の作成に取り組むために、「栄養科学特別研究Ⅰ」を設置する
7. ゼミ形式により、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解する。また、研究成果の学会での発表、学術誌への原稿作成や投稿について修得することを目的として、「栄養科学特別演習Ⅰ」を設置する。

## 栄養科学専攻 博士後期課程

1. 栄養科学分野におけるより高度な専門的職業人、研究者および教育指導者を育成するために、『研究支援科目』と『研究指導科目』を設置する。
2. 博士論文研究を支援するために、『研究支援科目』として「基礎栄養科学特講」と「実践栄養科学特講」を設置する。
3. 基礎栄養の高度な知識および理論を修得するために、基礎栄養科学領域の教員による「基礎栄養科学特講」を設置する。
4. 実践栄養の高度な知識および理論を修得するために、実践栄養科学領域の教員による「実践栄養科学特講」を設置する。
5. 栄養科学分野におけるより高度な専門的職業人として必要な知識や研究開発するための能力を『研究指導科目』で養成するために、「栄養科学特別研究Ⅱ」と「栄養科学特別演習Ⅱ」を設置する。
6. 研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、健康科学を探究する学術論文および博士論文の作成に取り組むために、「栄養科学特別研究Ⅱ」を設置する。
7. ゼミ形式により、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得する。また、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得することを目的として、「栄養科学特別演習Ⅱ」を設置する。

## 長崎県立大学ナンバリングシステム

### 1. ナンバリングとは

ナンバリングとは「授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みである」と定義されています。

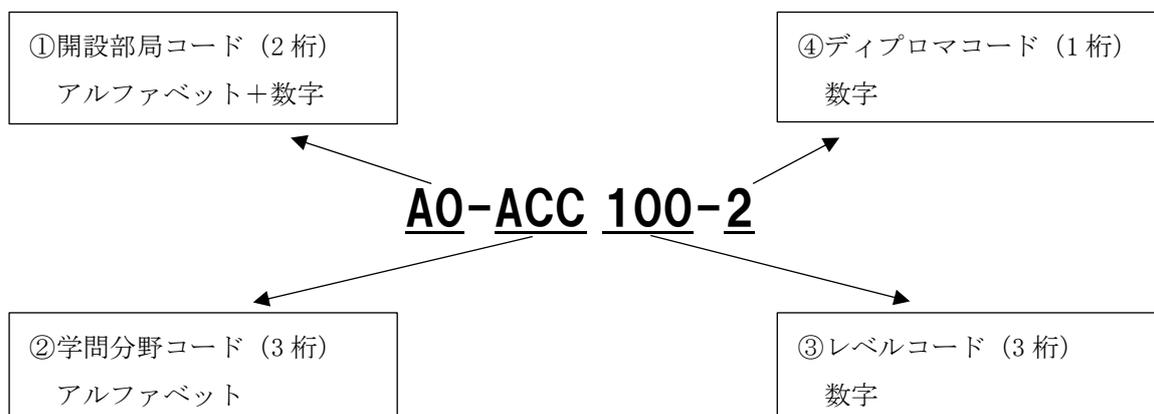
カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーを踏まえながら各科目の分野や順次性、科目同士の関連性を意識し、各科目にコースコードを付していくことで、各科目がどの分野の下でどの履修段階に位置するかを示すことができ、各学科のカリキュラム構造を容易に理解することが可能になります。

学生側のメリットとしては、授業科目の水準や授業科目同士の関連性、そして順次性を把握することができ、見通しをもって主体的かつ計画的に学修を進めることが可能になります。さらに、ナンバリングは海外の大学でも行われています。コースコードは大学によって異なりますが、レベルの設定はほぼ同様ですので、海外大学との単位互換が容易になることも期待されます。

### 2. 長崎県立大学ナンバリングシステム

#### ◆コード体系

本学におけるナンバリング導入の前提に照らして、本学のコースコードは「①開設部局コード」、「②学問分野コード」、「③レベルコード」、「④ディプロマコード」の4種類の要素によるシンプルな9桁で構成されています。



#### ① 開設部局コード (2桁)

開設部局コードは本学の学部学科組織を明示します。5学部9学科の識別は、本学が学生に付与している学籍番号の頭から2桁目(アルファベット)と3桁目(数字)を使用します。学籍番号の一部を利用することで学生、教職員にとってわかりやすいコードとなっています。全学、教職、学部共通科目については、別途専用のコードを採番します。

開設部局コード			
全学	A	全学教育	0
経営	B	経営学部共通	0
		経営学科専門	1
		国際経営学科専門	2
地域創造	R	地域創造学部共通	0
		公共政策学科専門	1
		実践経済学科専門	2
国際社会	G	国際社会学科専門	1
情報システム	S	情報システム学部共通	0
		情報システム学科専門	1
		情報セキュリティ学科専門	2
看護栄養	N	看護栄養学部共通	0
		看護学科専門	1
		栄養健康学科専門	2
教職	E	教職科目	0

## ②学問分野コード (3桁)

学問分野コードは学内外に共通する学問分野分類名(英語版)から3桁のアルファベットに略したものを使用します。

## ③レベルコード (3桁)

レベルコードは、1桁目(百の位, レベル①)に順次性, 2桁目(十の位, レベル②)に学部学科により定義されるレベル表記(定義されない場合は0), 3桁目(一の位)に履修対象者を示します。1桁目の順次性は、国際的にも標準となっている初年次, 入門・・大学院レベルといった1~5の数字で示します。2桁目は、学部学科で必要に応じて定義することがあります。必要がない学科では、0を表記します。3桁目の履修対象者は、学部学科を問わずというケースから、学部学科に限るといったケースなど0~3の4種類で示します。

レベル①		レベル②	履修者の範囲	
初年次	100番台	各学科にて、レベル①よりも細分化する必要がある場合には、適宜使用。使用しない場合はすべて「0」	だれでも履修可	0
入門	200番台		当該学部学生のみ履修可	1
中級	300番台		当該学科学生のみ履修可	2
上級	400番台		全学教育科目のうち特定の学科学生のみ履修可	3
(大学院)	500番台		留学生のみ履修可	4

#### ④ディプロマコード（1桁）

ディプロマコードは、大学が育成しようとしている人材像，修得できる能力を明示するもので，学生にとっては履修科目で修得する目標が明示され，社会に対しては学修の質的保証に資するコードです。

学科毎に設定している3～4つのDPは，修得できる能力が示されています。授業科目が，学部学科で定めているDPのどれに対応しているのかを示します。

これら4種類の要素をもつ本学のコースコードは，学生，教職員だけでなく，他大学や社会に対しても具体的でわかりやすい実用性と汎用性を併せ持ったユニークなコード体系です。

## 進級・卒業要件及び設定科目

学部名	学科名	進級要件			卒業要件		
		要件	科目名	配当年次	要件	科目名	配当年次
経営学部	経営学科	日経テスト300点	新聞で学ぶ経済Ⅱ	2前	日商簿記検定2級	簿記演習Ⅰ	3前
					ファイナンシャル・プランニング技能検定2級	ファイナンシャルプランニング演習	3後
					販売士検定2級	販売・経営管理演習	3後
					日経テスト430点	新聞で学ぶ経済Ⅲ	3前
	(アカデミックコース)	日経テスト300点	新聞で学ぶ経済Ⅱ	2前	税理士試験1科目	簿記演習Ⅱ	1後
		日商簿記検定2級	簿記演習Ⅰ	1前	日商簿記検定1級		
					全経簿記能力検定上級		
	国際経営学科	日経テスト300点	新聞で学ぶ経済Ⅱ	2前	TOEIC730点	英語実践演習	1前～2後
		TOEIC600点	英語実践演習	1前～2後			
	地域創造学部	公共政策学科	日経テスト300点	新聞で学ぶ経済Ⅱ	2前	日経テスト430点 (ニュース時事能力検定2級)	新聞で学ぶ経済Ⅲ
実践経済学科		日経テスト300点	新聞で学ぶ経済Ⅱ	2前	日経テスト430点	新聞で学ぶ経済Ⅲ	3①
国際社会学部	国際社会学科	英語選択：TOEIC600点	英語実践演習	1前～3後	英語選択：TOEIC730点	英語実践演習	1前～3後
		中国語選択：中国語検定3級	中国語	1前～3後	中国語選択：中国語検定2級	中国語	1前～3後
情報システム学部	情報システム学科	ITパスポート	情報技術演習	1前・後	基本情報技術者試験	情報システム演習	1・2前・後
	情報セキュリティ学科	ITパスポート	情報技術演習	1前・後	情報セキュリティマネジメント試験	情報セキュリティ演習	1・2前・後

## 平成30年度 卒業要件達成に向けた各学科での取組

学科名	平成30年度における卒業要件達成に向けた具体的な取組内容
経営学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学科資格取得推進委員会により、新入生向けの資格ガイダンス（簿記、販売士、FP）を実施した。</li> <li>○学科中期計画課題検討委員会を開催し、進級・卒業要件面談及びFD研修会の実施スケジュールを検討した。</li> <li>○面談を前期に2回、後期に2回実施し、個別に指導した。</li> <li>○「日経テスト要件取得にかかる指導について」をテーマに学科FD研修会を開催した。</li> <li>○「卒業要件早期取得・高い目標達成のための情報共有」をテーマに学科FD研修会を開催した。</li> <li>○学科資格取得推進委員会を開催し、次年度の指導計画を策定した。</li> </ul>
国際経営学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年次より、試験毎に、受験状況や取得点数の確認を行い、英語教員、演習担当教員、学科長を中心に個別指導を実施した。</li> <li>○TOEIC730点未達者に対して、学科教員による特別レッスンを実施した。</li> <li>○学科長、教務担当、外部英語教員との定期的会議（月に1度）を開催。TOEICの伸び、伸び悩み学生への対処、講義時の態度などについて情報を共有し、指導に活かすようにした。</li> <li>○TOEICの点数が伸びない学生に対しては、演習担当教員により学生からの悩み相談などを実施し、外部英語教員につないで指導した。その後も改善がない場合は、学科長と外部英語担当教員との面談を行い、外部英語担当教員からは学修方法の指導、学科長からは生活面での改善指導などを実施した（生活のバランス、アルバイトやサークルなどと英語勉強とのバランスなど）。さらに、必要な場合は保護者にも連絡を取り、保護者との面談を実施した。</li> <li>○外部英語教員や学科教員とで、英語教育・指導検討会（2～3回程度）を開催した。さらに、今後の英語教育をより良いものにするため、講義の内容、講義の速度、テキスト活用、テストなどについては学生をも交えて意見交換を実施。TOEIC730未達学生への外部英語教員による特別レッスンを実施した（3回程度）。</li> <li>○週1コマを設定して教室でTOEIC730未達学生に対する対策の自学を行った（初年次より実施。自学時には学科教員1名が相談・指導役として配置）。</li> <li>○外部英語教員のオフィスアワーを活用し、自学を基本としながら、その英語教員が質問を受けた。全員参加が望ましいが、少人数でも実施した。</li> </ul>
公共政策学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複数回の試験において成績が伸びない学生や試験未受験の学生については、教務委員やゼミ担当教員が面談を行い、学習指導を行った。</li> <li>○ニュース時事能力検定を選択する学生に向けて、適切な支援が行える体制を整えた。</li> <li>○学生の状況について、適宜学科会議等で情報共有を図り、組織的な支援を行っている。</li> </ul>
実践経済学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新聞で学ぶ経済Ⅱ」の授業では、毎回オリジナルの小テスト及び正答解答を行った。</li> <li>○6月・8月の日経TESTを念頭に置いた模擬試験を実施した。</li> <li>○学生からの求めに応じ、学科教員により個別・集団指導を実施した。</li> </ul>
国際社会学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業要件を早期に取得させるため、ゼミの教員により資格取得に向けた助言を積極的に行った。</li> <li>○e-learningシステムを利用して文法力の向上を促した。</li> <li>○英語選択者のために、11月～12月に、全8回にわたる特別講座を実施した。</li> <li>○中国語選択者のために、11月に全4回の特別講座を実施した。</li> </ul>
情報システム学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「情報システム演習」において、教員が常時3名教室に滞在し、座学のほかに学生からの質問を受け付ける体制を整えている。</li> <li>○2018年秋の試験に向けて、9月及び10月に模擬試験を実施し、試験後は試験内容の解説を行った。</li> <li>○2019年春の試験に向けて、3月及び4月に模擬試験を実施し、試験後は試験内容の解説を行った。</li> <li>○未合格者に対して、演習担当教員による特別指導を行った。</li> </ul>
情報セキュリティ学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏季休暇中及び10月に集中講義を実施し、資格未取得の学生に対しては全員の参加を促した。</li> <li>○2019年春の試験に向けて、3月及び4月に集中講義を実施した。</li> </ul>

## 長崎県立大学学生表彰実施要項

## (趣旨)

第1条 この要項は、長崎県立大学学生表彰規程（以下「規程」という。）第9条の規定に基づき、表彰の実施に関し必要な事項を定める。

## (表彰の基準)

第2条 規程第2条に定める被表彰者については、次の基準により推薦及び選考を行う。

- (1) 規程第2条第1項第1号に定める被表彰候補者の選考は次の基準による。
- (イ) 所属する学科・専攻において、修業期間の成績が最も優秀であった学生  
なお、被表彰候補者の選考については、各学科・専攻に委ねる。
- (ロ) その他、別紙1の基準を満たし上記(イ)と同等以上の成績を修めたと認められる学生  
ただし、累積GPAが以下の場合は表彰対象から除外する。

学部又は学科	累積GPA
経営学部、地域創造学部	1.5以下
国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部看護学科	2.0以下
看護栄養学部栄養健康学科	2.3以下

なお、一つの資格に対する受賞は在学中に一回限りとする。

また、表彰の対象となる資格等の取得の期間は1月から12月とし、原則として翌年の1月に表彰する。（ただし、平成30年度においては、平成28年4月から平成30年12月までの期間を当該取得の対象期間とする。）

- (2) 規程第2条第1項第2号に定める被表彰候補者の選考は、次の基準による。
- (イ) 研究成果・論文が学会等からの授賞などにより特に高い評価を得た場合
- (ロ) 学生又は学生団体の研究が、地域の活性化など地域振興に寄与するものとして、社会的に高く評価された場合
- (3) 規程第2条第1項第3号に定める課外活動の被表彰候補者の選考は次の基準による。
- イ 体育系課外活動
- (イ) 全国的規模の競技会において、第3位以上の成績を修めた学生又は学生団体
- (ロ) 九州の各地区が合同で行う競技会において、優勝に相当する成績を修めた学生又は学生団体
- (ハ) その他、上記(イ)、(ロ)と同等以上の成績を修めたと認められる学生又は学生団体
- ロ 文化系課外活動
- (イ) 全国的規模の展示会等において、第3位以上に入賞・入選した学生又は学生団体
- (ロ) 九州の各地区が合同で行う展示会等において、最優秀賞（これに相当する賞を含む。）を受賞した学生又は学生団体
- (ハ) その他、上記(イ)、(ロ)と同等以上の成績を修めたと認められる学生又は学生団体
- (4) 規程第2条第1項第4号に定める社会活動の被表彰候補者は、ボランティア活動、人命救助、犯罪防止、災害防止等の社会活動で顕著な功績があった者として、社会的に高く評価された学生又は学生団体とする。
- なお、公的機関等の表彰の有無、新聞等による報道の有無を考慮するものとする。
- (5) 規程第2条第1項第5号の被表彰候補者の選考については選考組織に委ねる。

## (推薦)

第3条 規程第3条に定める推薦書の様式は、別紙様式第1とし、その事実を証明する文書等を添えるものとする。

## (表彰)

第4条 同一年度に表彰の対象となる複数の功績があった学生又は学生団体にあつては、これらの功績等のそれぞれについて表彰することができる。

(表彰状)

第5条 規程第5条に定める表彰状の様式は、別紙様式第2に準ずる。

2 前項の表彰状には、表彰の理由となった成果及び活動の内容を表す顕彰文を明記するものとする。

## 別紙1

学 科	資 格 等	点数・等級	
経営学科	日商簿記検定	1 級	
	全経簿記能力検定	上級	
	販売士検定	1 級	
	日経 TEST	500 点以上	
国際経営学科	TOEIC テスト	860 点以上	※
	日経 TEST	500 点以上	
	その他の検定	上記と同レベル以上	
公共政策学科	日経 TEST	500 点以上	
	ニュース時事能力検定	1 級	
実践経済学科	日経 TEST	500 点以上	
国際社会学科	TOEIC テスト	860 点以上	
	中国語検定	準 1 級以上	
	その他の検定	上記と同レベル以上	
情報システム学科	情報処理技術者試験	レベル 3 以上	
	CG クリエイター検定	ベーシック	
	CG エンジニア検定	ベーシック	
	映像 (CG などのコンテンツ系) コンテスト	入賞	
	課題解決系ビジネスコンテストやアプリコンテスト	入賞	
	学会・研究会・シンポジウム等	投稿・発表	
情報セキュリティ学科	CompTIA Security+	取得 (合格)	
	シスコ社 CCENT/CCNA Security	取得 (合格)	
	情報処理技術者試験	レベル 3 以上	
	セキュリティキャンプ、CTF 地方大会	参加	
	ACM-ICPC 国際大学対抗プログラミングコンテストの国内予選に参加	上位 50%以内の成績	
	学会・研究会・シンポジウム等	投稿・発表	
看護学科	しまの健康実習学内報告会	最優秀グループ	※
	「看護師」校外模擬試験	Aa 評価者	※
栄養健康学科	「管理栄養士」校外模擬試験	得点率 60%以上	※

※については、中期計画にはなかった内容

## 平成30年度奨励賞表彰式を行いました

この度、平成30年度奨励賞の表彰式を実施しました。本学では、長崎県立大学法人の中期計画に掲げる高い目標等を達成した学生に対し、奨励賞の表彰を行うこととなりました。

今回表彰された学生は107名、3団体で、太田博道学長より表彰状が授与され、お祝いの言葉と激励の言葉が贈られました。

今後も、努力を惜みず研鑽を重ね、より一層飛躍することを期待しています。



【佐世保校での表彰式の様子】



【佐世保校での表彰式の様子】



【シーボルト校での表彰式の様子】



【シーボルト校での表彰式の様子】

# 長崎県立大学 大学院

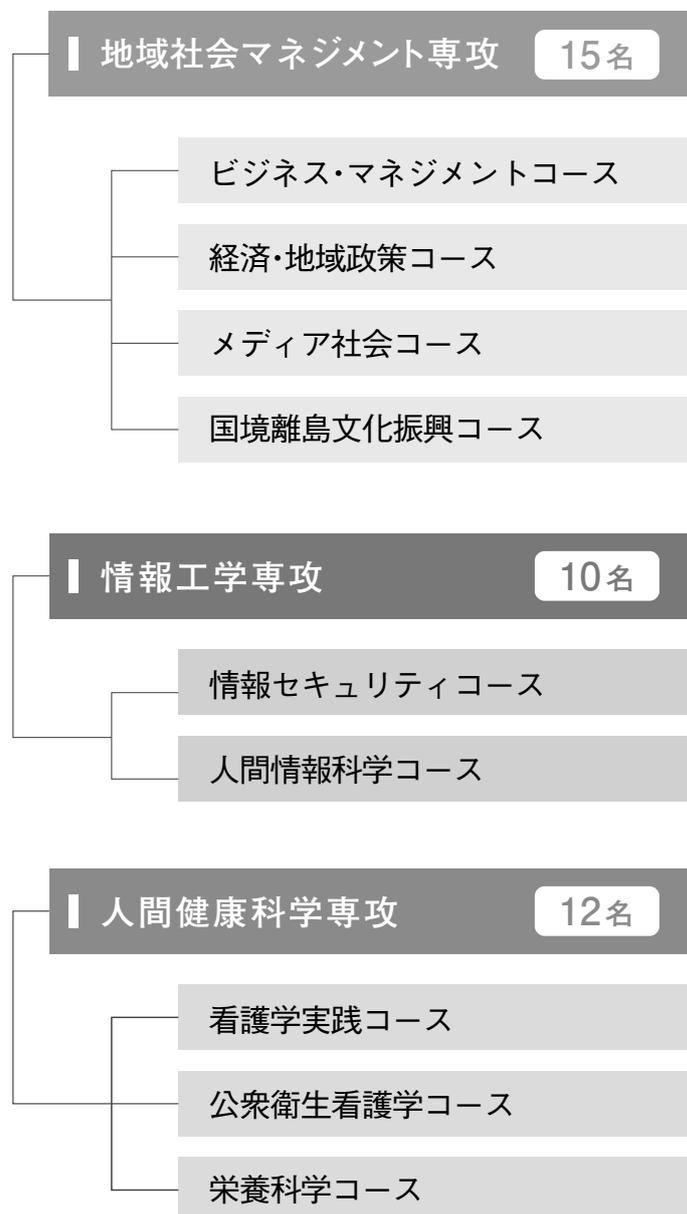
2020年4月新設

## 地域創生研究科

## 大学院の組織図

Organization chart

## 地域創生研究科(修士課程)【入学定員】



※公衆衛生看護学コースでは、教育課程の変更承認申請中であり、今後、カリキュラムを変更することがあります。

## 人間健康科学研究科(博士後期課程)【入学定員】

I 栄養科学専攻 3名

# 地域社会マネジメント専攻

Division Of Regional Management

- ◆ ビジネス・マネジメントコース
- ◆ 経済・地域政策コース
- ◆ メディア社会コース
- ◆ 国境離島文化振興コース

## 》こんな人を求めています。

- 経営学、経済学、マスメディア、社会学等の学びを深めたい人
- これまでの経験を理論化してさらに研鑽を深めたい現職者または退職者
- 税理士資格の取得を目指す社会人または学部生
- 海外進出、国内の新規市場創出、新製品開発等を考える経営者
- 地域資源の発掘と有効活用策について調査研究したい人
- 日本企業への就職や、日本で修士号を取得したいと考える留学生
- 国境離島の文化や経済振興に主体的に貢献したいという意欲のある人



## 》地域社会マネジメント専攻の特長

- より高度な経済分析能力が習得できる。
- 地域課題の原因や対象方法について専門的に理解することができる。
- メディア社会コースには、中国人の教員が在籍しているため、中国語と日本語で学ぶことができる。
- 国境離島の文化や経済振興に関する科目が充実している。

## message

専攻準備委員長メッセージ

「平成」の30年間、社会・経済は大きく変化しました。「少子高齢化」、すなわちマーケットの縮小と労働人口の減少、20世紀社会を支えた自動車に関わる変化、エンジン駆動からモーター駆動への変化と運転の自動化、また、「グローバリゼーション」の流れの一方で、「地域創生、活性化」等々、これまでの政策・経営のやり方が通用しないということになります。社会・経済は変化し続け、政府・自治体も企業もその変化に対応していく必要があるでしょう。「マネジメント(経営)」とは、変化する環境にいかに対応していくのか、をその内容としています。「地域社会マネジメント専攻」はグローバル化への適応と共に地域課題の解決、そして資源・エネルギー環境の変化や労働市場の変化等々に対応する必要性から創設されました。「ビジネス・マネジメントコース」では、環境適応＝マネジメントの研究を、「経済・地域政策コース」では、「市場」という適応すべき環境とその市場と協力して社会を維持させていく「行政」の研究、「メディア社会コース」では、マネジメントおよび行政において決定的に重要な「情報、コミュニケーション、メディア」の研究、そして「国境離島文化振興コース」では長崎県の特徴的環境である「離島」に関する研究を行います。多くの人々が新しい社会を創っていけるように手助けをしていきたいと考えています。



地域社会マネジメント  
専攻準備委員長

三戸 浩

# 情報工学専攻

Division Of Computer Science

◆ 情報セキュリティコース

◆ 人間情報科学コース

## 》こんな人を求めています。

- 情報セキュリティや人間情報科学に関わる問題を自ら発見し、解決する意欲・情熱を持つ人
- 専門分野の変化や革新に対して強い関心を持つ人
- 情報工学を理解するために必要な数学、理科の知識を深めたい人
- 情報科学・認知科学・デザイン学等の複合分野とその周辺分野に関心を持つ人
- 高度な知識・技術を修得し、人材不足といわれる情報セキュリティベンダなど、または、コンテンツ産業などの情報産業関連企業等へ就職を目指す人



## 》情報工学専攻の特長

- 計算機科学、通信工学、サイバー攻撃の系統的追究、情報セキュリティリスクマネジメント、ソフトウェア工学、空間情報工学、実世界情報処理、ヒューマンインターフェース等に亘る多彩な研究領域
- 国内初の情報セキュリティ学科での学びをさらに深める高度なカリキュラム
- CGや映像、サウンド等の各種メディアを駆使し、情報をデザインする人間情報科学コースのカリキュラム
- 課題設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養する研究指導



## message

専攻準備委員長メッセージ

「計算と通信、また、人間と機械の営みで作れる、実世界と仮想世界を融合させた未来社会はどんなものか？」情報工学専攻ではこんなことに思いを巡らします。皆様は、あらゆるものに計算・通信装置を埋め込むIoTや環境センシングの技術、膨大なデータを処理するビッグデータ処理や人工知能（AI）の技術、バーチャルリアリティや実世界コンピューティング、ドローンや自動運転といった技術、ネットワークを流れクラウドに保存されるデータに対する強固なセキュリティ技術等について耳にしたことがおありでしょうか。また、未来社会の設計指針を立てるためには人間理解こそが重要であるとも考えたことがおありではないでしょうか。

これらのことを学術の視点から探求する場が情報工学専攻です。この専攻に、情報セキュリティコース、及び人間情報科学コースの2コースを設置します。情報セキュリティコースでは、暗号理論、データセキュリティ、セキュアな情報システムの運用、ネットワークの状況把握や攻撃検知、またリスクマネジメントといった講義科目を揃えます。人間情報科学コースでは、情報処理システムとしての人間理解、実世界のデジタルモデリング、デジタル情報処理、デジタルおよび物理レンダリングまでをカバーする講義科目を揃えます。この2コース各々から講義科目を選択し履修することも可能です。



情報工学専攻  
準備委員長

穴田 啓晃

# 人間健康科学専攻

Division Of Human Health Science

◆ 看護学実践コース ◆ 公衆衛生看護学コース ◆ 栄養科学コース

## 》こんな人を求めています。

- 高度の専門知識や技術を修得したスペシャリストを目指す人
- 専門分野の修士号の取得を目指す現職の看護師や管理栄養士
- 保健師になることを希望し保健師国家試験の受験資格を得たい人
- 栄養科学の博士課程への進学を希望する人
- 高等教育機関での教育研究者を目指す人



## 》人間健康科学専攻の特長

- 社会学系の科目を取り入れており、経済や政策の情勢を学ぶことで知識の幅を広げることができる。
- 多くのOB・OGが病院、行政機関、高等教育機関、研究機関で教育研究者として勤務している。
- 公衆衛生看護学コースでは、講義・演習・実習を通して実践力を獲得し、様々な機関で充実した臨地実習を体験することができる。
- 公衆衛生看護学コースでは、保健師国家試験の受験資格だけでなく、養護教諭二種免許状、第一種衛生管理者免許の資格が取得できる。  
※保健師免許取得後、申請が必要です。



## message

専攻準備委員長メッセージ

本専攻では、保健・医療・福祉に関する領域における課題解決のための高度な専門的知識や技術を創造する研究者および高度専門職業人を育成することを教育目標としています。本専攻の前身である人間健康科学研究科では、既に多くの高度専門職業人の育成実績があり、多数の修了生が長崎県のみならず全国の病院、行政機関、高等教育機関、研究機関で活躍しています。また、栄養科学専攻博士後期課程に進学し博士(栄養科学)の学位を取得するといったより高度な学位の取得を目指すことも可能です。さらに本専攻教員は、日本学術振興会をはじめ多くの外部資金を導入し、様々な事業との連携を行っており、産学官連携事業や地域貢献事業に参画する機会も多くあります。

看護学実践コース、公衆衛生看護学コース、栄養科学コースそれぞれに、各専門分野における知識、経験、研究実績が豊富な専任教員を配置しており、各コースの連携によって、昨今の保健および医療現場で見られる複雑多岐にわたる諸問題に柔軟かつ適切に対応でき、質の高い高度な知識や技術を持った専門的職業人、研究者、指導者を育成し、社会に貢献することを目指しています。



人間健康科学専攻  
準備委員長

大塚 一徳

## 入学者選抜

- ◆ 出願期間：2019年7月22日(月)～8月2日(金)  
※出願はインターネット出願で受け付けます。
- ◆ 試験日程：2019年8月25日(日)
- ◆ 合格発表：2019年8月30日(金)

## 出願にあたっての事前面談

全ての志願者は、出願前に志望分野の担当教員との事前面談(メールを含む)を行う必要があります。

- ◆ 事前面談期間：2019年6月24(月)～8月2日(金)

※詳細については、公式ホームページに掲載している学生募集要項で確認してください。

## 出願要件

- ①学士の学位を有する者、または大学を卒業した者(卒業見込みを含む)
- ②外国において、学校教育における16年の課程を修了した者(卒業見込みを含む)
- ③文部科学大臣の定めるところにより、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
- ④本学大学院の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

※公衆衛生看護学コースにおいては、上記の出願要件のほか、日本の看護師免許を有する者(取得見込みを含む)とします。

## 選抜区分と試験内容

専攻/コース	一般選抜			社会人特別選抜			外国人留学生特別選抜			
	専門	英語	面接	専門	英語	面接	専門	英語	面接	
地域社会マネジメント専攻	ビジネス・マネジメント	○	○ ※1	○			○	○	○	
	経済・地域政策	○	○ ※1	○			○	○	○	
	メディア社会	○		○			○	○	○	
	国境離島文化振興	○		○			○	○	○	
情報工学専攻	情報セキュリティ	○	○	○			○		○	
	人間情報科学	○	○	○			○		○	
人間健康科学専攻	看護学実践	○	○ ※1	○	○	○ ※1	○			
	公衆衛生看護学	○	○ ※1	○	○	○ ※1	○			
	栄養科学	○	○ ※1	○	○	○ ※1	○	○	○ ※1	○

※1 英語の試験は、外部試験のスコアによって免除することができます。英語(該当区分のみ)の試験は、辞書持ち込み可です。

## 授業料

(円)

在籍形態	1年目		2年目		3年目		4年目		総額
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
標準(2年)	267,900	267,900	267,900	267,900	—	—	—	—	1,071,600
長期履修(3年)	178,600	178,600	178,600	178,600	178,600	178,600	—	—	
長期履修(4年)	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	

※授業料の金額は、現行の規定によるもので、変更になることがあります。

## 奨学金

日本学生支援機構奨学金：貸与月額(令和元年度実績)

区分	第一種(無利子)	第二種(有利子)
修士課程	50,000円 または 88,000円	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円 のいずれか

※上記以外にも地方公共団体、財団法人などの奨学金制度があります。

## 修了要件

大学院に2年以上在籍し、所定の単位(32単位以上)を修得するとともに、必要な研究指導を受け、修士論文等の研究成果の審査に合格すること。

ただし、公衆衛生看護学コースにおいて保健師国家試験受験資格の取得を希望する者は、大学院に2年以上在籍し、所定の単位(60単位以上)を修得するとともに、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究成果の審査に合格すること。

## 社会人学生等への配慮

### 長期履修学生制度

標準修業年限(2年)を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。納付する授業料の総額は標準修業年限で履修する学生と同額です。また、在学中の期間変更等も柔軟に対応します。

### 昼夜開講制度

夜間等に履修できるよう配慮します。志望する教員との事前面談の際にご相談ください。

※公衆衛生看護学コースは対象外

## お問い合わせについて

専攻・コースにより問い合わせ先が異なります。

専攻	コース	キャンパス
地域社会マネジメント専攻	ビジネス・マネジメントコース	佐世保校
	経済・地域政策コース	佐世保校
	メディア社会コース	シーボルト校
	国境離島文化振興コース	シーボルト校
情報工学専攻	情報セキュリティコース	シーボルト校
	人間情報科学コース	シーボルト校
人間健康科学専攻	看護学実践コース	シーボルト校
	公衆衛生看護学コース	シーボルト校
	栄養科学コース	シーボルト校

※国境離島文化振興コースは、担当教員によりキャンパスが異なります。

## お問い合わせ先

佐世保校

学生支援課学生グループ

〒858-8580 長崎県佐世保市川下町123 TEL 0956-47-5703

シーボルト校

学生支援課学生グループ

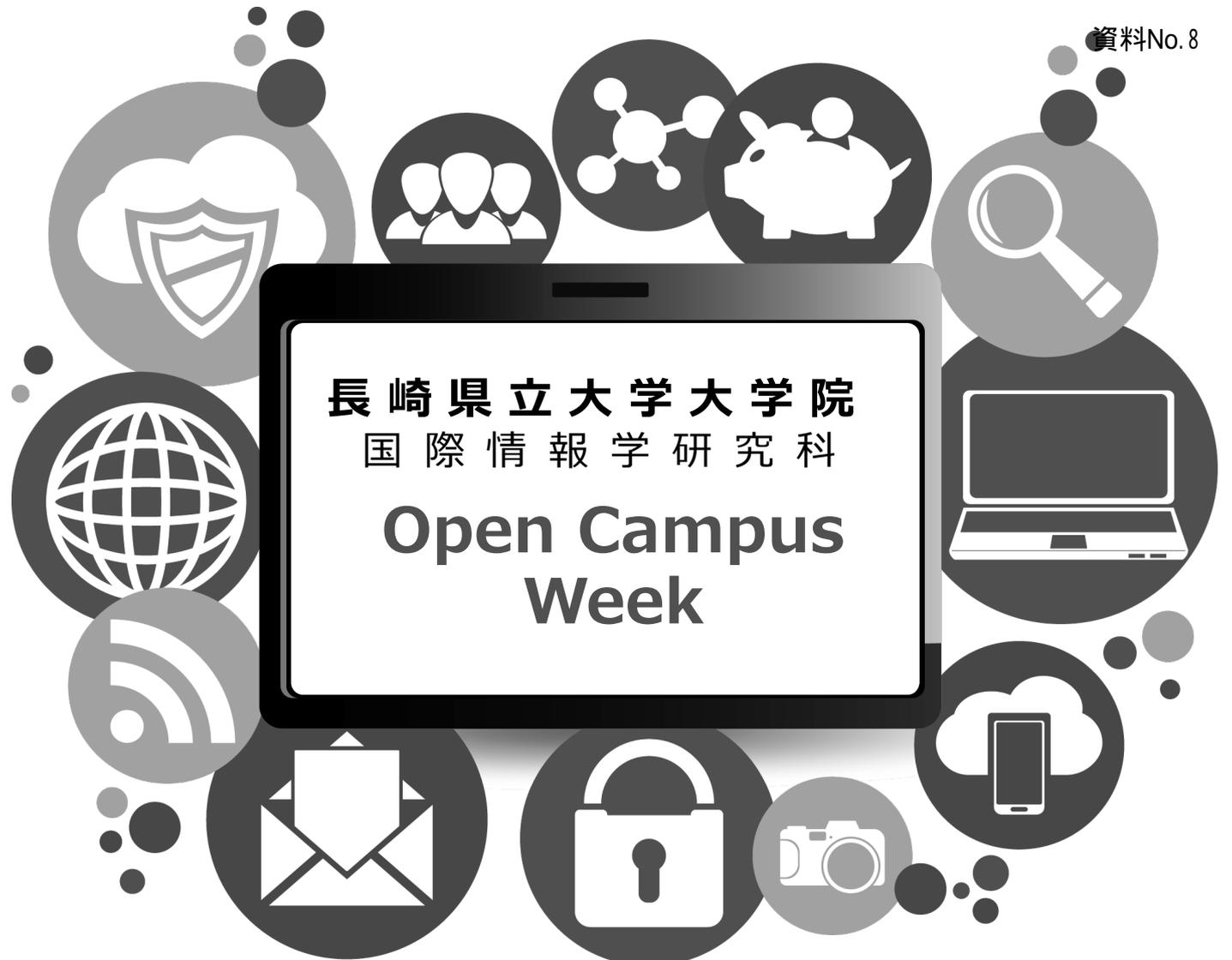
〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1 TEL 095-813-5065

## 入試情報等の詳細

学生募集要項等、入試情報の詳細は  
本学ホームページにてご確認ください。

<http://sun.ac.jp/examination/graduate/>





長崎県立大学大学院  
国際情報学研究科  
Open Campus  
Week

2018年**12月6日(木)** ~ **12月12日(水)**

※12月8日(土)と9日(日)は除きます。

◆ 国際交流学専攻  
(修士課程)

◆ 情報メディア学専攻  
(修士課程)

大学院での研究や将来のキャリアについてのご相談、その他知りたいことについて研究室でお話ししませんか？大学院での研究に興味がある方はお気軽にお越しください。

※専門分野と担当教員は裏面をご覧ください。

詳細につきましては本学ホームページをご覧ください

お問い合わせ・お申込み



長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

**TEL** 095-813-5065 (シーボルト校学生支援課)

**URL** <http://sun.ac.jp/examination/graduate/global/>



# 国際情報学研究科担当教員

専攻	領域	専門分野	教員名
国際交流学専攻	国際関係領域	日本政治外交史・東アジア関係史	李 炯喆 教授
		ヨーロッパ外交史、国際政治学	荻野 晃 教授
		中国政治・外交	祁 建民 教授
		国際金融論、国際経済論、アジア経済論	小原 篤次 准教授
		公法(国際法・憲法)	福島 涼史 准教授
	国際コミュニケーション領域	英語学	上村 俊彦 教授
		日本近代、現代文学	下野 孝文 教授
		西洋史	竹部 隆昌 教授
		日英比較文化論、日本映画論	唐津 理恵 准教授
		現代中国語文法、中国近・現代文学	周 国強 准教授
		アメリカ文学、翻訳論、表象文化論、カルチュラル・スタディーズ	山田 健太郎 准教授
		情報メディア学専攻	社会情報領域
メディア論、情報社会論、情報メディア工学	森田 均 教授		
デジタルメディア、情報政策、コンテンツ	金村 公一 准教授		
経済学(産業組織論、情報経済論、ネットワーク経済論)	河又 貴洋 准教授		
メディア/コミュニケーション研究、比較思想、社会学	門部 昌志 准教授		
社会学、メディア文化研究、ポピュラー音楽研究	吉光 正絵 准教授		
情報技術・コンテンツ領域	情報学(データベース、コンピュータネットワーク、情報セキュリティ)		C. ソムチャイ 教授
	数学(微分幾何学、フィンスラー幾何学)		永野 哲也 教授
	情報工学(ヒューマンインタフェース、画像処理)		辺見 一男 教授
	デジタルメディア、情報政策、コンテンツ		金村 公一 准教授
	画像計測、パターン認識		吉村 元秀 准教授
	画像情報工学		前村 葉子 講師
情報システム・セキュリティ領域	コンピュータグラフィックス、メディアコンテンツクリエーション		青木 研 教授
	農業情報学、画像処理、ヒューマンインターフェース		有田 大作 教授
	コンピュータネットワーク、ネットワークセキュリティ		加藤 雅彦 教授
	デザイン科学、メディア芸術、情報考古学		金谷 一朗 教授
	セーフウェア、ソフトウェア開発方法論		日下部 茂 教授
	情報セキュリティガバナンス、リスク管理、公開鍵暗号基盤		小松 文子 教授
	地理情報工学、画像工学、防災工学		平岡 透 教授
	暗号技術		松崎 なつめ 教授
	知能情報学、計算機科学、自然言語処理		山口 文彦 教授
	計算機科学、暗号学		穴田 啓晃 教授
	芸術工学、デザイン学、色彩情報、カラーアクセシビリティ		片山 徹也 准教授
	数理情報学		松田 健 准教授
量子情報理論	吉田 雅一 講師		

# 長崎県立大学大学院人間健康科学研究科 Open Campus Week



2018.12.6(Thu)～12.12(Wed)

※12月8日と9日は除きます

- 看護学専攻(修士課程)
- 栄養科学専攻(博士前期課程、博士後期課程)

大学院での研究についてのご相談や知りたいこと、得られる資格や就職先など、研究室でお話ししませんか？大学院での研究に興味がある方はお気軽にお越してください。

※専門分野と担当教員は裏面をご覧ください。

詳細につきましては本学ホームページをご覧ください



長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI



〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1  
TEL 095-813-5065(シーボルト校学生支援課)  
URL <http://sun.ac.jp/examination/graduate/health1/>



# 人間健康科学研究科研究担当教員

専攻名	専門分野	専門分野詳細	担当教員
看護学専攻	看護学分野 公衆衛生	公衆衛生看護学	中尾 八重子（ナカオ ヤエコ）教授 山谷 麻由美（ヤマヤ マユミ）准教授
		看護管理学	立石 憲彦（タテイシ ノリヒコ）教授
	看護学実践分野	看護管理・看護教育学	山澄 直美（ヤマスミ ナオミ）教授
		母性看護学・国際母子保健学	李 節子（リ セツコ）教授
		小児看護学	林田 りか（ハヤシダ リカ）准教授
		高齢者看護学、看護管理・政策学	河口 朝子（カワグチ アサコ）教授
		高齢者看護学	山口 多恵（ヤマグチ タエ）講師
		成人・高齢者看護学	高比良 祥子（タカヒラ サチコ）准教授
		地域看護学	中尾 八重子（ナカオ ヤエコ）教授
		地域看護学	山谷 麻由美（ヤマヤ マユミ）准教授
教育認知心理学	大塚 一徳（オオツカ カズノリ）教授		
栄養科学専攻	基礎栄養科学領域	細胞生化学分野	四童子 好廣（シドウジ ヨシヒロ）教授
		栄養生理学分野	駿河 和仁（スルガ カズヒト）准教授
		機能形態学分野	久木野 憲司（クギノ ケンジ）教授
		代謝栄養学分野	田中 一成（タナカ カズナリ）教授
		食品衛生学分野	松澤 哲宏（マツザワ テツヒロ）講師
		食品機能学分野	古場 一哲（コバ カズノリ）教授
		栄養疫学分野	竹内 昌平（タケウチ ショウヘイ）講師
	実践栄養科学領域	臨床栄養学分野	大曲 勝久（オオマガリ カツヒサ）教授
		生活習慣病医療学分野	森田 茂樹（モリタ シゲキ）教授
		健康体力科学分野	飛奈 卓郎（トビナ タクロウ）准教授
		栄養管理学分野	石見 百江（イワミ モモエ）講師

## 長崎県立大学アセスメント・ポリシーについて

現在、本学において未策定のアセスメント・ポリシーについて、教育開発センター会議で以下のとおり素案を策定したもの。今後は本ポリシーに基づき教学アセスメントを実施することで教育活動の改善等につなげていくことを目的に、「長崎県立大学アセスメント・ポリシー」として策定

### 長崎県立大学アセスメント・ポリシー

#### 1. 目的

長崎県立大学では、教育活動の改善を促し内部質保証システムを恒常的に機能させることを目的として、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの達成状況を点検・評価する教学アセスメント（教育に関する各種データ及び資料の収集並びに分析・評価）を実施する。

#### 2. 教学アセスメントの単位

教学アセスメントは、次の単位で行うものとする。それぞれの内容については、別途定める。

- (1) 大学単位
- (2) 学位プログラム単位
- (3) 学生単位

#### 3. 実施体制

- (1) 本学は、学生調査等の結果及び成績や就職状況等の教学関係のデータの整備を行う。
- (2) 大学単位及び学位プログラム単位ごとに、教学アセスメントを実施するための組織を置く。
- (3) 前項の組織は、教学アセスメントを定期的実施する。

#### 4. 評価結果に基づく改善と公開

本学は、教学アセスメントに基づいて教育研究活動の改善を行うとともに、その結果と取り組みについて学内外へ公表する。

## 長崎県立大学ディプロマ・ポリシー

### けんさんりょく KEN-SUN力 ～地域から世界へ挑む長崎県立大学生～

#### 【長崎と Nagasaki】

長崎で地域を理解するとともに世界の中の Nagasaki を知ることで、グローバルに交流しながら地域・国際社会に貢献し、平和を創る力

#### 【知識と知恵】

未来を生き抜く知識を修得し、それを知恵として活用する力

#### 【尊重と主張】

他者を尊重するとともに、自己を主張し、協働・共生する力

#### 【想像と創造】

物事を多面的・俯瞰的にとらえる想像力と新しい知を創造する力

#### 【挑戦と継続】

未知の課題に挑戦しつつ、学びを継続する力

#### 【自立と自律】

自立した生活と自律的な学びをする力

## 長崎県立大学 2018年度海外ビジネス研修 学生評価票

研修先：	記入者名：	記入日：
大学生氏名：	学籍番号：	

- ・ 該当する評価欄に○印を付けて、「コメント」欄に所感をお書きください。
- ・ 研修終了後、1週間をめどに担当教員にパスワード付きでお送りください。個人成績となりますのでご理解ください。

	秀	優	良	可	備考	コメント
社会人基礎力					あいさつやチームワークなど組織人として求められる基礎的な能力がある。自ら踏み出す力が涵養されたか。	
ダイバーシティー (能力)					職場において、異文化を受け入れることができる多様性を持っている。	
コミュニケーション能力					ことばと言葉以外で相手と意思疎通できる能力。受容力、発信力。	

研修全体を通してのコメント

--

H30年度実施FD研修会一覧				
開催地	開催月日	参加人数	テーマ	概要
全学FD研修会				
※春FD シーボルト校【主会場】 (佐世保校は遠隔システムにより配信)	5/29	151名 教員 118名 法人役員・事務職員 22名 学外(講師以外) 11名	教職協働による教育改善の重要性 内部質保証と学習成果の可視化:学習行動調査から見えること	最初に、太田博道学長を講師として講演を行った。長崎県立大学が果たすべき役割や、教職協働の重要性について説明がなされた。 その後、学生調査の活用方法に精通されている甲南大学の教育学習支援センター事務室の深堀太博氏を講師に招聘し、講演を行った。第3期認証評価に向けた取り組みの紹介やIRコンソーシアムの学生調査についてなどをお話いただいた。
※夏FD シーボルト校	8/10	151名 教員 125名 法人役員・事務職員 19名 学外(講師以外) 7名	行動科目を含む学習成果の可視化およびアセスメント・ポリシー	外部講師として、関西国際大学の濱名篤学長を招聘し、基調講演を行った。引き続き実施をしたシンポジウムでは、地域創造学部公共政策学科の忠裕准教授、看護栄養学部看護学科の山道直美教授、林田りか准教授による事例発表を行った。また、質問書への回答を含めた濱名学長の総括では、ご自身の経験や知見と関連付けながらご回答をいただいた。最後に、古河幹夫副学長が、大学の内部質保証及び夏FDの総括を行った。
※冬FD 遠隔システムにより相互配信(グループワークは各校で実施)	3/4	126名 教員 112名 法人役員・事務職員 14名	新・教養セミナーと今後の初年次教育改革の展望	平成31年4月から始まる「新・教養セミナー」について、先生方へ確認・説明をすることを中心に研修会を実施した。最初に、本学の教育開発センター長である橋本俊花里教授より「新・教養セミナー」の概要の説明と、「長崎県立大学生力(仮称)」と「新・教養セミナー」のつながりについて説明を行った。次に、国際社会学科の柳田多聞准教授よりテキストの使用方法について説明を行った。その後、新・教養セミナーの実施方法に関するグループワークを実施し、最後に、国際社会学科金村公一准教授より、今後の初年次教育改革の展望について説明を行った。
学部FD研修会				
開催地	開催月日	参加人数	テーマ	概要
経営学部	10/9	22名	クォーター制の導入について	本学計画評価グループの河崎 由紀子スタッフを講師に、クォーター制の導入について、研修した。
地域創造学部	10/9	36名	大学授業設計の点検ワークシートに基づく授業改善案の検討	熊本大学大学院社会文化科学研究科の教授システム学専攻長の鈴木充明教授を講師に研修を行った。インストラクショナルデザインに基づき学生の自立的な学習を促す授業設計について提案。
国際社会学部	1/22	19名	クォーター制度について	本学国際社会学科の鈴木暁彦教授を講師に、研修を行った。クォーター制度について、本学におけるクォーター制導入の基本方針を確認し、これまでにあった他大学の視察(福岡女子大学、福山市立大学、高知工科大学、山口大学、岡山大学、長崎大学)の報告をもとに、情報の共有を図り、問題点を検討した。
情報システム学部	6/25~7/13の3週間の間、11/13	17名	教員相互での授業参観、および意見交換会	平成30年6月25日~7月13日の3週間の間、情報システム学部内で教員相互による授業参観を実施した。上記3週間の期間中に、11名の教員から16科目の授業参観可能科目が提案され、8件の授業参観が実施された。さらに、情報セキュリティ学科の松田 健准教授をファシリテーターに平成30年11月13日に、アンケート結果を踏まえての意見交換会を開催した。
看護栄養学部	4/20 4/27 5/11 5/18 5/25 6/1 6/8 6/15各5限、7/10に意見聴取会。	28名(授業参観者) 35名(意見聴取会)	教養セミナーの授業改善	看護栄養学部看護学科の大塚一徳教授、立石憲彦教授、新田祥子講師、栄養健康学科の松澤哲宏講師、湯浅正洋助教授、永山千尋助教授を講師に、教養セミナーの授業を1コマ授業参観してもらい、意見聴取会にて授業内容を検討した。
学科FD研修会				
開催地	開催月日	参加人数	テーマ	概要
経営学科	7/17	11名	日経テスト要件取得にかかる指導について	本学経営学科の鴻上喜芳教授を講師に、日経テスト要件取得にかかる指導にあたっての課題について、研修を行った。
	8/7	15名	入試改革で入学生(流通経営→経営)はどう変わったか?	本学学生グループの福野健二リーダーを講師に、入試改革前後の学生の変化について、研修を行った。
	11/6	15名	卒業要件早期取得・高い目標達成のための情報共有	本学経営学科の鴻上喜芳教授を講師に、卒業要件早期取得・高い目標達成について、研修を行った。
国際経営学科	4/24	10名	ルーブリックの活用に向けて	公共政策学科の橋本教授を講師に、「海外ビジネス研修」の評価を想定しての、ルーブリック活用のためのFD研修会を行った。
	6/11	6名	ルーブリックの活用に向けて	「海外ビジネス研修」の評価のためのルーブリックについての学科内勉強会FDを行った。
	7/18	7名	ルーブリック作成に向けて	海外ビジネス研修におけるルーブリックによる評価のための、シート作成についてのFD研修会を行った。
	10/12	11名	英語科目におけるクォーター制導入について	クォーター制が導入された場合の英語科目の指導について、ベルリッツ側から意見を聞き、導入可能性について意見交換を行った。
	10/19	7名	クォーター制導入の基本について	国際経営学科の新川本准教授を講師にクォーター制を検討するにあたって、クォーター制についての基本的知識(制度・課題などの)情報共有を目的としてFD研修会を開催した。
	10/23	10名	地域政策学科における「クォーター制度導入の課題」	公共政策学科の長濱幸一講師を講師にクォーター制を検討するにあたって、今年度前期にクォーター制を実施された地域創造学部の実施状況および実施した結果から明らかになった課題についての情報共有を行うことを目的としたFD研修会を開催した。その上で、クォーター制導入についての意見交換を行う。

学科FD研修会				
開催地	開催月日	参加人数	テーマ	概要
国際経営学科	11/20	8名	クォーター制導入に対する学科ない意見集約	クォーター制を導入する際の課題・学科からの要望などを再度、意見集約するためのFD研修会を開催した。
	11/26	17名	ベルリッツの英語科目の指導について	ベルリッツの授業について、各学年(1, 2, 3年)の学生を交えて意見交換を行い、今後の英語科目の指導について検討した。
	11/28	14名	TOEIC730点未達者との面談	11月22日に行われたIPテストの結果をもとにTOEIC730点未達者と面談を行った。また、未達者へベルリッツのオフィスアワーについての情報提供を行った。学生を帰宅させた後、教職員で今後の対応を検討した。
	12/11	8名	国際経営学科カリキュラム見直しについて	新学部新学科が完成年度を迎えるに当たって、国際経営学科の現状と課題を検討し、現行カリキュラムの見直しを行った。
	12/14	20名	TOEIC730点未達者との面談	ベルリッツの講師、ダイレクターとともに、TOEIC730点未達者の今後の勉強方針などについて面談を行った。またベルリッツの新しい講師の紹介があった。
公共政策学科	4/24	18名	実践科目の事前点検	実践WGの先生を中心に、公共機関インターンシップおよび公共政策実習など、学科の実践科目の運営について、研修を行った。
	10/16	16名	今年度の実践科目の振り返り	学科の実践科目について、学科教務委員を中心に現時点での諸課題と今後の課題について情報提供と意見交換を行った。
	1/16	12名	学科カリキュラム変更過程について	学部学科再編によるカリキュラムの変更に伴って生じている諸問題を踏まえ、完成年度以降の改編に向けて「現像の確認」「学生の学習事項の整理」「全体構想の検討」「クォーター時間割に基づく各配当年次の整理」などについて意見交換した上、変更の方向性を定めた。
実践経済学科	1/22	14名	受入企業様から見た「企業インターンシップ」研修生	平成30年度「企業インターンシップ」における受入企業のご担当者様(相浦信詰株式会社 川崎秀則 課長、東七株式会社 田崎淳也 主任、長崎県立大学 佐世保校生活協同組合の松井康旨 専務理事)をお招きして、学生の研修状況の実態や、運用改善についてお話を伺い、教職員と意見交換を行った。 主な論点として、以下があった。今後の授業運営及び学生教育の参考にしたい。 ・素直だけが積極性に乏しい。以前の学生に比べて対人関係の経験が少ないことが影響している。 ・自信や目的意識が薄い。その結果、他人との間で議論を深めていけず、スキルが低い。 ・エクセルの計算やパワーポイントを用いたプレゼンテーションの能力が低い。
情報システム学科	10/9	10名	ITパスポート試験・基本情報技術者試験の入学前から卒業までのロードマップについて	情報システム学科の全教員で入学前から卒業まで資格試験取得について話し合った。資格取得のタイミングや指導方針などの共通認識を固めた。情報技術演習・情報技術演習へ出席する学生が少ないこともあり、ゼミ決め配属に情報技術演習・情報技術演習の出席状況や早期取得資格状況を加味してはどうかとの意見があった。また、学生への指導は少人数がよいとの意見があり、情報技術演習・情報技術演習を全員の先生で担当してはどうかとの意見もあった。現在では、ゼミ毎に資格試験の指導を各先生が行っているが、教養セミナー終了からゼミ配属までの2年の期間の指導が難しいとの意見もあった。
情報セキュリティ学科	11/20 12/18	9名	カリキュラム標準情報セキュリティ(CyberSecurity)と教員担当科目の関連性調査	情報セキュリティ学科の松田健准教授を講師として研修を行った。情報処理学会が2007年度に公表したカリキュラム標準 J17は、世界標準である米国ACM/IEEE-CSのCC2001-CC2005を土台として、日本の情報専門教育の状況に対応した見直ししたものである。この中の情報セキュリティの項目について教員個人個人で確認し、個々の担当科目との対応を調査し、今後のカリキュラムの見直しの参考とする資料を作成する準備を行った。
看護学科	7/17	24名	交流型教育システムの構築に向けての現行カリキュラム評価検討	看護栄養学部看護学科の久佐賀真理教授、季節子教授、中尾八重子教授、三重野愛子講師、坂本仁美助教授、山澄直教授を講師として研修を行った。平成29年度学長プロジェクトの各分野の活動内容や進捗状況について、分野ごとに発表し共通理解を固めた。発表終了後、今後の進め方について意見交換を行い、次年度からの総合看護実習(しま)(災害看護)の実習目的・目標は概ね決定した。また、プロジェクトを通し、現行カリキュラムの見直しを行い、看護学科の教育に反映させていくことが確認された。
栄養健康学科	12/20	13名	管理栄養士養成課程におけるクォーター制の導入の実情について教員にとつてのクォーター制度	福岡女子大学国際文理学部食・健康学科の小林弘司准教授を講師として研修を行った。本年度よりクォーター制を導入した福岡女子大学の管理栄養士養成課程の先生から、クォーター制導入の実情について講話をしていただいた。演習などの授業まで時間が必要な授業や学外の実習がどのように組まれているか、クォーター制のメリットと思われる点と学生アンケートの結果などについて情報の提供をいただいた。 また質疑応答から、開講科目の前倒しの検討、少ない補講日をどう活用するか、クォーターブレイクの必要性といった課題が見えてきた。
大学院FD研修会				
開催地	開催月日	参加人数	テーマ	概要
経済学研究科	1/15	13名	長崎県立大学における社会科学の研究・教育のあり方を考える	経営学科の三戸 浩教授を講師として研修を行った。長崎県立大学における社会科学の研究・教育のあり方について、三戸教授から問題提起がなされ、全員で考えた。
国際情報学研究科	2/19	27名	成長分野を支える情報技術人材の育成拠点形成(enPiT)	情報セキュリティ学科長の小松文子教授を講師に、本研究科で社会人研修生を受け入れている「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」の「セキュリティ分野(enPiT-Security)」に関する講演があった。大学院レベルのプログラム展開を行うにあたり当面した課題、社会人の受け入れについての問題点などに関する小松教授の指摘は、本学の新大学院が社会人へ選ばれるために必要となる要件を検討する際、示唆に富んだ内容を多く含んだものであった。
人間健康科学研究科	8/21	23名	FDニーズリストの作成	大学院教育や教員自身の能力向上のために、どのような課題があるのかを抽出して情報を共有することを目的に、まずは教員自身がかれまでに役立ったと思う学習経験や体験などを集約した。教員の職階別グループを5つ作成し、グループ討議によるニーズの抽出作業を行ない、発表をすることで参加者が個人的な問題意識の確認を行うことができ、真のFDのための第一歩となった。

「長崎県立大学やるばいプロジェクト」奨励金交付実績
---------------------------

(単位:人、円)

実施年度	実施校	プロジェクト名	構成員数	交付実績額
平成30年度	佐世保校	音楽による地域活性化	30	118,335
		学生×佐世保プロジェクト	2	5,800
		PIEES(国際交流サポートを通して地域の活性化)	8	0
	両校合同	壱岐サンドウィッチ開発プロジェクト	17	565,691
	シーボルト校	つなぐプロジェクト	4	35,185
映画「しらいの赦」～映画制作を通じた文化活動の促進と宇久島の情報発信～		19	531,431	
平成29年度	佐世保校	PIEES(国際交流サポートを通じた地域の活性化)	6	136,800
		音楽発信プロジェクト～地域交流を大切に・・・～	4	134,080
	両校合同	地域産品を使った弁当作成による地域活性化	7	480,329
	シーボルト校	つなぐプロジェクト	5	217,100
就活させよっか！！		9	264,000	
平成28年度	佐世保校	～Jump SASEBO～	4	16,431
		～訪問演奏おんがく隊～	4	26,160
		～諫早検定～	1	7,320
		地域の活性化 ～PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies) 異文化理解、外国語教育支援・国際交流に関する大学生の地域貢献活動～	4	24,330
	シーボルト校	～離島の活性化～	7	128,057
		やるばい五島～五島の魅力を再発見～	3	180,210
		長崎のしまに学ぶ 五島1班	11	28,673
平成27年度	佐世保校	僕らの学びを実践プロジェクト in 四ヶ町商店街	7	19,690
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education and English Studies) 異文化理解・外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動と国際交流	15	94,450
		心潤う音楽提供	4	82,872
平成26年度	佐世保校	地域社会と連携し、よりよい音楽の提供を目指すプロジェクト	34	82,982
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies) 異文化理解、外国語教育支援・国際交流に関する大学生の地域貢献活動	16	131,200
		三ヶ町・四ヶ町の新たな魅力発掘プロジェクト	17	121,980
		Sun + light(フェアトレード・カフェスタンドおよびショップ)	33	64,013
	シーボルト校	教会さるく～世界遺産登録推奨プロジェクト～	22	51,942
		教えて先輩！プロジェクト	6	0

就 職 状 況
---------

## ＜佐世保校＞

(単位: %)

	経済学部			計 (①+②+③)
	経済学科 ①	地域政策学科 ②	流通・経営学科 ③	
30年度	99.3	100	99.2	99.5
29年度	97.8	98.4	96.8	97.7
28年度	100.0	97.1	98.5	98.4
27年度	97.5	96.7	96.2	96.8
26年度	95.6	97.1	96.9	96.5
25年度	92.6	97.6	90.6	93.5

## ＜シーボルト校＞

(単位: %)

	国際情報学部			看護栄養学部			合計 (①+②+③+④)
	国際交流学科 ①	情報メディア学科 ②	計 (①+②)	看護学科 ③	栄養健康学科 ④	計 (③+④)	
30年度	97.3	98.4	97.8	100.0	100.0	100.0	98.6
29年度	98.6	96.8	97.7	100.0	100.0	100.0	98.9
28年度	95.9	100.0	97.6	100.0	100.0	100.0	98.6
27年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
26年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
25年度	98.7	98.4	98.6	100.0	94.4	97.8	98.3

## 平成30年度卒業生 主な内定先

## ★経済学部

経済学科	AIGグループ、ANAテレマート、親和銀行、十八銀行、長崎機器、ニーズウェル、イズミ、因幡電機産業、エイチアイエス、大分キャノンマテリアル、九州労働金庫、興和、山九、ディーエイチシー、鳥越製粉、西日本シティ銀行、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ、マイナビ、三菱電機ロジスティクス、国税専門官、自衛隊幹部候補生、文部科学省、大分県、熊本県、長崎県、長崎県教育委員会、山口県警察、福岡市、長崎市、佐世保市、諫早市、大村市
地域政策学科	アイティーアイ、親和銀行、長崎キャノン、西九州倉庫、富士ゼロックス長崎、えがお、住友生命保険、セブンイレブンジャパン、タカラスタンダード、トーホー、野村證券、ミスミ、安川電機、長崎税関、福岡入国管理局、鹿児島県、佐賀県、長崎県、長崎県警察、長崎市、長崎市消防局、佐世保市、大村市、諫早市、島原市、伊賀市消防本部、えびの市教育委員会、中津川市、豊後高田市、松江市、高齢・障害・求職者雇用支援機構、国立大学法人、長崎県公立大学法人
流通・経営学科	佐々木冷菓、九州ひぜん信用金庫、親和銀行、十八銀行、谷川建設、東七、トランスコスモス、長崎県農業共済組合連合会、メモリード、鹿児島銀行、九州テラオカ、再春館製菓所、シモハナ物流、住化ロジスティクス、TKC、西日本鉄道国際物流事業本部、日鉄住金テックスエンジ、日本通運、ブリヂストンタイヤジャパン、宮崎日日新聞社、山口フィナンシャルグループ、大分県、島根県警察、長崎県警察、長崎市、佐世保市、全国健康保険協会

## ★国際情報学部

国際交流学科	イシマル、SGエキスパート、扇精光ホールディングス、海星学園、十八銀行長崎自動車、長崎船舶装備、長崎北徳洲会病院、IMV、近鉄エクスプレス、クラブツーリズム、スカイマーク、ダイハツ九州、西日本鉄道、ファミリーマートマイナビ、ユニプレス、日本放送協会鹿児島放送、航空管制官、長崎市、佐世保市北九州市、佐賀県、佐賀県警察、島根県教育委員会、長崎県公立大学法人
情報メディア学科	NBC情報システム、KTNソサエティ、ジャパネットサービスイノベーションシーエイプロダクション、親和銀行、谷川建設、ディーエスブランド 日本生命保険、日本ビジネスソフト、不動技研工業、アイ・ケイ・ケイ、RKBミューズDNPデジタルソリューションズ、富士通エフサス、ハイマックス、ムラタシステムNTTデータ・アイ、長崎県、長崎県警察、長崎市、佐世保市、大村市、

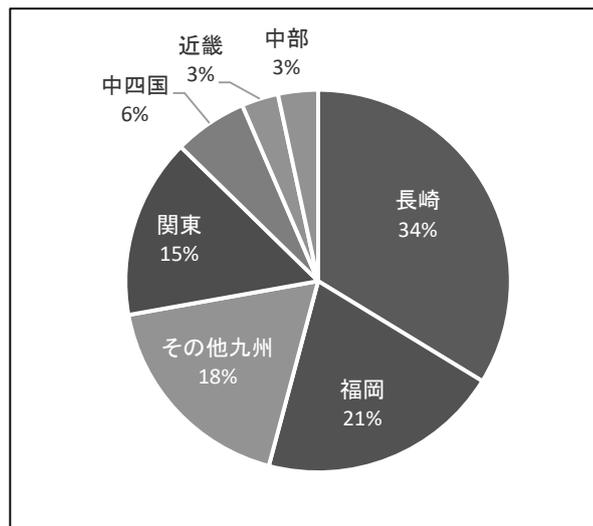
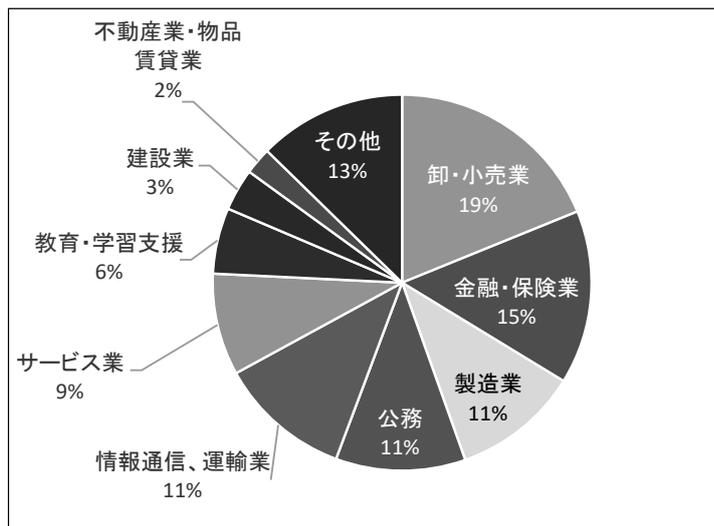
## ★看護栄養学部

看護学科	諫早総合病院、上戸町病院、五島中央病院、佐世保中央病院、長崎原爆病院、長崎北病院、長崎大学病院、長崎みなとメディカルセンター、長崎リハビリテーション病院、嬉野医療センター、NTT東日本関東病院、大分大学医学部附属病院、九州がんセンター、九州中央病院、佐賀大学医学部附属病院、自治医科大学付属さいたま医療センター、東京医科大学病院、福岡和白病院、長崎県教育委員会、熊本県教育委員会
栄養健康学科	エスポアールそとめ、島手そうめん販売、ジャパネットたかた、清風園、長崎腎病院、にし歯科クリニック、ルネサンス、岩田産業株式会社、エームサービス、京都市立病院、くまもと健康支援研究所、佐賀県農業協同組合、ジェイアール東海パッセンジャーズ、船員保険会、ドラッグストアモリ、西日本フード、万福、やずや、山口油屋福太郎、ヤマエ久野、RIZAPグループ、長与町役場、鹿児島県庁(管理栄養士)

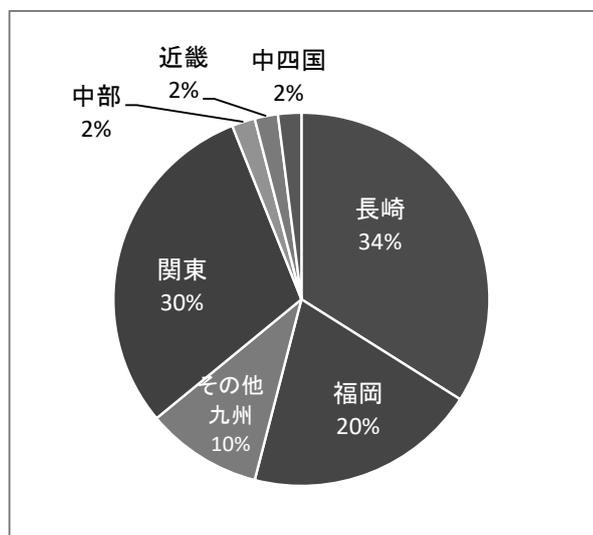
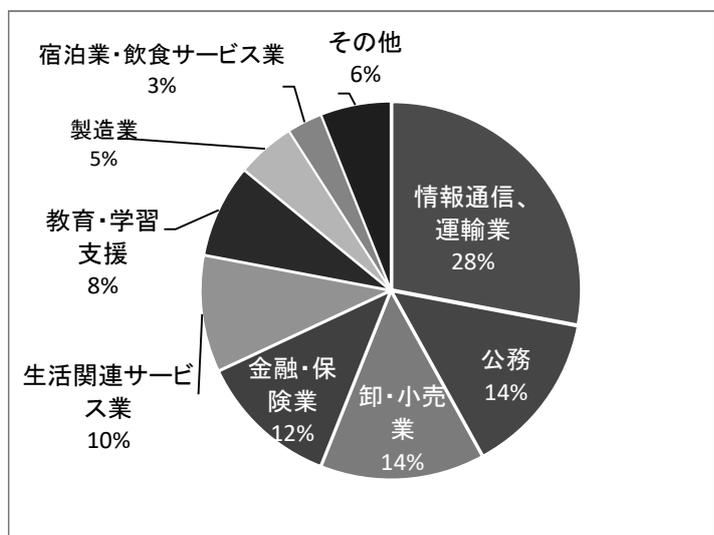
●業種別内定状況

●地域別内定状況

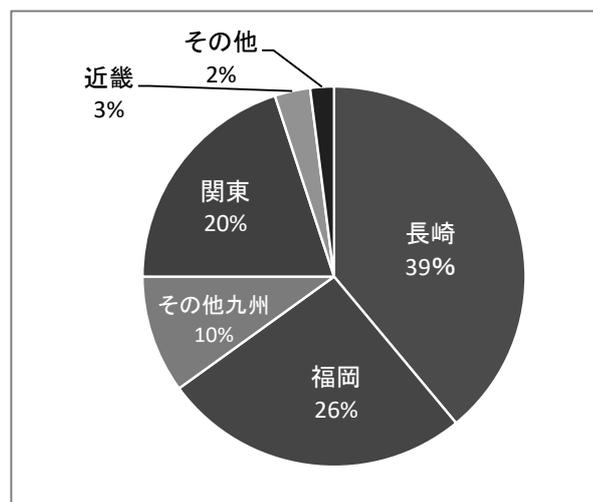
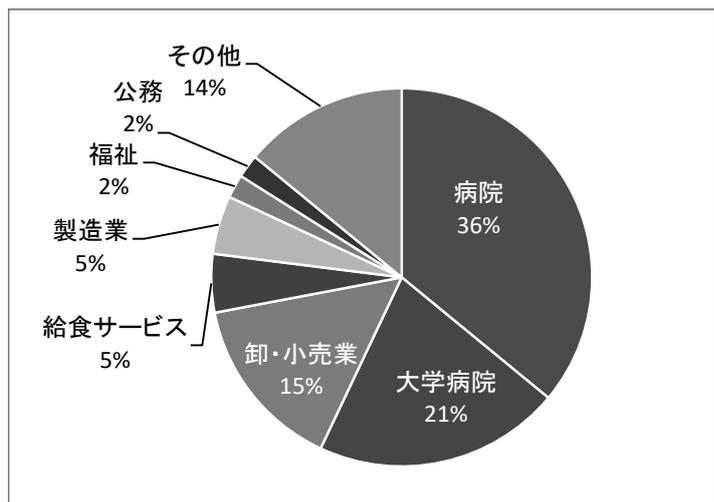
○経済学部



○国際情報学部



○看護栄養学部



(平成30年度確定)

## 学科・学部別 県内就職状況

	平成30年度				平成29年度		
	就職者数 (人)	うち県内 就職者数 (人)	県内就職率	対前年比	就職者数 (人)	うち県内 就職者数 (人)	県内就職率
経済学部	388	131	33.8%	6.0%	374	104	27.8%
経済学科	137	46	33.6%	10.4%	134	31	23.1%
地域政策学科	129	48	37.2%	4.7%	120	39	32.5%
流通・経営学科	122	37	30.3%	2.0%	120	34	28.3%
国際情報学部	133	45	33.8%	-7.7%	130	54	41.5%
国際交流学科	73	18	24.7%	-22.5%	70	33	47.1%
情報メディア学科	60	27	45.0%	10.0%	60	21	35.0%
看護栄養学部	86	33	38.4%	-14.4%	91	48	52.7%
看護学科	49	25	51.0%	-17.5%	54	37	68.5%
栄養健康学科	37	8	21.6%	-8.1%	37	11	29.7%
大学総計	607	209	34.4%	-0.2%	595	206	34.6%

## 国際交流協定校一覧

	大学名		協定締結日	協定事業内容					
				学生交流 派遣・受入人数 期間	教職員 交流	共同 研究	シンポジウム等	刊行物等 の 交換	
	1	華僑大学	中国	1992年10月7日 (平成4年)	○ [計4名 規定なし]	○	○	○ [年1回 交互に 開催]	○
☆	2	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	2001年9月28日 (平成13年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○		
	3	上海外国語大学	中国	2002年10月17日 (平成14年)	○ [各3名 半年又は1年]	○	○		
		上海外国語大学短期留学生プログラム協定		2011年6月30日 (平成23年)	○ [受入5名 派遣短期研修10名]				
	4	東亜大学校	韓国	2004年4月1日 (平成16年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○	○	○
	5	高麗大学校	韓国	2004年12月2日 (平成16年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○	○	○
		看護大学校		2006年2月9日 (平成18年)	○ [定期的な相互交流]	○	○	○	
	6	厦門大学 日本研究所	中国	2006年12月7日 (平成18年)	○ [規定なし]	○	○	○	○
☆	7	マカオ 澳門大学 社会人文学部	中国	2009年5月20日 (平成21年)	○ [計1~3名 規定なし]	個別に 協議			
	8	西安外国語大学	中国	2011年3月1日 (平成23年)	○ [各2名 1年以内]	○			
☆	9	タマサート大学	タイ	2012年10月30日 (平成24年)	○ [学部の規定による]	○	○	○	○
		ジャーナリズム・マスコミュニケーション学部		2013年3月18日 (平成25年)	○ [各5名 1年以内]	○	○	○	○
		看護学部		2014年3月24日 (平成26年)	○	○	○	○	
	10	湖北大学	中国	2013年3月1日 (平成25年)	○ [各5名 1年以内]		○		○
☆	11	エドモンズコミュニティカレッジ	アメリカ	2013年12月14日 (平成25年)	○ [各2名 半年]	○	○	○	
☆	12	ダナン大学(大学間交流協定)	ベトナム	2014年11月25日 (平成26年)	○ [別途覚書を締結]	○	○	○	○
		(学生交流に関する覚書)		2016年3月30日 (平成28年)	○ [各2名 1年以内]	○			
☆	13	フラットヘッドバリーコミュニティカレッジ	アメリカ	2019年1月10日 (平成31年)	○ [各2名 半年]	○	○		

※東亜大学・華僑大学と2011年締結した協定については6年毎に更新。それ以外の協定は5年毎に更新。

☆英語で留学可能な交流協定締結校

## 外国人留学生の状況(平成30年度在籍者数実績)

○外国人留学生の受入状況(前年度以前からの継続者+平成30年度新規受入)

☆数値については、学生の国籍により計上

区分	佐世保校					シーボルト校					合計		
	中国	韓国	ベトナム	タイ	計	中国	韓国	米国	ベトナム	タイ		計	
学部	交換留学生	10				10	19	1	4		3	27	37
	私費留学生	2		6		8	1			1		2	10
	計	12	0	6	0	18	20	1	4	1	3	29	47
大学院	交換留学生	5				5						0	5
	私費留学生	2				2	2					2	4
	計	7	0	0	0	7	2	0	0	0	0	2	9
研究生	交換留学生					0	1					1	1
	私費留学生					0						0	0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
合計	交換留学生	15	0	0	0	15	20	1	4	0	3	28	43
	私費留学生	4	0	6	0	10	3	0	0	1	0	4	14
	計	19	0	6	0	25	23	1	4	1	3	32	57

国別状況	中国	ベトナム	韓国	米国	タイ	その他	合計
(人)	42	7	1	4	3	0	57
(%)	73.7%	12.3%	1.8%	7.0%	5.3%	0.0%	100.0%

※短期私費は協定に基づく受入れの為、交換に含む

※韓国の数値には上海外国語大学(中国)からの派遣学生1名を含む

○交換留学 派遣状況(平成29年度からの継続者+平成30年度新規派遣)

区分	佐世保校					シーボルト校					合計
	中国	韓国	米国	その他	計	中国	韓国	米国	タイ	計	
学部	1	2	0	0	3	2		3	4	9	12
大学院					0					0	0
合計	1	2	0	0	3	2	0	3	4	9	12

○英語で留学可能な協定締結校からの受入、派遣学生数

年度	H30
受入	7
派遣	7

## (3)入学志願者及び入学者数

## ①年度別総計【学部】[平成31年度]

(単位：人、倍、%)

区 分		定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D	
経営学部	経営学科	推 薦	55	74	74	57	57	1.3	1.3	1.3
		一般入試(前期)	70	172	160	100	71	2.5	2.3	1.6
		一般入試(後期)	15	295	106	33	17	19.7	7.1	3.2
		一般入試計	85	467	266	133	88	5.5	3.1	2.0
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社会人	若干名	1	1	1	1	-	-	-
		留学生	若干名	7	5	3	3	-	-	-
	小 計	140	549	346	194	149	3.9	2.5	1.8	
	国際経営学科	推 薦	20	22	22	14	14	1.1	1.1	1.6
		一般入試(前期)	30	98	91	41	25	3.3	3.0	2.2
		一般入試(後期)	10	196	64	21	13	19.6	6.4	3.0
		一般入試計	40	294	155	62	38	7.4	3.9	2.5
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
留学生		若干名	1	1	0	0	-	-	-	
小 計	60	317	178	76	52	5.3	3.0	2.3		
学 部 計		200	866	524	270	201	4.3	2.6	1.9	
地域創造学部	公共政策学科	推 薦	30	54	54	30	30	1.8	1.8	1.8
		一般入試(前期)	60	252	220	73	62	4.2	3.7	3.0
		一般入試(後期)	30	333	142	42	29	11.1	4.7	3.4
		一般入試計	90	585	362	115	91	6.5	4.0	3.1
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		留学生	若干名	1	0	0	0	-	-	-
	小 計	120	640	416	145	121	5.3	3.5	2.9	
	実践経済学科	推 薦	45	65	65	47	47	1.4	1.4	1.4
		一般入試(前期)	65	278	256	83	67	4.3	3.9	3.1
		一般入試(後期)	20	260	116	27	16	13.0	5.8	4.3
		一般入試計	85	538	372	110	83	6.3	4.4	3.4
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
留学生		若干名	1	1	0	0	-	-	-	
小 計	130	604	438	157	130	4.6	3.4	2.8		
学 部 計		250	1244	854	302	251	5.0	3.4	2.8	
国際社会学部	国際社会学科	A O	5	14	12	5	5	2.8	2.4	2.4
		推 薦	19	35	35	23	23	1.8	1.8	1.5
		一般入試(前期)	30	78	75	37	29	2.6	2.5	2.0
		一般入試(後期)	6	127	40	13	9	21.2	6.7	3.1
		一般入試計	36	205	115	50	38	5.7	3.2	2.3
		帰国子女	若干名	2	2	1	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		留学生	若干名	1	0	0	0	-	-	-
小 計	60	257	164	79	66	4.3	2.7	2.1		
情報システム学部	情報システム学科	推 薦	12	35	35	15	15	2.9	2.9	2.3
		一般入試(前期)	20	78	75	20	19	3.9	3.8	3.8
		一般入試(後期)	8	167	69	13	10	20.9	8.6	5.3
		一般入試計	28	245	144	33	29	8.8	5.1	4.4
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		留学生	若干名	0	0	0	0	-	-	-
	小 計	40	280	179	48	44	7.0	4.5	3.7	
	情報セキュリティ学科	推 薦	12	19	19	12	12	1.6	1.6	1.6
		一般入試(前期)	20	47	45	20	20	2.4	2.3	2.3
		一般入試(後期)	8	113	45	14	10	14.1	5.6	3.2
		一般入試計	28	160	90	34	30	5.7	3.2	2.6
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社会人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
留学生		若干名	0	0	0	0	-	-	-	
小 計	40	179	109	46	42	4.5	2.7	2.4		
学 部 計		80	459	288	94	86	5.7	3.6	3.1	

区 分		定 員 A	志 願 者 B	受 験 者 C	合 格 者 D	入 学 者	志 願 倍 率 B/A	受 験 倍 率 C/A	競 争 率 C/D	
看 護 栄 養 学 部	看 護 学 科	推 薦	16	55	55	17	3.4	3.4	3.2	
		一般入試(前期)	38	114	109	40	3.0	2.9	2.7	
		一般入試(後期)	6	148	60	10	24.7	10.0	6.0	
		一般入試計	44	262	169	50	6.0	3.8	3.4	
		帰 国 子 女	若干名	1	1	0	-	-	-	
		社 会 人	若干名	1	1	0	-	-	-	
		留 学 生	若干名	0	0	0	-	-	-	
	小 計	60	319	226	67	63	5.3	3.8	3.4	
	栄 養 健 康 学 科	推 薦	10	24	24	10	10	2.4	2.4	2.4
		一般入試(前期)	24	62	61	29	24	2.6	2.5	2.1
		一般入試(後期)	6	88	24	9	8	14.7	4.0	2.7
		一般入試計	30	150	85	38	32	5.0	2.8	2.2
		帰 国 子 女	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		社 会 人	若干名	0	0	0	0	-	-	-
留 学 生		若干名	0	0	0	0	-	-	-	
小 計	40	174	109	48	42	4.4	2.7	2.3		
学 部 計		100	493	335	115	105	1.9	3.4	2.9	
A O 計		5	14	12	5	5	2.8	2.4	2.4	
推 薦 計		219	383	383	225	225	1.7	1.7	1.7	
一般入試(前期) 計		357	1179	1092	443	354	3.3	3.1	2.5	
一般入試(後期) 計		109	1727	666	182	121	15.8	6.1	3.7	
一般入試 合計		466	2906	1758	625	475	6.2	3.8	2.8	
帰国子女 計		若干名	3	3	1	0	-	-	-	
社会人 計		若干名	2	2	1	1	-	-	-	
留学生 計		若干名	11	7	3	3	-	-	-	
合 計		690	3319	2165	860	709	4.8	3.1	2.5	

※A O入試の受験者数は2次選考受験者数

## 【 大学院 】

## ②年度別総計【大学院】[平成31年度]

(単位：人、倍、%)

区 分		定 員 A	志 願 者 B	受 験 者 C	合 格 者 D	入 学 者	志 願 倍 率 B/A	受 験 倍 率 C/A	競 争 率 C/D		
経済学研究科	産業経済・経済開発専攻(修士課程)	12	4	4	4	4	0.3	0.3	1.0		
国際情報学研究科	国際交流学専攻(修士課程)	6	1	1	1	1	0.2	0.2	1.0		
	情報メディア学専攻(修士課程)	4	0	0	0	0	-	-	-		
	研究科 計	10	1	1	1	1	0.1	0.1	1.0		
人間健康科学研究科	看護学専攻(修士課程)	一般選抜	8	5	5	4	1.1	1.0	1.3		
		社会人特別選抜		4	3	3			1.0		
		専攻 計		9	8	7			1.1	1.0	1.1
	栄養科学専攻	博士前期課程	一般選抜	8	0	0	0	-	-	-	
			社会人特別選抜	若干名	1	1	1	-	-	-	
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	0	0	0	-	-	
		前期課程 計	8	1	1	1	1	0.1	0.1	1.0	
		博士後期課程	一般選抜	3	0	0	0	0	-	-	-
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	0	0	0	-	-	-
	後期課程 計		3	0	0	0	0	-	-	-	
研究科 計		19	10	9	8	8	0.5	0.5	1.1		
大学院 計		41	15	14	13	13	0.4	0.3	1.1		

※平成29年10月入学志願者を含む

## 高大連携事業「会計学の専門性向上を目指した取り組み」を開催しました

8月17日（金）に高大連携事業「会計学の専門性向上を目指した取り組み」を開催し、高校生14名が参加しました。

この事業では、本学経営学部経営学科のアカウンティングコース担当教員が講師となり、会計人として必要な基礎的知識・基本的技能を学んでもらうとともに、税理士など会計分野の高度専門職業人への興味・関心を高めてもらうことを目的としています。

まず、本学のアカウンティングコースでの学び、進級・卒業要件、入学者選抜方法について説明した後、『勘定と期間計算－簿記・会計小史－』、『税法の意義と法人税の計算』の2コマの講義を実施しました。大学生の授業を体感してもらうため、1コマ90分という慣れない講義時間の中で、教員の話に時には大きく頷き、メモを取りながら真剣に授業に取り組んでいる姿が印象的でした。参加した高校生からは「内容は難しかったが、少し興味を持つことができて良かった。」、「学ぶことが多く、とてもいい経験になった。」という声を聞くことができました。

また、最後に行われた「在学生との交流」では、本学で実際に学んでいる在学生と直接会話をするすることで、より具体的に大学生活をイメージしてもらうことができたのではないかと思います。受験対策や勉強の仕方、大学生としての1日の過ごし方などに関心をもっているようでした。

この講義での経験を通して、さらなる向上心へと結びつけていってほしいと思います。

### ▲アカウンティングコースについて

経営学部 経営学科

宮地 晃輔 教授



### ▲講義1

『勘定と期間計算－簿記・会計小史－』

経営学部 経営学科

竹田 範義 教授



▲講義2

『税法の意義と法人税の計算』

経営学部 経営学科

高橋 秀至 教授



▲「在学生との交流」



## 高大連携事業「平成30年度高校生向け公開講座」を開催しました

平成30年12月26日に『高校生向け公開講座』を本学佐世保校で開催し、県北地区10校（佐世保南高校、佐世保北高校、佐世保西高校、佐世保商業高校、佐世保東翔高校、佐世保中央高校、猶興館高校、松浦高校、川棚高校、清峰高校）から約200名の参加がありました。

『高校生向け公開講座』では、各学科の「公開講座」と「在学生の研究活動発表」として、3学科の『実践科目』での取り組み等について、発表を行いました。

「公開講座」では、大学の講義時間と同じ90分間の講義を受講した高校生からは、「グループワークで他者の意見を聞くことができてよかった」という意見や、「難しい授業かと思っていたら、とても楽しく、分かりやすく学ぶことが出来た」という意見がありました。

「在学生の研究活動発表」では、①東彼杵地域の集客に関する検討（経営学科）②海外ビジネス研修報告（国際経営学科）③大学生による市民協働の実践（地域政策学科・公共政策学科）の3グループより発表を行いました。発表の内容は様々でしたが大学生から高校生へのメッセージもあり、高校生の感想のなかには「大学に入学したら、自分の好きなことに色々挑戦したいと思った」「自分も海外に行って、研修に参加したい」等がありました。

当日の様子



「公開講座（経営学科）」

『ブラック企業について学ぼう』／四本 雅人 准教授



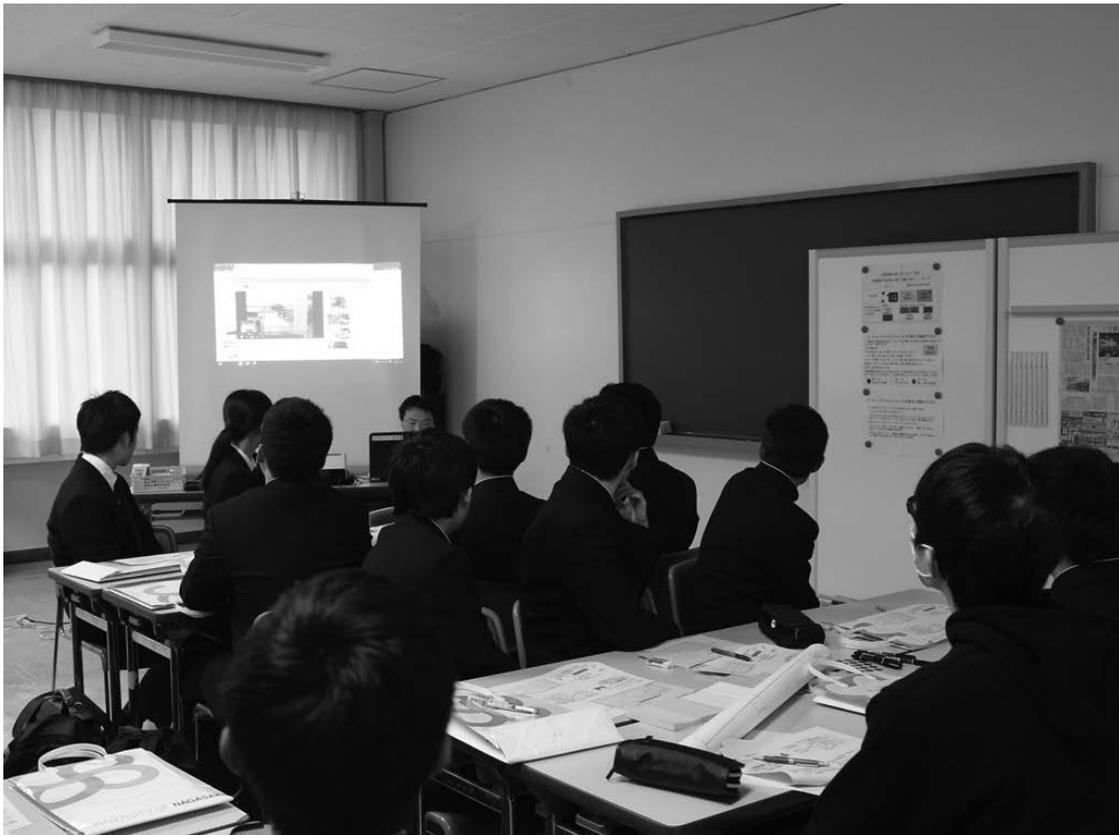
「公開講座（国際経営学科）」

『 「国際経営」とは何か？ ～「国際」がつくことで変わる～ 』／齋藤 毅 准教授

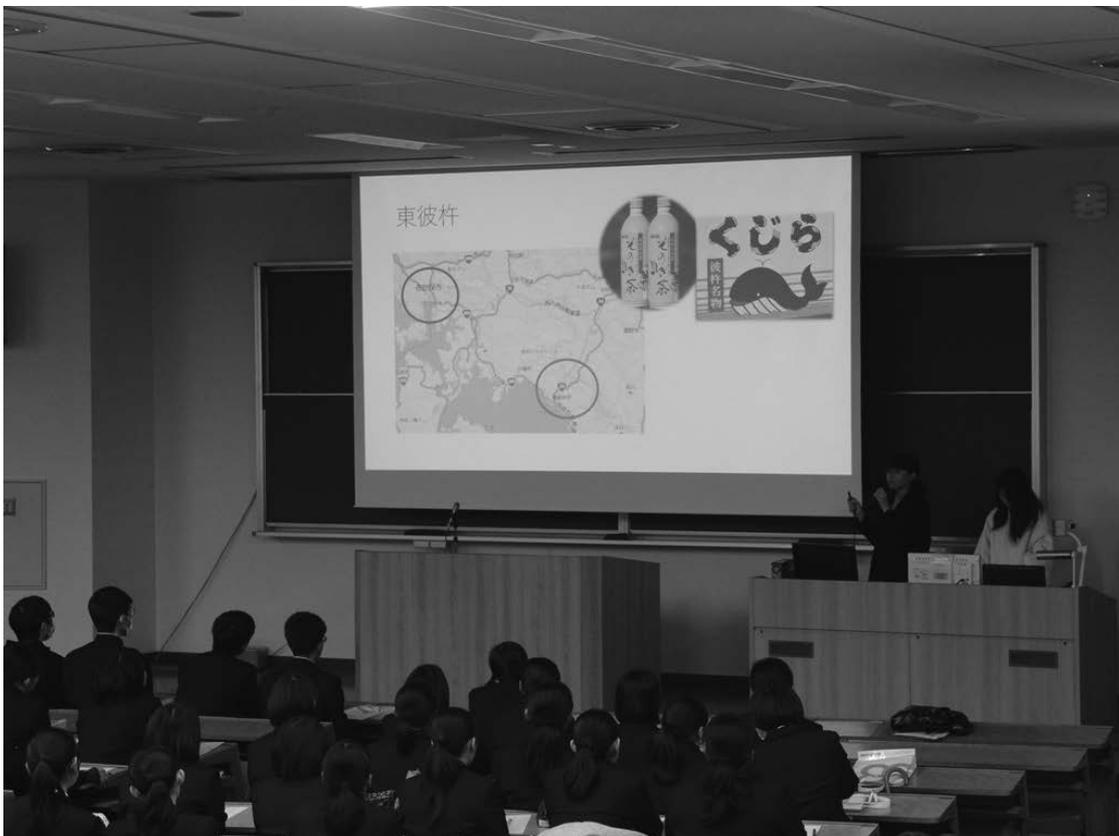


「公開講座（公共政策学科）」

『 これからの地方自治 - ガバメントからガバナンスへ - 』／黒木 誉之 准教授



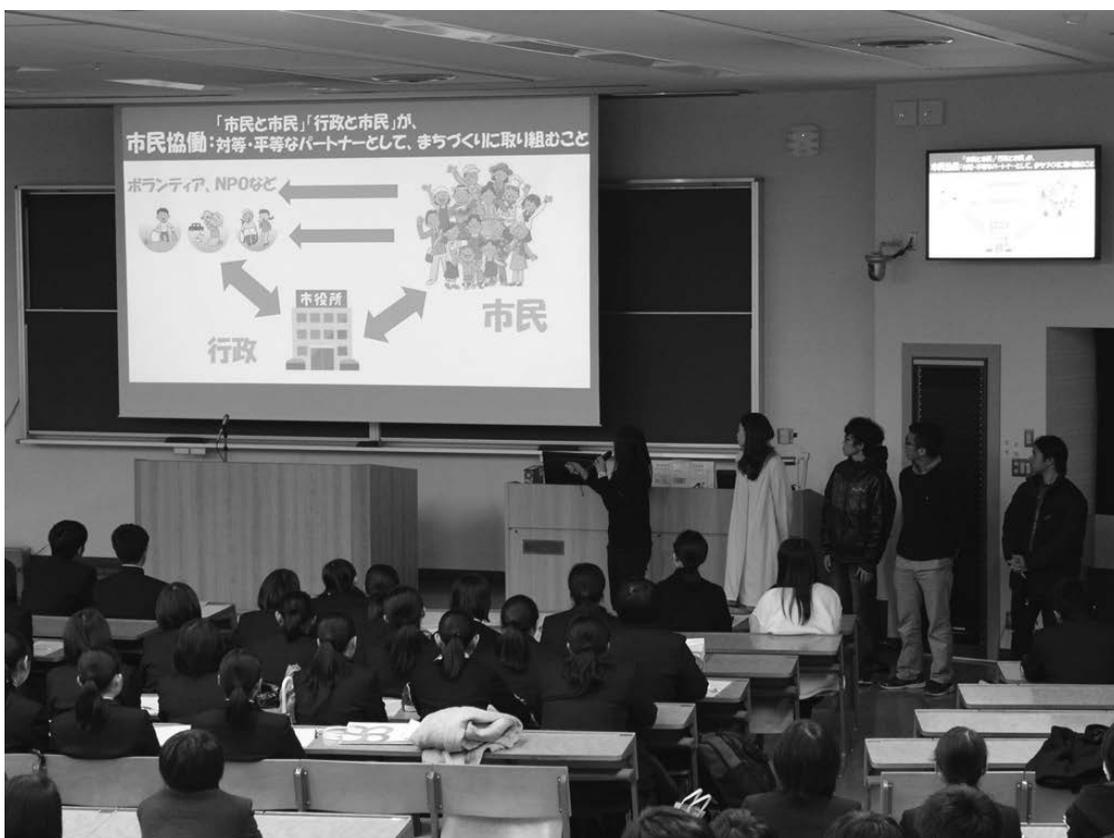
「公開講座（実践経済学科）」  
『環境問題について考えよう』／芳賀 普隆 講師



「在学生の研究活動発表」①



「在学生の研究活動発表」②



「在学生の研究活動発表」③

# 一日大学生

2018年

10月7日

国際社会科学科の扉をあけてみよう！

第1部

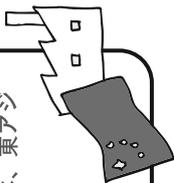
13:00-14:00  
開講

## ② 大國 中国へのアクセス

祁建民教授

一帯一路構想の推進など、中国は“超大国”への道を進んでいますが、一方では、国内外から多くの問題も。今の中国から見ていく、将来の日本、東アジアを解説します。

開講教室  
W101教室



第2部

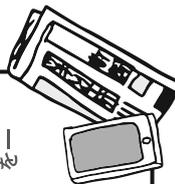
14:20-15:20  
開講

## ④ スマホで新聞社

鈴木昴彦教授

いまやスマホでSNSを使えば、誰でも「新聞社」や「放送局」になれます。好きな情報を自由に発信できますが、責任も伴います。SNSの“光と影”を一緒に考えましょう。

開講教室  
W102教室



受講無料

## ① テレビニュースを作る

金村公一准教授

カメラで撮影、原稿を書いて編集し、スタジオから発信する。映像ニュースが出来るまでを大学の最新鋭機器で体験します。プロのアナウンサーの指導もありますよ。

開講教室  
W207 (スタジオ)

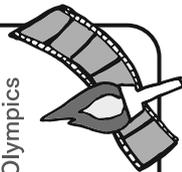


## ③ What is Iconography?

唐津理恵准教授

We will learn about “iconography”, using examples from Tokyo 2020 Olympics Promotion Video and London 2012 Olympics Promotion Video.

開講教室  
W101教室



参加申し込み お問い合わせ

会場・受付 | 長崎県立大学シーボルト校

対象 | 高校1年生～3年生

※ 教員や保護者の見学・参加も可能です。

定員 | 各講座20名 (先着順)

長崎県立大学シーボルト校 総務企画課 〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1

TEL:095-813-5500 FAX:095-813-5220 E-mail:GMSeminar@sun.ac.jp

- ・複数講座への参加、ひとつのみの参加も可能です。
- ・本学ホームページまたは郵送・FAXにて受講希望の講座をお申し込みください。
- ・申し込み時に受講したい講座番号をお知らせください。

お申し込みは  
こちらから



冊子No.19

## 国際社会学科主催 「一日大学生2018 国際社会学科の扉を開けてみよう」を開催しました

国際社会学科は平成30年10月7日（土）、高校生に大学の授業を体験していただく「一日大学生」を実施しました。この日行った授業は、国際社会学科のカリキュラムの軸になっているコミュニケーション、国際、メディアの領域から下記の4科目です。長崎県内、県外の高校生が受講し、大学ならではの専門的な内容に触れました。

「What is Iconography?」

We will learn about “iconography”, using examples from Tokyo 2020 Olympics Promotion Video and London 2012 Olympics Promotion Video. 唐津理恵准教授



「What is Iconography?」の授業の様子

「大国 中国へのアクセス」

一帯一路構想の推進など、中国は“超大国”への道を進んでいるが、一方では、国内外から多くの問題も。今の中国から見えてくる、将来の日本、東アジアを解説する。 祁建民教授



「大国 中国へのアクセス」の授業の様子

#### 「テレビニュースを作る」

カメラで撮影し、原稿を書いて編集し、スタジオから発信する。映像ニュースが出来るまでを大学の最新鋭機器で体験する。プロのアナウンサーの指導も。 金村公一准教授



「テレビニュースを作る」の授業の様子

#### 「スマホで新聞社」

いまやスマホでSNSを使えば、誰でも「新聞社」や「放送局」になれる。好きな情報を自由に発信できますが、責任も伴う。SNSの“光と影”を一緒に考える。 鈴木暁彦教授



「スマホで新聞社」の授業の様子

参加した高校生からは「これまで漠然と抱いていた大学の授業の輪郭がはっきりした」「進路選択の参考になった」などの感想が寄せられました。

「一日大学生」は来年も、内容をさらに充実させて実施する計画です。

高校生の皆さんの参加をお待ちしています。

# 高校生のための情報技術講座

2018

## 9/17

祝

講座1

長崎の観光の活性化！

Google Map を利用した地図アプリケーションの作成！

講座2

モーションキャプチャーで

CG キャラクターアニメーションを作ろう！

## 9/24

祝

講座3

色彩学&amp;グラフィックデザイン入門

~オリジナル・デジタルアート作品を創ろう！~

講座4

画像処理プログラミング

## 9/29

土

講座5

プログラミングで音を作ってみよう

講座6

3次元CGに挑戦！

会場

長崎県立大学シーボルト校  
情報演習室W203教室（西棟2F）

対象

高校1年～3年

※教員や保護者の見学・参加も可能です。

定員

各講座30名（先着順）

受講料  
無料

- ・本学ホームページまたは郵送・FAXにて、受講したい講座をお申込みください。
- ・複数講座への参加、午前のみ・午後のみ参加も可能です。
- ・午前・午後のどちらも受講する場合は、昼食をご持参ください。

# 一日 太 子 年 2018



長崎県立大学

スマホ・携帯からはこちら



主催

長崎県立大学 情報システム学部  
情報システム学科

参加申込・問合せ先

長崎県立大学シーボルト校 総務企画課

TEL: 095-813-5500 FAX: 095-813-5220 E-mail: SunSeminar@sun.ac.jp

ポスターデザイン：長崎県立大学情報システム学科 2年 市来、植松、松本

2018  
9/17 **祝**

**講座1** ○10:00～12:10 (W-203教室)

### 長崎の観光の活性化！ Google Map を利用した 地図アプリケーションの作成！



担当  
吉村 元秀 准教授

本講座では、コンピュータにおける地図情報の取り扱いについて簡単に説明した上で、フリーで使える Google Maps API を使って、観光情報を地図に張り付けて情報発信する WEB アプリの作成演習をします。近年、地図を用いた様々な情報の“見える化”の試みがなされています。最新の情報社会の動向を演習を通して体験してください。



担当  
青木 研 教授

**講座2** ○13:00～15:10 (W-203教室)

### モーションキャプチャーで CG キャラクターアニメーションを作ろう！

モーションキャプチャーシステムは実際の人の動きを3次元計測する装置です。計測した動きを CG キャラクターに適用することで、とてもリアルな動きの CG キャラクターアニメーションを作ることができます。この体験授業では、実際に映画やゲームの制作などに使用されているモーションキャプチャーシステム装置を使って人の動きを計測し、オリジナル CG アニメーションの制作に挑戦します。

9/24 **祝**

**講座3** ○10:00～12:10 (W-203教室)

### 色彩学&グラフィックデザイン入門 ～オリジナル・デジタルアート作品を創ろう！～



担当  
片山 徹也 准教授

私たちは多くの色に囲まれて生活しています。身近な存在である「色」とは何か？なぜ色は見えるのか？様々な錯視画像や色覚現象を体験しながら、色とヒトとの不思議な関係を学びます。色彩デザインの基礎講座の後、コンピュータを活用したグラフィックデザインによりオリジナルのデジタルアート作品を創ります。



担当  
平岡 透 教授

**講座4** ○13:00～15:10 (W-203教室)

### 画像処理プログラミング

画像処理は、私たちが日常的に使用しているビデオやカメラ、テレビなどに利用されている基礎的な情報処理の技術であり、処理の結果を視覚的に把握することができます。本講座では、画像処理の簡単なプログラミングを通して、情報処理関連の基本となる技術を体験することができます。

9/29 **土**

**講座5** ○10:00～12:10 (W-203教室)

### プログラミングで音を作ってみよう



担当  
藤沢 望 講師

音は、言葉や音楽として私たちの身近にあるものですが、その基本的な原理については知らない人も多いのではないのでしょうか。一方、最近では音声合成の研究が進み、コンピュータで様々な音を作り出すことが可能になりました。本講座では、基礎的な音響理論を理解し、さらにプログラミングによる音の合成方法を学ぶことで、理論的に音を作りだせるということを体験してもらいます。



担当  
辺見 一男 教授

**講座6** ○13:00～15:10 (W-203教室)

### 3次元CGに挑戦！

3次元コンピュータグラフィクス(3次元CG)は非常にリアルな表現を行うことができるため、映画やアニメ、ゲームなど様々な分野に応用されています。この講座では、3次元CGの概要を学んだ後、3次元CG作成ソフト(Shade 3D)を使ってリアルな作品作りにチャレンジします。



## 申込方法

### 申込み専用サイトより

携帯電話、スマートフォン、パソコンで本学ホームページの申込み専用サイトよりお申し込みください。

<https://sun.ac.jp/form/oneday-entry/>



### 郵送・FAX

下記の内容を、郵送、FAX いずれかで送付してください。

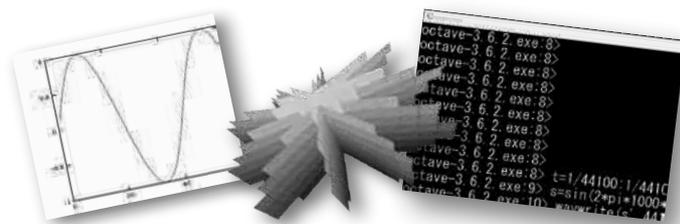
- ①参加希望の講座NO.(講座1～6、複数希望も可)、②氏名、③住所
- ④学校名・学年、⑤TEL、⑥Eメールアドレス

お申込み後、担当から E-mail もしくは電話により連絡をいたします。

<個人情報の取り扱いについて>申込みにより得られた個人情報は、本講座の実施以外の目的には利用いたしません。

## 申込締切 各講座開催の2日前

※定員(各講座30名)に達した場合、参加できないことがあります。



**主催** 長崎県立大学 情報システム学部  
情報システム学科

参加申込・問合せ先 長崎県立大学シーボルト校 総務企画課

TEL:095-813-5500 FAX:095-813-5220 E-mail:SunSeminar@sun.ac.jp

電話での参加申し込みは、平日 9:00～17:00 の受付になります。  
土日祝日の対応は出来ませんので、その際はホームページからお申し込みください。

## 情報システム学科主催「一日大学生2018－高校生のための情報技術講座－」を開催しました

2018年度情報システム学科主催一日大学生は、9月17日（月・祝）、24日（月・振休）、29日（土）にかけて6つの講座を開講し、3日間で佐賀、熊本、鹿児島、宮崎を含む40名（6講座全体で延べ84名）の方々にご参加いただきました。

9月17日（月・祝）は、午前「長崎の観光の活性化！Google Mapを利用した地図アプリの作成！」（吉村 元秀 准教授）、午後「モーションキャプチャーでCGキャラクターアニメーションを作ろう！」（青木 研 教授）の2講座を開催しました。

参加者からは、「情報技術をこれからの観光などに役立てていくことは重要だと感じた」、「CGなどのアニメーションを作る作業はやったことがなかったので、とても新鮮で楽しかったです」等の感想をいただきました。



当日の様子：9月17日（月・祝）午前の部

9月24日（月・振休）は、午前「色彩学&グラフィックデザイン入門～オリジナル・デジタルアート作品を創ろう～」（片山 徹也 准教授）、午後「画像処理プログラミング」（平岡 透 教授）の2講座を開催しました。

参加者からは、「色に関する知識は初めて知る内容が多く面白かったです」、「普段何気なく画像の加工とかをしている裏で、こんなプログラムが組まれているということに感動したし、ものすごく興味がわきました」等の感想をいただきました。



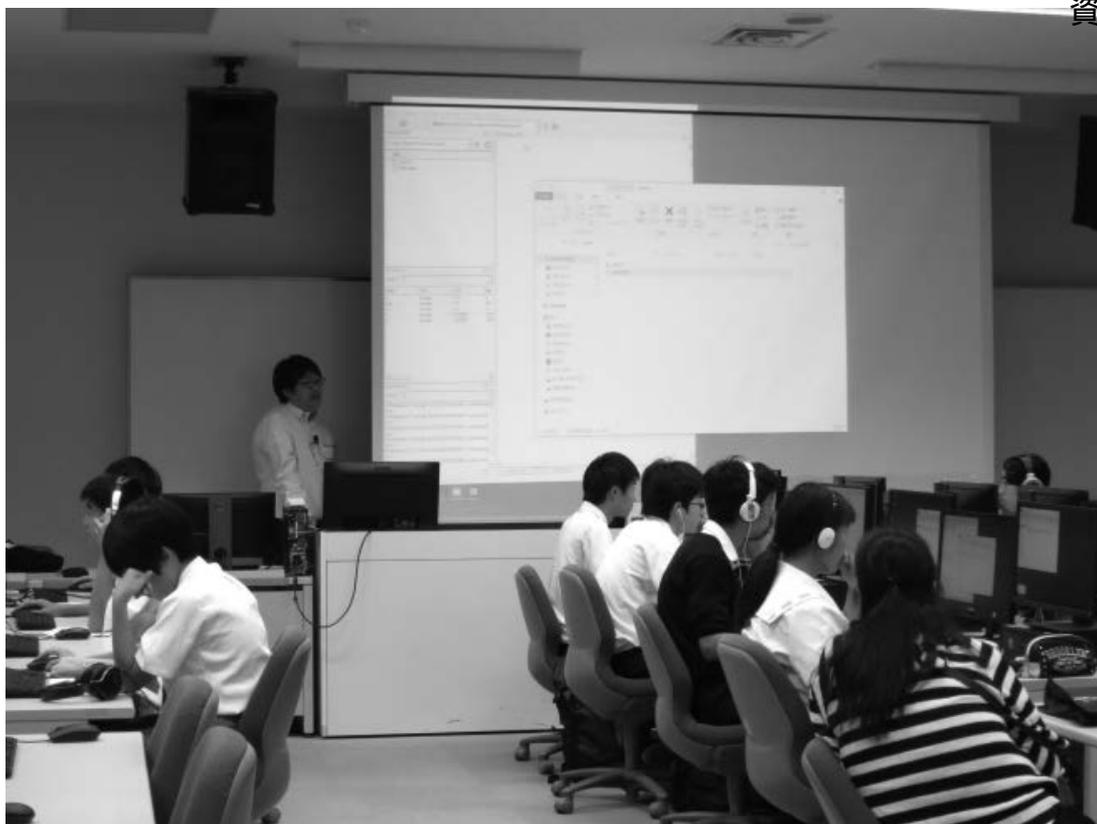
当日の様子：9月24日（月・振休）午前の部



当日の様子：9月24日（月・振休）午後の部

9月29日（土）は、午前に「プログラミングで音を作ってみよう」（藤沢 望 講師）、午後には「3次元CGに挑戦！」（辺見 一男 教授）の2講座を開催しました。

参加者からは、「コンピュータでプログラミングしたメロディーが聞くことができたのはとても面白かった」「3DCGへの興味がさらに強くなった」等の感想をいただきました。



当日の様子：9月29日（土）午前の部



当日の様子：9月29日（土）午後の部

本イベントでは、情報システム関連のテーマで全6講座を開催し、1講座につき約2時間の講義を行いました。どの講座も熱心に受講していただきました。なお、講座終了後のアンケートでは「基礎講座もやってほしい」「もう少し踏み込んだ内容で講義をお願いできれば有難いです」などの意見もあり、本イベントに対する多様なニーズを知ることが出来ました。今後の参考にさせていただきます。

最後になりますが、「一日大学生2018 - 高校生のための情報技術講座 -」に長崎県内および県外の遠方からたくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。

今後も、本学ではいろいろな講座等を企画していきますので、みなさんのご参加をお待ちしております。

# 離島オープンキャンパス

## ガイドブック

## 2018 in 上五島

### 【イベント情報】

時間	イベント内容	場所	時間	イベント内容	場所
12:30	☆大学PRビデオ	体育館	14:50	☆講義体験	第4選択教室
12:40	☆開会挨拶		<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学科 1の1</li> <li>実践経済学科 1の2</li> <li>情報セキュリティ学科 1の3</li> <li>栄養健康学科</li> </ul>		
12:55	☆しまなび紹介				
13:25	☆学生による大学紹介				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鵬祭について</li> <li>・ SUN FESTAについて</li> <li>・ 国際社会学科紹介</li> <li>・ 学生生活紹介</li> </ul>				
	☆ イベント内容紹介			☆個別相談ブース	第4選択教室
13:50	～ 移 動 ～			学科別相談ブース <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際経営学科</li> <li>・ 公共政策学科</li> <li>・ 国際社会学科</li> <li>・ 情報システム学科</li> <li>・ 看護学科</li> </ul>	
14:00	☆講義体験	第4選択教室		入試、授業料等相談ブース	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際経営学科 1の1</li> <li>・ 公共政策学科 1の2</li> <li>・ 国際社会学科 1の3</li> <li>・ 情報システム学科 1の4</li> <li>・ 看護学科</li> </ul>		☆パネル展示	2の4	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在学生と語ろうブース</li> <li>・ 学食メニュー</li> <li>・ 賃貸アパート情報</li> </ul>		
	☆個別相談ブース		15:30	☆閉会	
	学科別相談ブース <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営学科</li> <li>・ 実践経済学科</li> <li>・ 情報セキュリティ学科</li> <li>・ 栄養健康学科</li> </ul>	2の3			
	入試、授業料等相談ブース				
	☆パネル展示				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在学生と語ろうブース</li> <li>・ 学食メニュー</li> <li>・ 賃貸アパート情報</li> </ul>	2の4			
14:40	～ 移 動 ～				



長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

# 離島オープンキャンパス

## プログラム

## 2018 in対馬

### 【イベント情報】



時間	イベント内容	場所	時間	イベント内容	場所
13:00	☆大学PRビデオ	体育館	15:20	☆講義体験	地学実験室 生物実験室 地歴公民教室 視聴覚室
13:10	☆開会挨拶		<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学科</li> <li>実践経済学科</li> <li>情報セキュリティ学科</li> <li>栄養健康学科</li> </ul>		
13:25	☆しまなび紹介		☆個別相談ブース		
13:55	☆学生による大学紹介		学科別相談ブース <ul style="list-style-type: none"> <li>国際経営学科</li> <li>公共政策学科</li> <li>国際社会学科</li> <li>情報システム学科</li> <li>看護学科</li> </ul> 入試、授業料等相談ブース 在学生と語ろうブース	商事実習室	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鵬祭について</li> <li>・ SUN FESTAについて</li> <li>・ 公共政策学科紹介</li> <li>・ 看護学科紹介</li> </ul> ☆ イベント内容紹介		☆パネル展示		
14:20	～ 移 動 ～		16:00	～ 移 動 ～	
14:30	☆講義体験	地学実験室 生物実験室 物理実験室 地歴公民教室 視聴覚室	16:10	☆個別相談ブース	商事実習室
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際経営学科</li> <li>・ 公共政策学科</li> <li>・ 国際社会学科</li> <li>・ 情報システム学科</li> <li>・ 看護学科</li> </ul>	☆個別相談ブース			
	☆個別相談ブース	商事実習室		学科別相談ブース すべての学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営学科・国際経営学科</li> <li>・ 公共政策学科・実践経済学科</li> <li>・ 情報システム学科・情報セキュリティ学科</li> <li>・ 国際社会学科</li> <li>・ 看護学科・栄養健康学科</li> </ul> 入試、授業料等相談ブース 在学生と語ろうブース	商事実習室
	入試、授業料等相談ブース 在学生と語ろうブース		☆パネル展示		
	☆パネル展示	商事実習室		☆パネル展示	商事実習室
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学食メニュー</li> <li>・ 賃貸アパート情報</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学食メニュー</li> <li>・ 賃貸アパート情報</li> </ul>		
15:10	～ 移 動 ～		16:30	☆閉会	

## (8) 学長裁量教育研究費

【佐世保校】

(単位：件、千円)

平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
22	11,802	13	6,693	19	9,096	17	7,727	16	6,012

[平成30年度の取り組み]

研究種目	研究代表者		共同・個人の別	研究期間(年)	研究課題	交付額 (千円)
	学科	氏名				
離島	公共政策	松尾 晋一	個人	1	朝鮮通信使絵巻の基礎的分析と教育教材開発	525
東アジア	国際経営	江崎 康弘	個人	3	地方中小企業の東アジアへの事業展開の課題と対策に関する研究	424
長崎の地域課題	経営	板垣 太郎	共同	2	観光資源としてのコンテンツの可能性についてのアクションリサーチ型研究～佐世保市における事例を中心に～	389
	公共政策	伊藤 康貴	個人	1	長崎県における若者支援システム構築の研究 —地域社会資源のネットワーク化を中心に—	328
	公共政策	寺床 幸雄	個人	3	長崎の農山村における地域活動の実践的支援に向けた研究方法の構築と展開	562
	実践経済	芳賀 普隆	個人	3	長崎県の再生可能エネルギー普及・活用に伴う地域活性化に関する研究	421
	経営	宮地 晃輔	個人	1	長崎県ホテル産業人材のホスピタリティ・スキル継続的改善を目的とした「業務プロセスの視点」からの教育プログラムの構築—長崎県と観光振興他地域との比較分析を基礎として	277
	実践経済	鶴指 眞志	個人	3	長崎県における地域公共交通に関する研究	190
	公共政策	黒木 誉之	個人	3	市民自治・市民協働と地域ガバナンス —災害対応を中心として—	400
学長が掲げる大学の目標	公共政策	奥山 忠裕	共同	1	長崎県の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録を見据えた国際行政施策の比較研究	634
	公共政策	綱 辰幸	共同	1	長崎県における地域イノベーションと大学の役割	298
	経営	山崎 祐一	個人	2	地域連携による「英語が身につく街づくり」が、異文化共生と英語力改善に及ぼす効果	324
	国際経営	石田 和彦	個人	1	演習等で使用するデータ教育用教材の作成	117
科研費獲得支援	経営	宮地 晃輔	個人	1	日本の造船業における組織間管理会計の導入による採算性・受注力改善に関する研究	513
	国際経営	谷澤 毅	個人	1	ハンザ衰退後のハンザ都市の博覧会と博物館	425
	公共政策	石田 聖	個人	1	ソーシャルビジネスにおける官民協働プロセスについての研究	185
総 計						6,012

## 【シーボルト校】

(単位：件、千円)

平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
件数	金額								
41	35,169	39	31,752	39	31,530	38	29,594	43	26,611

## [平成30年度の取り組み]

研究種目	研究代表者		共同・個人の別	研究期間(年)	研 究 課 題	交付額 (千円)
	学 科	氏 名				
離島	栄養健康	稲垣 佳映	共同	3	離島農産物の非可食部分を用いたプレバイオティクス効果の検討	432
	国際社会	福島 涼史	個人	1	グローバル法の拠点としての「離島」とその発展可能性	324
長崎の地域課題	栄養健康	田中 一成	共同	1	長崎県農産物の機能性解明と機能性食品開発	1,845
	情報システム	日下部 茂	共同	1	地域課題分析へのシステム思考アプローチの適用	731
	看護	久佐賀 真理	共同	2	ひきこもり等社会から孤立する人(世帯)への多機関による支援体制構築に関する研究	455
	栄養健康	湯浅 正洋	共同	1	長崎県活性化を目指した南島原産新タマネギの栄養機能性と呈味特性の解明	1,102
	看護	堂下 陽子	共同	3	精神障害をもちながら子育てをする利用者に対する訪問看護師の支援体制の構築	273
	栄養健康	岡本 恭子	共同	1	糖尿病の発症と重症化予防に関する基礎研究	373
	情報システム	吉村 元秀	個人	2	「ひと」、「まち」、「もの」の連動を俯瞰する技術者育成に向けた長崎百景プロジェクトの推進	787
	栄養健康	松澤 哲宏	個人	1	長崎県産乳酸菌の簡易同定法および機能性に関する研究	664
	国際社会	森田 均	個人	3	地域社会における高度交通システム構築からメディア論へ新たな研究手法をもたらす試み	1,000
	情報システム	辺見 一男	個人	1	非接触型インタラクティブデジタルサイネージにおけるコンテンツのハンドリング手法に関する研究	304
	看護	高比良 祥子	個人	2	肝疾患看護に関わる外来看護師のケアの臨床知に関する研究	372
	看護	林田 りか	個人	1	乳児を育てる父親の育児に関する研究	525
	栄養健康	本郷 涼子	個人	2	長崎県の病院給食施設における「低菌食」の調理および食事基準に関する研究	837
	看護	木村 チヅル	個人	2	住民主体型活動を行う高齢者の意識と活動過程	151
	栄養健康	竹内 昌平	個人	1	買い物環境が地域住民の健康状態に与える影響についての縦断的調査	711
栄養健康	石見 百江	個人	2	長崎県の地域住民に対する健康的な食行動プログラム実践に関する研究	252	
挑戦的	栄養健康	飛奈 卓郎	共同	1	健康長寿の秘訣を長期縦断研究から探る-坂の町に住むメリットの提案を目指して-	1,866
	栄養健康	永山 千尋	共同	2	楽しさを引き出す運動条件の検討-地域住民の運動習慣の形成を目指して-	719
	情報セキュリティ	永野 哲也	共同	1	フィンスラー空間の非対称性を応用した新公開鍵暗号の具体例の構成	475
	看護	吉田 恵理子	共同	1	青年期の吃音者が体験した悩みと、親に求めるソーシャル・サポートに関する研究-社交不安障害との関連-	443

研究種目	研究代表者		共同・個人の別	研究期間(年)	研 究 課 題	交付額 (千円)
	学 科	氏 名				
挑 戦 的	看護	竹口 和江	共同	2	「産後の復職支援」の概念分析	278
	情報セキュリティ	松田 健	個人	2	時系列的に変化する幾何学的対象物の高速な不変量計算方法の確立	792
	情報セキュリティ	C. ソムチャイ	個人	1	情報の不正抽出を防止し、かつHTMLフォームの更新に自動適応するオールフィル機能の研究開発	291
	情報セキュリティ	吉田 雅一	個人	1	量子コンピュータに代表される量子情報処理の発展に向けた量子状態推定の構成方法の導出	298
学 長 が 掲 げ る 大 学 の 目 標 に 合 致	情報セキュリティ	加藤 雅彦	共同	3	個人情報漏えいの収集と分析に関する調査および研究	743
	情報システム	平岡 透	共同	3	情報システム学科におけるゼミ配属前の学生の研究力向上-ビジュアルエフェクトを題材として	371
	栄養健康	古場 一哲	共同	1	本態性高血圧モデル動物における黒大豆乳酸発酵物の血圧上昇抑制機能とその機序の解明	2,300
	栄養健康	駿河 和仁	共同	1	アルコール性肝障害発症時におけるビタミンA栄養状態の影響とその機序に関する研究	761
	国際社会	田中 弘恵	共同	3	人工知能搭載英会話ロボットチャーピーを利用した日本人大学生の英語プレゼンテーションスキル向上のための実証的研究	418
	栄養健康	山口 範晃	共同	1	肥満マウスのビタミン摂取が脂肪組織のAMPシグナリングへ与える影響	520
	看護	三重野 愛子	共同	2	看護技術初学者における技術修得パターンの解明	420
	栄養健康	大曲 勝久	個人	1	我々が確立した非アルコール性脂肪肝炎動物モデルの汎用化に向けて	751
	栄養健康	倉橋 拓也	個人	1	ファインバブル加圧した微小油滴による食材機能成分の抽出と化学研究	381
	情報システム	藤沢 望	個人	3	高度な専門的知識を有する職業人育成のためのサウンドプログラミング教育の実践その2	107
	看護	大塚 一徳	個人	1	ワーキングメモリ査定による高齢者の記憶の自己効力感変化と外的記憶補助利用の関連性	726
	看護	永峯 卓哉	個人	1	アクティブラーニングの価値評価とグループワーク指向性の能動的学習への影響	345
	情報セキュリティ	松崎 なつめ	個人	3	多値カードを用いた秘密計算プロトコルの研究	62
	栄養健康	四童子 好廣	個人	1	ヒト肝癌細胞における非環式ジテルペノイドGGAの極性代謝産物の同定	660
	看護	坂本 仁美	個人	1	看護基礎教育課程における情報リテラシー獲得のためのアドバンスカリキュラムの開発	511
科 研 費 獲 得 支 援 部 門	栄養健康	岡本 恭子	個人	1	ゲラニルゲラノイン酸 (GGA) によるパイロンを介した細胞死誘導機構の解析	834
	情報セキュリティ	穴田 啓晃	個人	1	量子コンピュータの解析能力に耐えるプライバン保護型証明システム的设计	401
総 計						26,611

## 研究論文数・学会発表数

	欧文学術誌発表論文					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30
経済学部	14	8	16	—	—	—
経営学部	—	—	—	1	1	1
地域創造学部	—	—	—	7	5	3
国際情報学部	7	3	10	—	—	—
国際社会学部	—	—	—	6	5	4
情報システム学部	—	—	—	14	15	26
看護栄養学部	18	32	20	17	15	24
年度計	39	43	46	45	41	58

	邦文学術誌発表論文					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30
経済学部	29	34	33	—	—	—
経営学部	—	—	—	20	16	17
地域創造学部	—	—	—	15	11	7
国際情報学部	30	44	33	—	—	—
国際社会学部	—	—	—	22	18	12
情報システム学部	—	—	—	23	15	12
看護栄養学部	32	27	13	27	11	15
年度計	91	105	79	107	71	63

	国際学会発表					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30
経済学部	15	14	13	—	—	—
経営学部	—	—	—	9	5	4
地域創造学部	—	—	—	8	11	11
国際情報学部	13	10	16	—	—	—
国際社会学部	—	—	—	11	9	8
情報システム学部	—	—	—	12	20	20
看護栄養学部	39	29	27	30	35	20
年度計	67	53	56	70	80	63

	全国学会発表					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30
経済学部	19	28	32	—	—	—
経営学部	—	—	—	24	17	14
地域創造学部	—	—	—	20	23	21
国際情報学部	24	35	17	—	—	—
国際社会学部	—	—	—	20	16	5
情報システム学部	—	—	—	53	42	54
看護栄養学部	106	104	91	103	89	92
年度計	149	167	140	220	187	186

# 長崎県立大学 研究シーズ集 2018

## 目次

職名	氏名	タイトル	頁
<b>経営学部 経営学科</b>			
教授	岩清水 由美子	コンラッドの小説におけるジェンダー研究	1
教授	鴻上 喜芳	賠償責任保険のあり方	2
教授	代田 義勝	女性活躍と地域の役割	3
教授	神保 充弘	医薬品業界における流通系列化の生成過程	4
教授	高橋 秀至	租税回避否認の是非と否認規定のあり方	5
教授	竹田 範義	イギリス減価償却会計の学説史研究	6
教授	三戸 浩	企業と社会	7
教授	宮地 晃輔	地域企業の現場改善と人材育成の高度化に関する研究	8
教授	村上 則夫	魅力ある地域コミュニティのあり方に関する考察	9
准教授	齋藤 光正	ドイツ経営経済学と商業学との接点	10
准教授	津久井 稲緒	企業の社会的責任における責任概念の研究	11
准教授	四本 雅人	組織事故と安全文化に関する研究	12
<b>経営学部 国際経営学科</b>			
教授	江崎 康弘	グローバル化時代—地方中小企業の海外展開の課題	13
教授	谷澤 毅	流通・経営から見た歴史、軍港都市の歴史	14
教授	矢野 生子	グローバル化の下でのIMF、WTO体制の再考察	15
准教授	齋藤 毅	アジアと日本の人的資源管理の比較分析	16
講師	黒岩美翔	全社リスク・マネジメント(ERM)の展開過程についての一考察—内部統制・ERM・SR	17
<b>地域創造学部 公共政策学科</b>			
教授	車相龍	地方社会における包摂的なイノベーションの仕組みの解明	18
教授	綱 辰幸	介護保険と自治体財政	19
教授	西岡 誠治	生活の質に着目した賢い都市の縮め方	20
教授	橋本優花里	いつでも、どこでもリハビリテーションができる環境づくり	21
教授	松尾晋一	江戸時代の外交と社会	22
教授	松岡 純子	(中国近現代)許地山(1894-1941)研究	23
准教授	奥山 忠裕	移住推進地域を対象としたアメニティ調査	24
准教授	黒木 蒼之	自治・協働と地域ガバナンス	25
准教授	吉本 諭	フードシステムの産業構造に関する考察	26
講師	石田 聖	協働を支援する中間支援組織の研究	27
講師	伊藤康貴	地域社会における若者支援に関する研究	28
講師	長濱 幸一	地域の歴史の検討	29
<b>地域創造学部 実践経済学科</b>			
教授	古河 幹夫	成熟社会における政策と社会的価値	30
教授	西 道彦	トレード・タームズの特性と使用実態	31
教授	柳田 芳伸	公共性からみた人口減対策	32
教授	楊 光洙	日本のマクロ経済政策・社会保障政策	33
講師	芳賀 普隆	地域における再生可能エネルギー普及の現状分析と課題検証に関する研究	34

職名	氏名	タイトル	頁
<b>国際社会学部 国際社会学科</b>			
教授	李 炯喆	東アジア国際関係と日本外交	35
教授	上村俊彦	現代英語の研究	36
教授	荻野 晃	ヨーロッパ国際関係の歴史的・理論的考察	37
教授	笠原 敏彦	欧州統合とグローバル化世界	38
教授	祁 建民	中国水利史及び日中水利環境協力研究	39
教授	下野 孝文	日本近代、現代文学	40
教授	鈴木 暁彦	現代中国の政治とメディア	41
教授	関谷 融	教授作用を支えるモノ・構造	42
教授	竹部 隆昌	ビザンツ＝西方関係史	43
教授	村上 雅通	ローカル民放の自主制作比率と視聴率との関係性についての分析	44
教授	森田 均	Webナビゲーションと近距離無線通信技術によって公共交通の体系化を促し地域発ITSモデルの構築を目指す研究開発(地域ITS研究)	45
准教授	小原 篤次	地域づくり事業の調査・企画	46
准教授	金村 公一	情報・メディア、文化科学の視点で地域情報を考え、実践する	47
准教授	唐津 理恵	「ナショナル・シネマ」の観点からみた映画『HANA-BI』の分析	48
准教授	河又 貴洋	社会知能情報学の視点から	49
准教授	周 国強	中国語教育	50
准教授	福島 涼史	国際法遵守のための国内法メカニズム	51
准教授	門部 昌志	メディア・コミュニケーションの基礎研究	52
准教授	柳田多聞	紙芝居上演を通じての対人コミュニケーションに関する研究	53
准教授	山田 健太郎	グローバル社会の文化とコミュニケーション	54
准教授	吉光 正絵	東アジアのポピュラー文化と女性	55
特任講師	田中 弘恵	効果的な英語プレゼンテーション能力向上のための応用言語学と最新テクノロジーの実証的研究	56
<b>情報システム学部 情報システム学科</b>			
教授	有田 大作	農業における情報通信技術の活用	57
教授	金谷 一郎	画像処理技術による歴史探訪	58
教授	日下部 茂	ITプロジェクト成功のためのシステム思考モデリング	59
教授	平岡 透	地理空間情報の防災への応用	60
教授	辺見 一男	画像処理を用いたリハビリテーションシステム	61
准教授	片山 徹也	異なる色相を背景色とするVDT画面に対するイメージ評価と疲労感	62
准教授	吉村 元秀	ITによる地域コミュニティの活性化と観光情報発信	63
講師	藤沢 望	エンタメ作品視聴時の印象のリアルタイム評価	64
講師	前村 葉子	イメージセンサを用いた運動促進システム	65
<b>情報システム学部 情報セキュリティ学科</b>			
教授	穴田 啓晃	未来の情報化社会を安全・安心にする暗号の設計と評価	66
教授	加藤 雅彦	ネットワークシステムの安全性評価に関する研究	67
教授	小松 文子	情報セキュリティと社会・個人	68
教授	チャットウィチェン チャイ ソムチャイ	Excelをベースとした、画期的なデータ収集システムの開発と、その多角的な応用	69
教授	永野 哲也	線形平行移動によるフィンスラー空間の研究	70
教授	松崎 なつめ	高機能暗号技術と、IoTへの応用研究	71
教授	山口 文彦	分類の類似度指標	72
准教授	松田 健	データサイエンスと数理モデル	73
講師	吉田 雅一	量子情報理論の応用技術を用いた情報通信システムの信頼性・安全性の向上に関する研究	74

職名	氏名	タイトル	頁
<b>看護栄養学部 看護学科</b>			
教授	大塚 一徳	高齢者のワーキングメモリ機能の査定を取り入れた認知症予防・啓発講座の開発	75
教授	河口 朝子	ハンセン病回復者のスティグマ	76
教授	久佐賀 眞理	ひきこもり等社会的孤立者への支援ネットワークに関する研究	77
教授	中尾 八重子	看護基礎教育における災害看護教育に関する研究	78
教授	山澄 直美	院内研修評価モデルの開発	79
教授	李 節子	日本版 性暴力対応チーム研修開発と看護実践力の向上に関する研究	80
准教授	高比良 祥子	肝疾患看護に携わる外来看護師のケアの臨床知に関する研究	81
准教授	永峯 卓哉	タブレットを活用した学習支援システムの開発	82
准教授	林田 りか	育児のQOLに関する研究	83
准教授	山谷 麻由美	地域診断にもとづく高齢者の通いの場づくり ～JAGES地域診断支援ツールを活用して～	84
准教授	吉田 恵理子	2型糖尿病と運動機能障害を併せもつロコモ予備軍患者の身体機能、自己効力感に関する研究	85
講師	片穂野 邦子	分子標的薬治療を受けている肺がん患者の看護に関する研究	86
講師	木村 チヅル	新総合事業対象者選定の要件	87
講師	重富 勇	精神科看護師のメンタル	88
助教	竹口 和江	企業外労働衛生機関の保健師の保健活動に関する研究	89
講師	堂下 陽子	訪問看護を利用している精神障害者に対する看護内容と課題	90
講師	新田 祥子	在日外国人の母子保健	91
講師	三重野 愛子	看護技術教育における看護学生の技術修得へ影響する要因	92
講師	山口 多恵	高齢者リハを支援する看護師の人材育成に関する研究	93
助教	坂本 仁美	次世代型地域包括ケアを先導する看護学教育確立のためのニーズ解析とカリキュラム開発	94
助教	高崎 亜沙奈	特定行為看護実践に関する看護師の認識—地域医療に焦点を当てて—	95
助教	濱里セツ子	1歳6か月から4歳の発達や行動が「気になる子ども」の睡眠状況と母親の子育ての自信との関連	96
<b>看護栄養学部 栄養健康学科</b>			
教授	大曲 勝久	非アルコール性脂肪性肝疾患に対する栄養治療	97
教授	久木野 憲司	減量目的のダイエットが身体に及ぼす影響	98
教授	古場 一哲	食品～食品成分によるメタボリックシンドローム改善作用	99
教授	四童子 好廣	哺乳動物の出産率向上飼料の新規開発	100
教授	田中 一成	食品が有する機能性評価(動物試験とヒト試験)	101
教授	森田 茂樹	低栄養状態スクリーニング法の検証	102
准教授	倉橋拓也	ファインバブル加圧した微小油滴による食材機能成分の抽出と化学研究	103
准教授	駿河 和仁	実験動物を用いたアルコール性障害抑制効果をもつ食品の検索	104
准教授	飛奈 卓郎	ヒトのエネルギー代謝量測定に関する研究	105
講師	石見 百江	子どもの食に関する栄養教育と評価	106
講師	竹内 昌平	小地域ごとの感染症流行リスクの推定と対策立案	107
講師	本郷 涼子	給食調理従事者の疲労度に関する研究	108
講師	松澤 哲宏	DNAシーケンサーを用いた菌種同定	109
助教	稲垣 佳映	食品の廃棄部分におけるプレバイオティクス効果の検討	110
助教	岡本 恭子	オートファジー制御を介した細胞死メカニズムの解析	111
助教	永山 千尋	運動トレーニングが内因性カンナビノイドに与える影響	112
助教	山口 範晃	脂肪組織のビタミンA代謝に関する研究	113
助教	湯浅 正洋	ビオチンが脂質代謝に及ぼす影響	114

# The 8<sup>th</sup> East Asia Academic Exchange Forum

## Society, Economy and Culture in East Asia

Date: November 2, 2018      Venue: University of Nagasaki Sasebo Campus

No	Title	Presenter
<b>Section A (Moderator: Prof. Xin Dong ZHAO)</b>		
1	Perceived CSR, Employee Attitudes, and Organizational Citizenship Behavior in China The Mediating Effect of Confucian Values	Jian Yu CHEN & Suk Jun LIM Dong-A University
2	Collaborative Network and Structural Holes' Advantages: Evidence from Fire-protection Industry China, Japan and South Korea	Hua ZHANG Huaqiao University
3	Tourism Market Positioning in Provinces of Central Vietnam	Pham Thi TAM Dong A University
4	Science and Religion~Celebrate Sansa, Nagasaki and Fanjingshan as a World Heritage Site	Qing Zhu YIN University of Nagasaki i
5	A Comparative Study on Corporate Social Responsibility in China and the United States	Li Na MAO & Suk Jun LIM Dong-A University
6	A Study on the Digitization of Trade Transactions	Jing Nan CHEN University of Nagasaki
Q & A		
<b>Section B (Moderator: Prof. Suk Jun LIM)</b>		
7	Analysis of Real Estate Investment Strategies of Foreign Corporations in Danang City, Vietnam	Minh Quy TRAN & Pan Do SON Dong-A University
8	Effects of Entrepreneurial Education and Entrepreneurial Self-Efficacy on Undergraduates' Entrepreneurial Intention	Xian Yue LIU Huaqiao University
9	The 4 <sup>th</sup> Industrial Revolution – Effects and Opportunities to Vietnam Tourism Industry	Dang Thi Kim THOA Dong A University
10	A Study on Venture Capital Situation and Entrepreneur Development in Taiwan	Shinichi BABA University of Nagasaki
11	The EU Elderly Employment Promotion Policy and Its Implications for Korea	Seon Hee KIM & Ki Sik HWANG Dong-A Universtiy
12	Our Living/Commercial/Economic Areas/Spheres in the East Asian Digital Ecosystem	Takahiro KAWAMATA University of Nagasaki
Q & A		
<b>Section B (Moderator: Assoc. Prof. Takahiro KAWAMATA)</b>		
13	The 'EU RIGA CONCLUSIONS 2015' and Its Implications for Korea	Da Gam JUNG & Ki Sik HWANG Dong-A University
14	Can Education Promote the Realization of Comprehensive and Healthy Aging?	Xin Dong ZHAO Huaqiao University
15	Talking about the Duty of Civil Society to Abolish Nuclear Weapons	Ming Yue SUN University of Nagasaki
16	Shaping Investment Law and Dispute System in North Korea	Se Jin KIM & Dae Jung KIM Dong-A University
17	Discourse Analysis of Kendama Communities' Spoken Languages in Other Cultures and the Future Possibilities for Intercultural Communication Using Kendama	Hiroe TANAKA University of Nagasaki
Q & A		

## 「第8回東アジア学術交流フォーラム」を開催しました

平成30年11月2日（金）、本学佐世保校で「第8回東アジア学術交流フォーラム」を開催しました。このフォーラムは日中韓ベトナム研究機関間（本学東アジア研究所、中国華僑大学東方管理研究センター、韓国東亜大学国際専門大学院、ベトナムドンア大学経営学部）の学術交流協定に基づき開催したものです。

フォーラムは3つのセッションに分けられ、「Society, Economy and Culture in East Asia : 東アジアにおける社会・経済・文化」の統一テーマに基づいて、日中韓ベトナム4大学の教員、大学院生より計17の発表が行われました。

太田 博道 長崎県立大学長の開会挨拶によってフォーラムが幕を開き、その後、Suk Jun LIM韓国東亜大学国際専門大学院教授、趙 昕東 中国華僑大学社会科学処長、Minh Sam LUONGベトナムドンア大学副学長によるスピーチが設けられました。



太田 博道 学長



Suk Jun LIM教授



趙 昕東 処長



Minh Sam LUONG 副学長

引き続き行われた午前中のAセッションにおいて、本学からは、尹 清洙 准教授が「Science and Religion~The Celebration of Sansa, Nagasaki Region and Fanjingshan World Heritage Sites」（和訳：科学と宗教～山寺、長崎教会群、梵浄山の世界遺産登録を祝う）；大学院経済学研究科2年の 陳 婧囡さんが「A Study on the Digitization of Trade Transactions」（和訳：貿易取引の電子化と決済問題）と題した研究報告を行いました。



尹 清洙 准教授



陳 婧囡さん

午後のBセッションでは、本学からは 馬場 晋一 講師が「A Study on Venture Capital Situation and Entrepreneur Development in Taiwan」（和訳：台湾におけるアントレプレナー育成とベンチャーキャピタルについての考察）；また、河又 貴洋 准教授が「Our Living/Commercial/Economic Areas/Spheres in East Asian Digital Ecosystem」（和訳：東アジアにおけるデジタル経済圏、商業圏、そして生活圏）をテーマにそれぞれ報告しました。



馬場 晋一 講師



河又 貴洋 准教授

さらに、Cセッションでは、本学大学院国際情報学研究科2年の 孫 明悦さんが「Talking about the Duty of Civil Society to Abolish Nuclear Weapons」（和訳：世界反核運動から見る市民の役割）；及び 田中 弘恵 特任講師が「Discourse Analysis of Kendama Communities' Spoken Languages in Other Cultures and the Future Possibilities for Intercultural Communication Using Kendama」（和訳：異文化におけるけん玉コミュニティの話し言葉の談話分析とけん玉を使った異文化コミュニケーションの未来可能性の検討）を発表しました。



孫 明悦さん

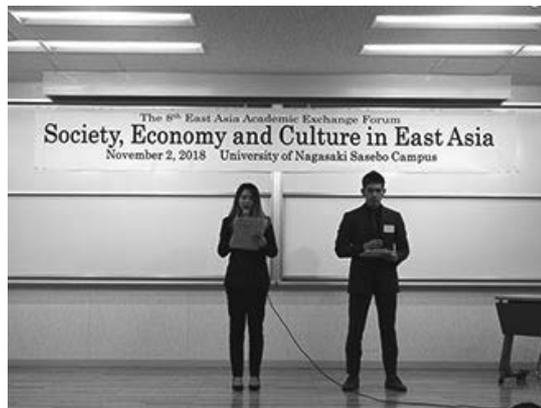


田中 弘恵 特任講師

また、各セッションに質疑応答の時間を設けており、モデレーターらの進行のもと、活発な討論が行われました。本学大学院経済学研究科2年の 班 績さん、及び国際社会学科3年の 樋原 一輝さんはフォーラムの司会として活躍し、流暢な英語で進行を務めました。



質疑応答の様子



学生司会

フォーラムは 谷澤 毅 長崎県立大学東アジア研究所長の閉会挨拶をもって、幕を下ろしました。来年度のフォーラムは韓国東亜大学で開催される予定です。



谷澤 毅 所長



記念撮影

## 共同研究・受託研究一覧

## ○実施件数

(単位:件)

年度	共同研究	受託研究	備考
30年度	27	8	
29年度	22	12	
28年度	14	9	
27年度	11	6	
26年度	11	8	
25年度	13	11	
計	98	54	

※相手先や共同研究者に配慮し、件数のみ記載。

# 平成30年度 第1部 長崎県立大学

# 公開講座

## 5/26<sup>土</sup>

### 経営学科

【主会場】佐世保校 【遠隔会場】シーボルト校、新上五島町



長崎県の新旧企業の栄枯盛衰から  
経営学を学ぶ

講師 三戸 浩 教授



私たちのくらしと改正民法

講師 板垣 太郎 講師

## 6/9<sup>土</sup>

### 国際経営学科

【主会場】佐世保校 【遠隔会場】シーボルト校



ネット社会における「お金」  
～金融論の基礎から仮想通貨問題を考える～

講師 石田 和彦 教授



宗教改革から500年 欧州の精神文化を古典から学ぶ  
～資本主義の精神とは～

講師 山本 裕 教授

## 6/23<sup>土</sup>

### 情報システム学科

【主会場】シーボルト校 【遠隔会場】佐世保校



暮らしに活かす色彩学  
～色とヒトの不思議な関係～

講師 片山 徹也 准教授



自覚しにくい聴力の衰え  
～耳のしくみと音の聴こえ方～

講師 藤沢 望 講師

## 7/7<sup>土</sup>

### 栄養健康学科

【主会場】シーボルト校 【遠隔会場】佐世保校



糖尿病の治療と予防

講師 森田 茂樹 教授



わが国の震災から学ぶ災害後の健康と食事  
～被災時の食事を考える～

講師 湯浅 正洋 助教

## 7/28<sup>土</sup>

### 国際社会学科

【主会場】シーボルト校 【遠隔会場】佐世保校



習近平の新時代における  
中国の現状と展望

講師 祁 建民 教授



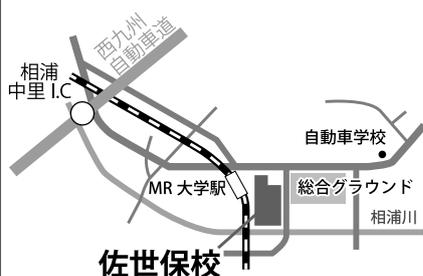
人、物、金のつながりから見る  
日本と中国の関係

講師 鈴木 暁彦 教授

## 会場案内

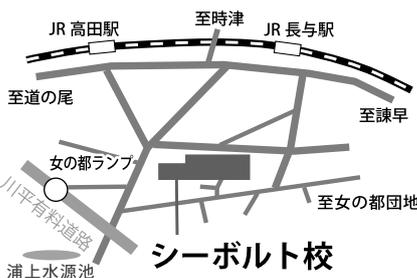
### 佐世保校

新館講義棟 1階504教室  
佐世保市川下町123



### シーボルト校

中央棟 1階M103講義室  
西彼杵郡長与町まなび野1-1-1



### 新上五島町

鯨賓館活動支援室  
南松浦郡新上五島町有川郷578-36

遠隔会場には主会場からテレビ授業システムにより映像を配信します。



駐車場  
あり  
無料

お問合せ



長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

佐世保校 <企画広報課> TEL 0956-47-5856

シーボルト校 <総務企画課> TEL 095-813-5500

【主催】長崎県立大学

【後援】長崎県教育委員会、佐世保市、長与町、新上五島町

## 経営学科

# 5/26

土曜日

【主会場】  
佐世保校

【遠隔会場】  
シーボルト校  
新上五島町



### 長崎県の新旧企業の 栄枯盛衰から経営学を学ぶ

講師 三戸 浩 教授 時間 13:30~14:30

かつて長崎県を代表する企業としては、長崎市では三菱重工長崎造船所、佐世保市では佐世保重工(SSK)であったが、現在、県民に尋ねてみたら、おそらくジャパネット・タカタとハウステンボスの名前が挙がるのではないのでしょうか？その栄枯盛衰を経営学(ドラッカー理論、戦略論・マーケット論など)の理論で分析し、マネジメントの重要性や面白さを伝えたいと思います。



### 私たちのくらしと改正民法

講師 板垣 太郎 講師 時間 14:40~15:40

2020年4月1日、債権関係の規定について約120年ぶりに全面的に改正された民法がいよいよ施行されます。本講座では、この改正民法について、とくに私たちの生活に大きな影響を及ぼすと考えられる規定を中心に学びます。

## 国際経営学科

# 6/9

土曜日

【主会場】  
佐世保校

【遠隔会場】  
シーボルト校



### ネット社会における「お金」 ～金融論の基礎から仮想通貨問題を考える～

講師 石田 和彦 教授 時間 13:30~14:30

ビットコインに代表される「仮想通貨」が大きな社会問題になっています。ニュース等では、仮想通貨の不正取引や相場の乱高下などが大きな話題になりますが、そもそも仮想通貨とは何なのか、従来の「お金」とはどこが違うのか、等を、金融論の基礎を踏まえてわかりやすく解説するとともに、ネット社会における「お金」のあり方を改めて考えてみたいと思います。



### 宗教改革から500年 欧州の精神文化を古典から学ぶ

講師 山本 裕 教授 時間 14:40~15:40

欧州の歴史を概観して、はじめて資本主義が開いた精神文化を古典を紐解きながら、わかりやすく解説します。大学で、なぜ、リベラルアーツ(一般教養)が必要とされるかについても考えます。

## 情報システム 学科

# 6/23

土曜日

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



### 暮らしに活かす色彩学 ～色とヒトの不思議な関係～

講師 片山 徹也 准教授 時間 13:30~14:30

私たちは様々な「色」に囲まれて生活しています。身近な存在である「色」とは何か？錯覚や錯視を引き起こす不思議な画像を体験してもらいながら、光と色、色が現れるしくみ、私たちが色を感じるメカニズムをわかりやすく解説します。そして、色彩が私たちの心身に及ぼす影響を踏まえ、機能性や快適性を高めるための色づかいを紹介します。



### 自覚しにくい聴力の衰え ～耳のしくみと音の聴こえ方～

講師 藤沢 望 講師 時間 14:40~15:40

最近、音が聴こえにくいと感じたことはありますか？年齢を重ねると、身体や眼と同じく耳(聴力)も衰えてきますが、それを自覚している人は多くありません。また最近では、若い人でも大きな音で音楽などを聴くことによって、耳に過大な負担をかけてしまっている場合もあります。一方、日常生活での音の聴こえにくさには、聴き方や環境に問題がある場合もあり、必ずしも聴力の衰えだけが原因ではありません。本講座では、耳のしくみと音の特性を簡単に解説しながら、日常生活での音の聴こえ方や音を聴きやすくするちょっとした工夫などをお話しします。

## 栄養健康学科

# 7/7

土曜日

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



### 糖尿病の治療と予防

講師 森田 茂樹 教授 時間 13:30~14:30

「高血糖は毒物」。糖尿病は血液中の糖(血糖)が多くなり、尿にあふれ出る病気です。血糖が多くなる理由は、糖を処理する能力が低い体質の人では糖が細胞内に入れずに血液中に溜まるためです。細胞が利用できなかった高血糖は栄養源ではなく、体に害を及ぼす毒物となってしまうため、血糖を下げる治療が必要になります。一方、御自身の体質に見合った生活習慣を身につければ、多くの場合、予防が可能です。



### わが国の震災から学ぶ 災害後の健康と食事

講師 湯浅 正洋 助教 時間 14:40~15:40

わが国では、熊本地震(2016年)や東日本大震災(2011年)など、震災をはじめとした災害が多く、たびたび話題になっています。「九州は地震が起らない」というイメージも否定されており、長崎県においても災害への備えが重要であると考えられます。そこで、わが国の震災を事例として、災害後の健康・食事に関する問題を考えてみます。

## 国際社会学科

# 7/28

土曜日

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



### 習近平の新時代における 中国の現状と展望

講師 祁 建民 教授 時間 13:30~14:30

2017年10月に開催された第19回党大会にて「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」という言葉が党規約の行動指針に盛り込まれ、習近平総書記2期目の新体制がより強固となりました。習政権は「ややゆとりある社会」の全面達成を目標とする一方、金融などの重大なリスク、貧富格差、環境問題なども抱えています。講師は実地調査に基づきその全貌を解説します。



### 人、物、金のつながりから見る 日本と中国の関係

講師 鈴木 暁彦 教授 時間 14:40~15:40

新聞やテレビで中国に関するニュースをよく見ますが、そもそも中国はどうなっているのか、よくわからない印象があります。日本の将来にも大きな影響を与えそうな中国をどう考えればよいのか。人、物、金のつながりから中国と日本の関係を見つめ直し、これからの日中関係を考える材料を提供したいと思います。

平成30年度  
長崎県立大学

## 第2部

## 公開講座

9月15日  
SAT

情報セキュリティ学科

【主会場】シーボルト校  
【遠隔会場】佐世保校数学の未解決問題で  
楽しみましょう

永野 哲也 教授

明るい暗号のお話  
～プライバシーの時代～

穴田 啓晃 教授

9月29日  
SAT

公共政策学科

【主会場】佐世保校  
【遠隔会場】シーボルト校・新上五島町

歩いて見つけた地域の宝

西村 千尋 教授

これからの地方自治  
～ガバメントからガバナンスへ～

黒木 誉之 准教授

9月22日  
SAT

看護学科

【主会場】シーボルト校  
【遠隔会場】佐世保校

生と死について考える

～身内・友人の看取り、  
自己の病気を通して考える～

中村 鈴子 特任教授

精神疾患を抱えながら子育てを  
している人への子育て支援  
～訪問看護師への調査を通じた検討～

堂下 陽子 講師

10月13日  
SAT

実践経済学科

【主会場】佐世保校  
【遠隔会場】シーボルト校ダーウィンはどうして  
マルサス人口論を読んだのか

柳田 芳伸 教授

忘れられた近代長崎の偉人  
杉亨二(すぎこうじ)

菅 宜紀 教授

参加無料 / 申込不要

どなたでも参加できます

土曜日開催

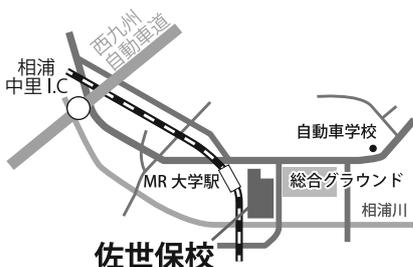
13:30～15:40

(1講座60分 前半 13:30～14:30  
後半 14:40～15:40)

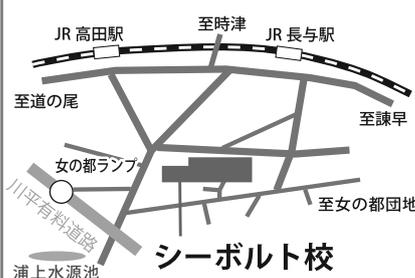
※この公開講座は、ながさき県民大学の連携講座となっております。

会場  
案内

佐世保校

新館講義棟1階504教室  
佐世保市川下町123無料  
駐車場  
あり

シーボルト校

中央棟1階M103講義室  
西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

新上五島町

鯨賓館活動支援室  
南松浦郡新上五島町有川郷578-36遠隔会場には主会場からテレビ授業  
システムにより映像を配信します。本学の様々な情報は  
WEBでご覧いただけます。

ホームページ

Facebook



お問合せ

長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

佐世保校 &lt;企画広報課&gt; TEL 0956-47-5856

シーボルト校 &lt;総務企画課&gt; TEL 095-813-5500

【主催】長崎県立大学

【後援】長崎県教育委員会、佐世保市、長与町、新上五島町

情報セキュリティ  
学科

9/15

土曜日

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



## 数学の未解決問題で 楽しみましょう

講師 永野 哲也 教授 時間 13:30~14:30

近年、数学史に残る未解決問題の解決が報告されています。講演では古代からの未解決問題（現在では解決済み）、最近解決された問題、そして未だに解けていない問題を紹介します。人々がどのようにして解を導いたのか、具体的な解の形などを逸話を交えながらお話しします。



## 明るい暗号のお話 ～プライバシーの時代～

講師 穴田 啓晃 教授 時間 14:40~15:40

戦争の歴史と共に発達した暗号技術は、インターネットとスマートフォンの普及と共に私たちの生活の明るい立役者となりました。本講座ではその発達を追い、1970年代の公開鍵暗号の発明で転換した状況を見ます。更に、若者たちの間で SNS が急速に浸透し問題となっているプライバシーの面に焦点を当て、明るい暗号に何が出来るかの見直しをお話します。

看護学科

9/22

土曜日

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



## 生と死について考える

～身内・友人の看取り、自己の病気を通して考える～

講師 中村 鈴子 特任教授 時間 13:30~14:30

近年、新聞やテレビ等で人生の最後の後始末(終活)、エンディングノート等が取り上げられ、人間の死について考える機会が多くなりました。一方でガンで亡くなる方々が増加し、ターミナルケア(終末期看護)、緩和ケア等と多くの医療用語が使用されるようになりました。緩和ケアとは、自己の経験を通して看取ること、自己の病気体験を通して「生と死」について考えたこと、医療者に望むことについてお話します。



## 精神疾患を抱えながら子育てを している人への子育て支援

～訪問看護師への調査を通じた検討～

講師 堂下 陽子 講師 時間 14:40~15:40

2011年厚生労働省は精神疾患を政策上重要な5大疾患の1つとして位置づけ、医療計画の中で重点的に取り組まれることになりました。また医療機関にかかっている精神疾患患者数は約390万人と5大疾患の中で最も多く、私達に身近な疾患です。本講座ではそのような身近な疾患を抱えながら子育てをしている人の子育て支援について訪問看護の視点からお伝えします。

公共政策学科

9/29

土曜日

【主会場】  
佐世保校

【遠隔会場】  
シーボルト校  
新上五島町



## 歩いて見つけた地域の宝

講師 西村 千尋 教授 時間 13:30~14:30

たまにはゆっくり歩いてみましょう。気づかなかった地域の宝が見えてくるかもしれません。自然、歴史、文化などいろいろありますが、何よりも大切な宝は、そこに住むみなさんの生き生きとした姿ではないでしょうか。長崎県内での取り組みに加え、故郷である鹿児島県の奄美群島でのチャレンジも紹介します。



## これからの地方自治

～ガバメントからガバナンスへ～

講師 黒木 誉之 准教授 時間 14:40~15:40

地方自治という言葉を見たとき、その主体としてみずい浮かぶのは市町村等の自治体でしょう。しかし、社会の変容とともにボランティア、NPOなどの活躍が目立っています。そこで、これからのポスト成長時代における地方自治の在り方について、「自治」「ガバナンス」「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードにお話しします。

実践経済学科

10/13

土曜日

【主会場】  
佐世保校

【遠隔会場】  
シーボルト校



## ダーウィンはどうして マルサス人口論を読んだのか

講師 柳田 芳伸 教授 時間 13:30~14:30

ダーウィンは『自叙伝』の中で、「1838年10月、私はたまたま、ただ楽しむのためにマルサスの『人口論』を読んだ」と記している。これは本当だったであろうか。本講演では、ダーウィンの前半生を辿りながらその真偽のほどに迫ってみたい。



## 忘れられた近代長崎の偉人 杉亨二(すぎこうじ)

講師 菅 宜紀 教授 時間 14:40~15:40

幕末長崎に生まれた杉亨二は、緒方洪庵の適塾で蘭学を学び、明治維新後は太政官正院初代政表課長などを務め、初めて公式統計書を刊行し、山梨県で近代的人口調査を実施するなど政府統計の発展に寄与し、多くの弟子も育てて明治時代日本統計学の開祖とされています。彼の業績の一端をたどりま。

# 学術講演会

会場

佐世保校:新館講義棟2階505教室  
シーボルト校:中央棟1階M103講義室

講演時間

13:30~15:00

参加無料 / 申込不要  
どなたでも参加できます

10月6日(土)

主会場 佐世保校  
遠隔会場 シーボルト校



インバウンド急増で、  
日本はどうなるのか?

講師 本保 芳明氏

国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所代表  
観光庁参与  
首都大学東京客員教授

12月8日(土)

主会場 シーボルト校  
遠隔会場 佐世保校



IoTとはなにか

講師 丹 康雄氏

北陸先端科学技術大学院大学 学長補佐  
先端科学技術研究科 教授

12月15日(土)

主会場 シーボルト校  
遠隔会場 佐世保校



コミュニケーション  
ロボットも一緒に  
生活する時代へ

~何ができるのか、どう変わるのか~

講師 坂田 信裕氏

獨協医科大学 情報教育部門 教授  
情報教育センター センター長

会場案内

無料  
駐車場  
あり

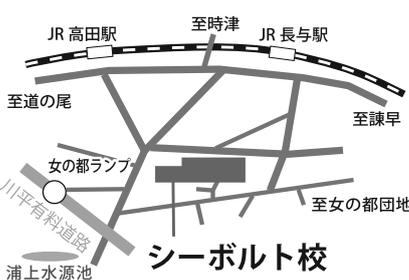
## 佐世保校

新館講義棟2階505教室  
佐世保市川下町123



## シーボルト校

中央棟1階M103講義室  
西彼杵郡長与町まなび野1-1-1



遠隔会場には主会場からテレビ授業  
システムにより映像を配信します。

本学の様々な情報は  
WEBでご覧いただけます。

ホームページ



Facebook



お問合せ



佐世保校 &lt;企画広報課&gt; TEL 0956-47-5856

シーボルト校 &lt;総務企画課&gt; TEL 095-813-5500

## 10/6

土曜日

講演時間 13:30~15:00

【主会場】  
佐世保校

【遠隔会場】  
シーボルト校



## インバウンド急増で、日本はどうか？

2003年1月、小泉総理大臣によって「観光立国宣言」が出され、観光政策が国づくりの柱に据えられました。2008年10月には、その担当機関として観光庁が創設され、インバウンド（訪日観光客）を飛躍的に増大させることを主要な政策目標に掲げて、着実に成果を上げています。そのような中、日本はどうか、ここ長崎に暮らす人々にはどのような未来がやって来ようとしているのか、分かりやすくお話しさせていただきます。

講師／本保 芳明氏

国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所代表  
観光庁参与  
首都大学東京客員教授

【略歴】

1974年東京工業大学大学院社会工学専攻修了、運輸省入省。1988年OECD日本代表部一等書記官。1997年運輸政策局観光企画課長。2001年国土交通省大臣官房審議官。2003年日本郵政公社理事。2008年初代観光庁長官に就任。2010年国土交通省退職、首都大学東京教授。2013年UNWTO世界観光倫理委員会委員。2014年観光庁参与。

## 12/8

土曜日

講演時間 13:30~15:00

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



## IoTとはなにか

IoTという言葉は既に世の中に定着しているようにみえますが、その意味するところを適切に理解している方は多くないようです。本講演では、現在IoTと呼ばれているものは情報システムの進化上必然的に現れてくる歴史的ステップであり、AIやビッグデータとも関連して今後人類の生活に大きな影響を与えるものであることを解説します。

講師／丹 康雄氏

北陸先端科学技術大学院大学 学長補佐  
先端科学技術研究科 教授

【略歴】

1993年東京工業大学博士後期課程修了。同年北陸先端科学技術大学院大学助手、同助教授を経て2007年より教授。総務省の研究所である情報通信研究機構を2004年より併任。スマートホーム分野を中心に、IoTに関する研究開発、教育、国際標準化に従事。総務省情報通信審議会電気通信システム委員会座長、エコーネットコンソーシアムフェロー等をつとめる。

## 12/15

土曜日

講演時間 13:30~15:00

【主会場】  
シーボルト校

【遠隔会場】  
佐世保校



## コミュニケーションロボットも一緒に生活する時代へ ～何ができるのか、どう変わるのか～

人工知能やロボット、IoT、VRなどの新たなテクノロジーの話題を毎日のようにニュースで見かけるようになってきました。その一つであるコミュニケーションロボットも、一般生活の中へ入り始めており、医療や介護領域などにおいても活用が期待されています。今回、コミュニケーションロボットの面白さや活用事例などをご紹介します。今後、生活の中でどのように役立つことができるのかを一緒に考える機会になればと思っています。

講師／坂田 信裕氏

獨協医科大学 情報教育部門 教授  
情報教育センター センター長

【略歴】

1982年北里大学衛生学部卒。防衛医科大学校、コロンビア大学、ミズーリ大学、ワシントン大学、信州大学医学部附属病院等を経て、2010年に獨協医科大学へ。2013年から現職。第6回インターネット活用教育実践コンクール 内閣総理大臣賞(2006年)、第8回日本e-Learning大賞 奨励賞(2011年)等を受賞。最近ではコミュニケーションロボットの教育、医療・介護等における活用研究に従事。



## 文部科学省 「セキュリティ・プロ人材育成短期集中プログラム（enPiT-pro）」 受講生募集中

### 概要

——成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（enPiT）——

本プログラムは、文部科学省「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」の一環として情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成機能を強化するため、本学の先進的な設備と、産学協働による実践的な教育を提供するものです。

### 募集要項

長崎県立大学が開講するコースの募集要項は次の通りです：

- メインコース（体系的な120時間超の教育を実施）  
2019年度前期メインコース募集要項
- ハーフコース（特定テーマの演習・講義で構成）  
2019年度前期ハーフコース募集要項

出願資格認定申請の様式は、次を用いてください：

- 出願資格認定申請書（様式）
- 出願資格認定申請書記入例

出願書類のうち、科目等履修生入学願書と履歴書の様式は、次を用いて下さい：

- 願書および記載例
- 履歴書様式

### シラバス

- 情報理論的安全暗号
- 計算量安全暗号
- データセキュリティ
- SMBセキュリティ対策の理論と実践

### お問い合わせ

長崎県立大学 情報システム学部情報セキュリティ学科（ProSec事務局）

〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1

Email: [sunprosec@sun.ac.jp](mailto:sunprosec@sun.ac.jp)

関連リンク

[Basic SecCap](#)

(学部生向け)

[enPiT Pro Security](#)

(拠点サイト)

[成長分野を支える](#)

[情報人材育成拠点の形成](#)

(文科省サイト)

## 「セキュリティ・プロ人材育成短期集中プログラム（enPiT-pro）」修了式を行いました

平成31年3月20日（水）、シーボルト校にて、「セキュリティ・プロ人材育成短期集中プログラム（enPiT-pro）」修了式を行いました。

このプログラムは、全国7大学（院）が連携した文部科学省「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」の一環として情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成機能を強化するため、社会人を対象に、本学の先進的な設備と、産学協働による実践的な教育を提供しているものです。

修了式では、教員から担当講義の概要について説明があり、その後受講生より本プログラムの感想が述べられ、一人一人に修了証が手渡されました。

今回受講された方からは、「実践的な演習ができて大変有意義であった。」「新たな脅威に対するセキュリティ対策を聞くことができて大変参考になった。」などの感想をいただきました。



本プログラムで得たことを活かして、受講生の方々がそれぞれの職場でさらにご活躍されることを期待いたします。

教員の年齢・性別構成
------------

平成30年5月1日現在

		教授	准教授	講師	助教	特任教員	合計
29歳以下	男性	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	1	0	2
30～39歳	男性	0	2	9	1	1	13
	女性	0	0	2	3	0	5
40～49歳	男性	9	14	5	1	3	32
	女性	1	6	6	1	1	15
50～59歳	男性	30	8	1	0	0	39
	女性	5	2	2	1	1	11
60～69歳	男性	19	2	0	0	4	25
	女性	6	0	0	0	2	8
70～79歳	男性	0	0	0	0	1	1
	女性	0	0	0	0	0	0
男性計		58	26	15	2	9	110
女性計		12	8	11	6	4	41
合計		70	34	26	8	13	151

## 長崎県公立大学法人修学支援基金

[趣意書](#) [基金概要](#) [寄附の流れ](#) [税制上の優遇措置](#)

### 趣意書

平素より長崎県立大学の教育研究活動に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本法人が運営する長崎県立大学は、長崎県や我が国の発展のため「地域に根ざし、地域に学び、県民とともに地域の活性化に取り組む」ことを通じて、人間を尊重し、平和を希求する精神や高い知性を備えた、創造性豊かな人材育成に日々取り組んでおります。

さて、この度、本学学生の生活実態調査を行いましたところ、学生の多くが経済的に困窮しており、生活費を稼ぐためにアルバイトに費やす時間も多く、勉学に集中できていないことが判明しました。

このような状況に鑑み、経済的理由により修学が特に困難な学生を支援することを目的として「長崎県公立大学法人修学支援基金」を創設いたしました。

本基金の充実につきましても、本法人としましても、精一杯の自助努力を行いますが、学内外の多くの方々にご寄付をお願いし、皆様とともに、長崎県や我が国にとって有為な人材を育成してまいりたいと考えております。

是非とも本基金の趣旨をご理解いただき、温かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成29年11月  
長崎県公立大学法人  
理事長 稲永 忍

### 基金概要

#### 目的

本学学生のうち経済的理由で修学が困難となっている学生を対象に寄附により積み立てた基金を財源とした学生への経済的支援事業等を行っていくことを目的としています。

#### 実施する事業（予定）

- ◎奨学金事業  
(授業料減免事業等の学生の修学支援に関する事業含)

#### 寄附金の額

##### 個人の方

1口3千円

何口でもお申込みいただけます。

##### 法人の方

金額の定めはございません。

#### 個人情報の取り扱い

寄附者の個人情報（氏名、住所、電話番号）については、本法人規程に基づき適切に管理し、寄附手続の目的以外に、本人の同意なく使用し又は第三者へ提供することはありません。

#### 関連規程

[長崎県公立大学法人修学支援基金 \(168.7 kB\)](#)

問い合わせ先  
長崎県公立大学法人総務課財務グループ  
〒858-8580  
佐世保市川下町123番地1  
電話：0956-47-2191  
FAX：0956-47-6941  
E-mail：[zaimu-g@sun.ac.jp](mailto:zaimu-g@sun.ac.jp)

## 寄附の流れ

お手順をお掛けし恐れ入りますが、「寄附金申込書 兼 振込依頼書」をダウンロードしていただき、最寄りの金融機関にて寄附金のご納入をお願いいたします。

また、「寄附申込書」作成の上、現金を法人本部へお持ちいただいてもありがたくお受けいたします。

なお、寄附申込書及び寄附金額の確認後、領収書を発行・送付いたします。

※払込料金、振込手数料は寄附者にてご負担願います。

### 【振込用】

- ・寄附申込書兼振込依頼書 (272.9 kB)

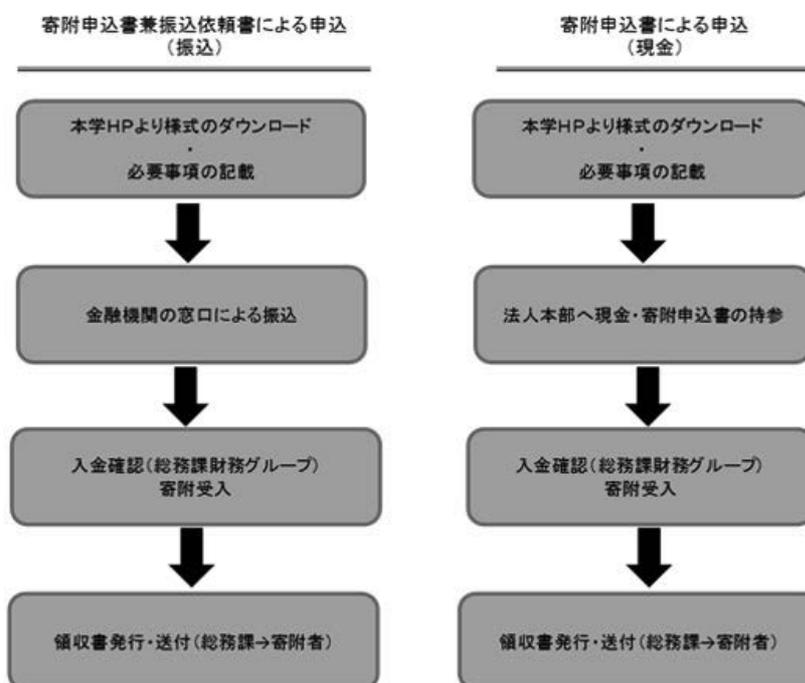
### 【現金用】

- ・寄附申込書 (100.5 kB)

### 【参考】

- ・【記入例】寄附申込書兼振込依頼書（振込用） (294.1 kB)

(手続きの流れ)



## 税制上の優遇措置

長崎県公立大学法人へのご寄附につきましては、個人、法人それぞれ税制上の優遇措置を受けることができます。

詳細は[こちら](#)

## ○用語概説

	用語	解説
ア行	IR	Institutional Research（インスティトゥーショナル・リサーチ）の頭文字。 教育研究・経営・財務情報など、大学の諸活動に関する情報を収集・分析することで、学内の意思決定や改善活動の支援、外部に対する説明責任を果たす活動。
	アカウントティングコース	会計、簿記、税法等に関する専門的職業人を育成するための専門コース。経済・経営に関する幅広い知識に加えて会計分野の高度な専門知識を学ぶ。
	アクティブラーニング	教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。
	アセスメント・ポリシー	学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。
	アドミッション・ポリシー	入学者受入方針。 各大学・学部等が、その教育理念や特色等を踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。 入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。
	インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
	e-learning	電子ネットワークなどを利用した教育、研修。 WBT(Web Based Training)やdistance learningとも呼ばれる。
	AO入試	AO入試：アドミッション・オフィス入試。 アドミッションポリシー（大学が求める学生像）に基づき、学力では量れない受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識などを多面的、総合的に評価し判定する入試。
	SD	Staff Development（スタッフ・ディベロプメント）の頭文字。 事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。
	FD	Faculty Development(ファカルティー・ディベロプメント)の頭文字。 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。 具体例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法に関する研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
	FP（ファイナンシャル・プランニング）技能検定	顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談（ファイナンシャル・プランニング）に必要な技能に関する試験。レベルは1～3級までであり、2級はビジネスでは必須と言われるレベルで、金融業界を中心に企業ニーズも高く、昇格要件とされるケースもある。
	enPiT-pro	文部科学省が実施する「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（enPiT）」において、情報科学技術分野を中心とする体系的かつ高度で短期の実践教育プログラムを、産業界・複数大学の協働により開発・実施し、社会人学び直し機能の強化への貢献を目指す大学院改革の取り組み。本学においては、情報セキュリティ大学院大学、東北大学などと共同し、社会人向けの教育プログラムを提供している。

	用語	解説
力行	科学研究費補助金	人文・社会科学から自然科学まで、あらゆる分野における優れた独創的・先駆的な研究を発展させることを目的とする国庫の研究助成費。文部科学省、厚生労働省、日本学術振興会により審査・交付される。
	カリキュラム・ポリシー	教育課程編成・実施方針。ディプロマ・ポリシーで定めた学修内容を習得するためのカリキュラムを体系的に示したもの。
	カリキュラムマップ	履修系統図。学生に身につけさせる知識・能力と授業科目との間の対応関係を示し、体系的な履修を促す体系図。
	クォーター制	1学年複数学期制の授業形態。1年間の課程を4つの学期に分けて行う。少数の科目を集中的に履修することで、学習効果を高めることができる。また、海外大学の入学時期との調整が容易となり、留学生の派遣・受入が行いやすくなる。
	クロスアポイントメント制度	大学法人、研究開発法人、民間企業等が機関間でクロスアポイントメントに係る協定書等を締結することにより、職員がそれぞれの機関で「常勤職員」としての身分を有し、それぞれの機関の責任の下、必要な従事比率（エフォート）で業務を行うもの。
サ行	COC+	文部科学省が実施する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」。大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする。本学においては、長崎大学を中心に、『若者が輝く、若者で輝く長崎創生～地方創生人材学士プログラム～』として実施している。
	シーズ	大学がもつ「技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備」などを指す。
	「しまなび」プログラム	島嶼県である長崎県の特徴を活かし、また長崎県の公立大学として「しま」を第3のキャンパスとして位置づけ、学生を在学期間中（4年間）に最低一度は「しま」を訪問させ、現地の生活や人との交わりの中で、実践的な学習を体験させる本学独自のプログラム。
	就業力	学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力。
	情報処理技術者試験	情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験。試験区分はレベル1（ITパスポート）、レベル2（基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験）、レベル3（応用情報技術者試験）、レベル4として、情報処理安全確保支援士試験など14分野の試験がある。
	シラバス	各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回毎の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等をすすめるための基本となるもの。

	用語	解説
サ行	税理士試験	税理士となるのに必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定することを目的として行われる国家試験。会計学に属する科目（簿記論及び財務諸表論）の2科目と税法に属する科目（所得税法、法人税法、相続税法、消費税法又は酒税法、国税徴収法、住民税又は事業税、固定資産税）のうち受験者の選択する3科目について行われ、1科目ずつの受験が可能。合格基準は、各科目とも満点の60パーセントとなっている。
	全経簿記能力検定	全国経理教育協会が実施する、簿記能力・経理能力に関する検定。上級の合格者には、税理士試験受験資格が与えられる。
	ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）	人と人とのつながりを促進・サポートする、「コミュニティ型の会員制のサービス」。Facebook、LINE、Twitterなど、多数のサービスがある。
タ行	中国語検定	日本中国語検定協会が実施する中国語能力の検定試験で、1級から準4級までの6段階で試験が行われている。 2級の認定基準は、複文を含むやや高度の中国語の文章を読み、3級程度の文章を書くことができ、日常的な話題での中国語による会話が行えること。 3級の認定基準は、中国語の一般的事項をマスターしていて、簡単な日常会話ができ、基本的な文章を読み、書くことができること。
	チューター制	在学生、教員等が学生に対して、学習、生活上の精神的サポートとして、支援、助言を個別に行う制度。主に外国人留学生に対して個別の課外授業を行うなど、留学生の学習、研究効果の向上を図る制度。
	長期履修学生制度	職業を有しているなどの個人の事情に応じて、大学の定めるところにより、学生が大学の修業年限を超えた一定の期間にわたって計画的に教育課程を履修し卒業することを認められる制度。平成14年度から実施。
	ディプロマ・ポリシー	学位授与方針。 卒業時に学生が獲得すべき能力や態度、知識などを示したもの。
	TOEIC	英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、10～990点までのスコアで評価をするもの。一般に、730点以上で、どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているとされる。
ナ行	長崎県立大学やるばいプロジェクト	本学や地域の活性化につながる学生の自主的な活動を促すことを目的に平成19年度に創設した学生支援制度。採択プロジェクトに対しては奨励金を助成している。
	ナンバリング	授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。
	日経TEST	日本経済新聞社と日本経済研究センターが主催・運営する四肢択一のマークシート式・全100問の試験。経済知力を構成する「知識」と「考える力（知力）」の2つを総合した「ビジネスの基礎力」を客観的に測り、診断するテスト。最高得点1000点のスコアで評価するもの。

	用語	解説
ナ行	日商簿記検定	日本商工会議所が実施する簿記に関する技能検定。初級から1級の4段階で試験が実施される。2級は経営管理に役立つ知識として、最も企業に求められる資格の一つと言われている。1級は公認会計士、税理士などの国家資格への登竜門と言われ、合格すると税理士試験の受験資格が得られる。
	ニュース時事能力検定	新聞やテレビのニュース報道を読み解き、活用する力(時事力)を養い、認定する検定。五つの分野(政治、経済、暮らし、社会・環境、国際)からバランスよく出題され、総合的な時事力を測る。1級から5級(準2級含む)の6段階で試験が実施される。
ハ行	ハラスメント	様々な場面での嫌がらせ・いじめのこと。他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えること。
	販売士検定	販売員としての素養やサービス向上を目的に日本商工会議所が実施する検定試験。レベルは1～3級まであり、2級は売場の管理者クラスのレベルで、店舗管理に不可欠な従業員の育成や指導、仕入や在庫の管理といった知識が必要。
	ピアレビュー(学生)	学生同士が相互に評価を行うこと。「しまなび」においては、グループワークにおける貢献度等について点数化して相互評価を行い、成績評価に反映させた。
ラ行	リサーチアシスタント	大学教員の研究補助者として雇用されるもので、雇用された大学院学生の給与と授業料などの経費が支給される。学生の研究補助事業に対する対価として支払われるもの。
	ルーブリック	学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したもの。学習結果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて記述して、学習の達成度を判断する基準を示す教育評価法。